

JSCE2025 現状分析WG 報告

2025.6

土木学会 企画委員会 JSCE2025現状分析WG

Contents

- ① 現状分析WG検討項目・スケジュール
- ② 現状分析WGメンバー
- ③ 土木学会の実態把握
- ④ 組織活動実態把握アンケート調査
- ⑤ 土木学会に対する意識に関するアンケート調査
- ⑥ 現状分析WG内での議論まとめ
- ⑦ 現状分析WG提言まとめ

①現状分析WG検討項目 ・スケジュール

現状分析WG検討項目・スケジュール【実績】

実施概要

- ◆ JSCE2025策定に向け、土木学会の活動実績の現状を学会組織へのアンケート調査を中心に把握する
- ◆ 土木学会の実態把握及びアンケート調査結果を踏まえた上で、現状における課題の抽出、解決の方向性を整理し企画委員会に提示する

実施内容

- ◆ 学会全体の会員実態、経営状態の把握
- ◆ 現状の学会組織体制、委員会等の組織構成の把握
- ◆ 各組織に参加する参画する人員構成の把握
- ◆ アンケート調査
 - ✓土木学会の委員会等組織活動実態把握調査
 - ✓土木学会に対する意識調査（関係者向け、一般向け）

全体スケジュール

	2023年度				2024年度												2025年度			
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
理事会・企画委員会	▼企画委員会(12/1)			▼企画委員会(3/6)		▼企画委員会(5/30)			▼企画委員会(8/20)		▼企画委員会(10/23)		▼企画委員会(1/8)		▽理事会(3/14) ▼企画委員会(3/10)		▽理事会(5/16) ▼企画委員会(4/28)			
現状分析WG	▼第1回WG (11/27)	▼第2回WG (1/18)			▼第3回WG (4/17)	▼第4回WG (5/22)		▼第5回WG (7/17)		▼第6回WG (9/27)		▼第7回WG (11/27)		▼第8回WG (1/24)		▼第9回WG (3/27)				
現状把握	会員実態、経営状態把握																			
文献整理	組織体制、委員会構成把握																			
アンケート調査	アンケート調査検討				組織実態調査		意識調査（関係者向け）		意識調査（一般向け）		フォアキャスト アプローチ									
課題の抽出							課題の抽出													
方向性整理									方向性整理▼											
素案作成													素案提案▼							
（別途）最終案作成																	JSCE2025素案		JSCE2025公表(5/29)▼	
（別途）将来展望WG					将来予想（社会経済、技術の動向把握）				並行して将来展望WGでも議論								バックキャスト アプローチ			

4

②現状分析WGメンバー

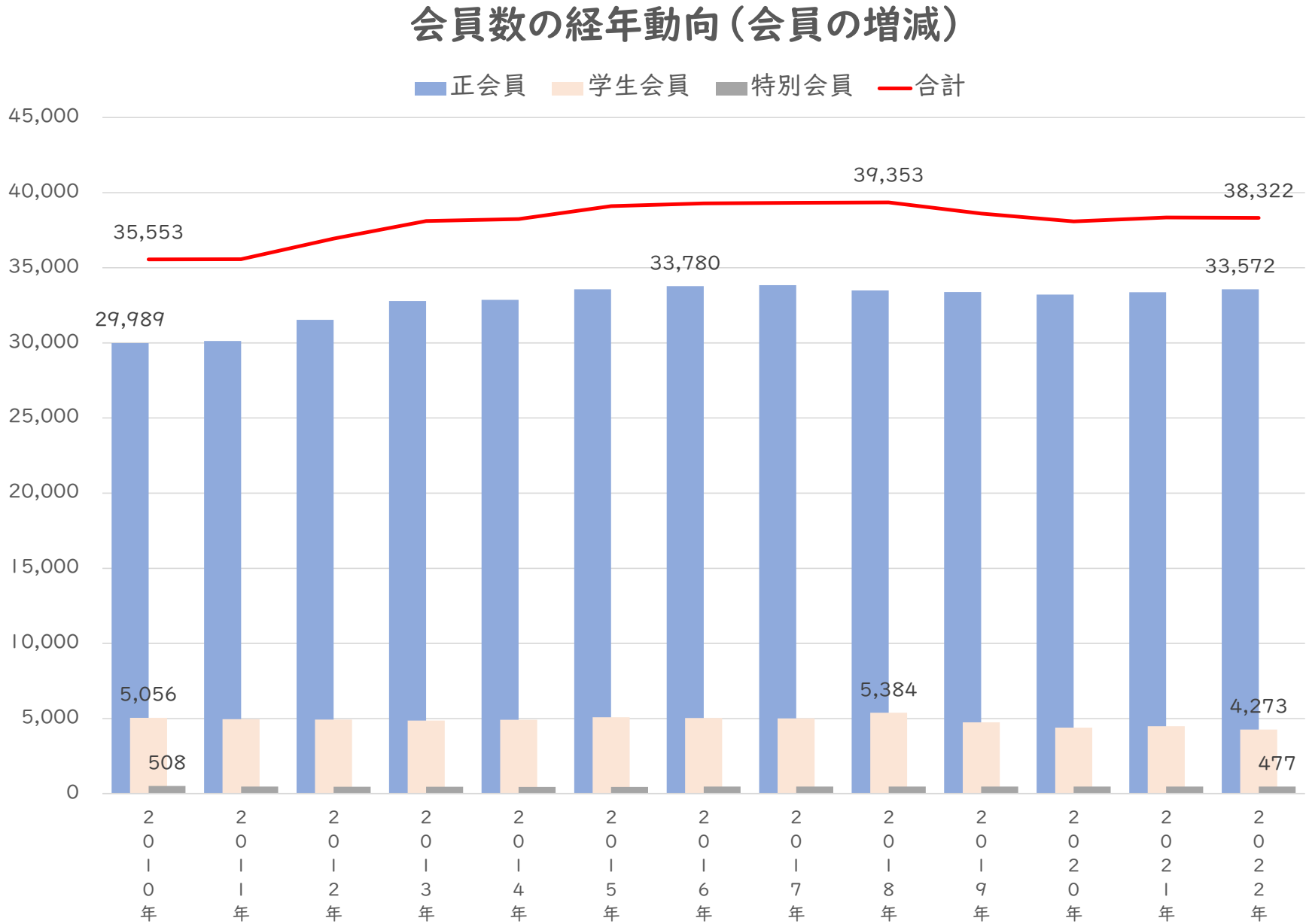
②現状分析WGメンバー (2025.06時点) (敬称略)

	氏名	所属	
(主査)	下大藺 浩	東日本旅客鉄道(株)	(事業者)
(主査補佐)	山後 宏樹	東日本旅客鉄道(株)	(事業者)
(副査)	清野 聡子	九州大学	(学)(支部)
(副査)	大原 美保	東京大学	(学)
(副査)	加藤 隆	大成建設(株)	(ゼネコン)2020PJ4人材
	中井 健太郎	名古屋大学	(学)
	秋山 成央	日本工営(株)	(コンサル)
	小柳 桂泉	JICA	(海外)
	本丸 哲也	NEXCO東日本	(事業者)
	玉石 宗生	国土交通省	(国交省)
	矢島 良紀	土木研究所	(研究所)研究企画課長
	吉見 雅行	産総研	(研究所)2020PJ1防災
	西里 雅範	沖縄県	
	小松 淳	日本工営ビジネスパートナーズ(株)	リエゾン:コミュニケーション部門/2020PJ3映像
	嵩 直人	鹿島建設(株)	リエゾン:技術推進機構
	井上 雅志	(株)エイト日本技術開発	リエゾン:国際部門
	谷 ちとせ	土木学会関西支部	(支部事務局)
	高野美和子	土木学会関東支部	(支部事務局)
	二瓶 貞洋	(公社)土木学会	(本部事務局:会員・企画課)
	中島 敬介	(公社)土木学会	(本部事務局:会員・企画課)
オブザーバー	福田 大輔	東京大学	企画委員会幹事長
	三輪 準二	(公社)土木学会	専務理事
	宮城 大助	中央復建コンサルタンツ(株)	2024年度会長プロジェクト

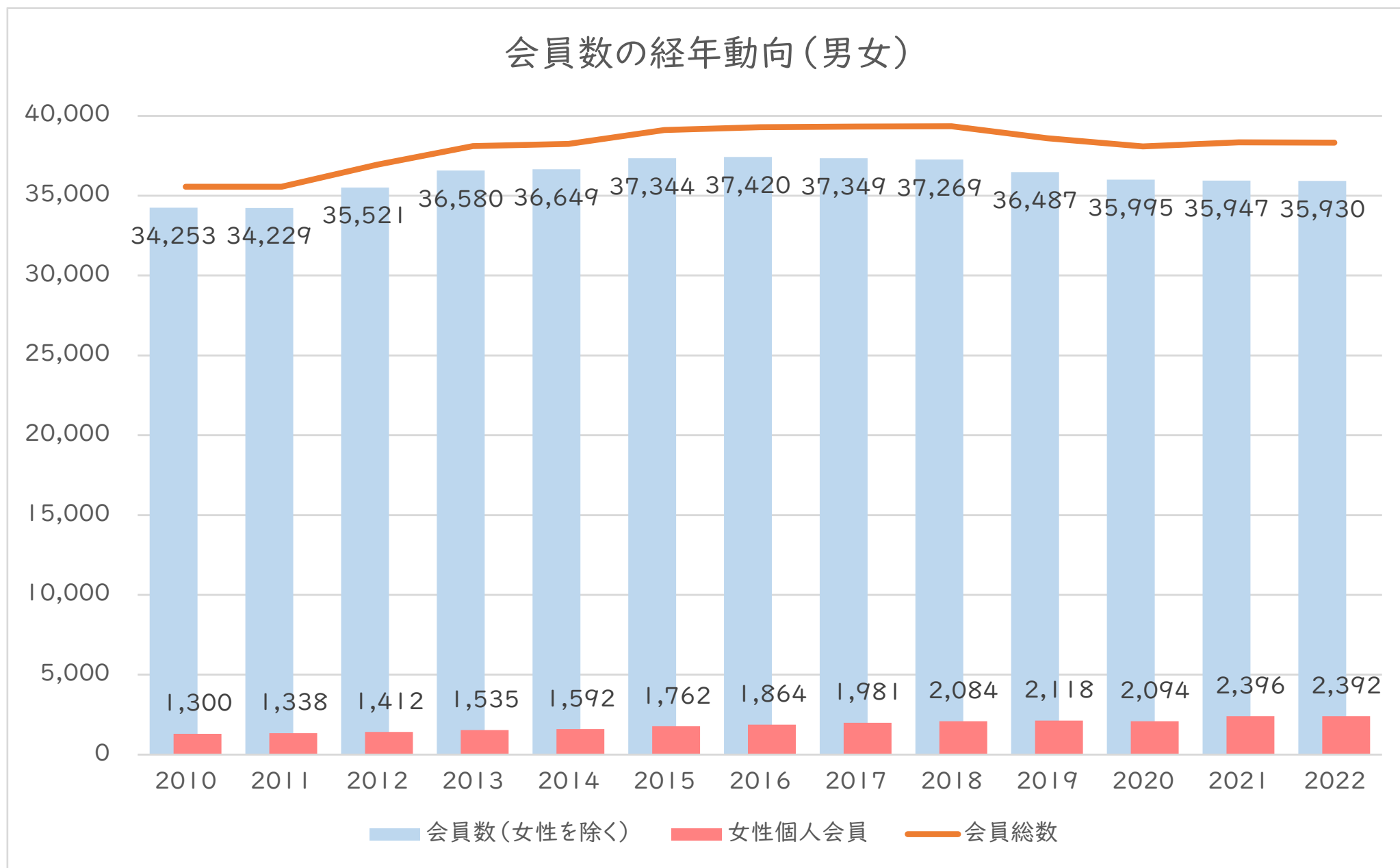
③土木学会の実態把握

結果の概要

会員数の経年動向（会員の増減）

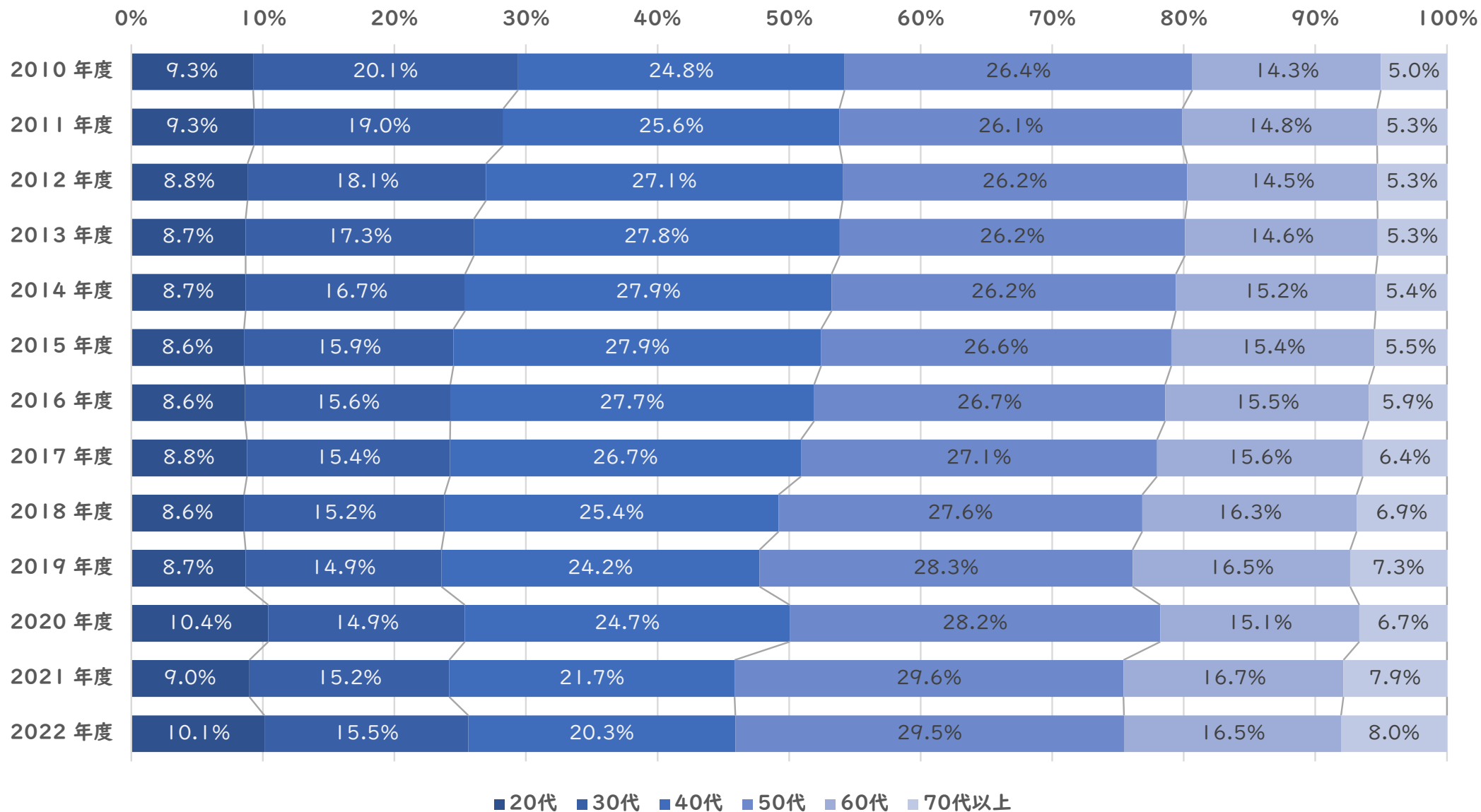


会員数の経年動向（男女）



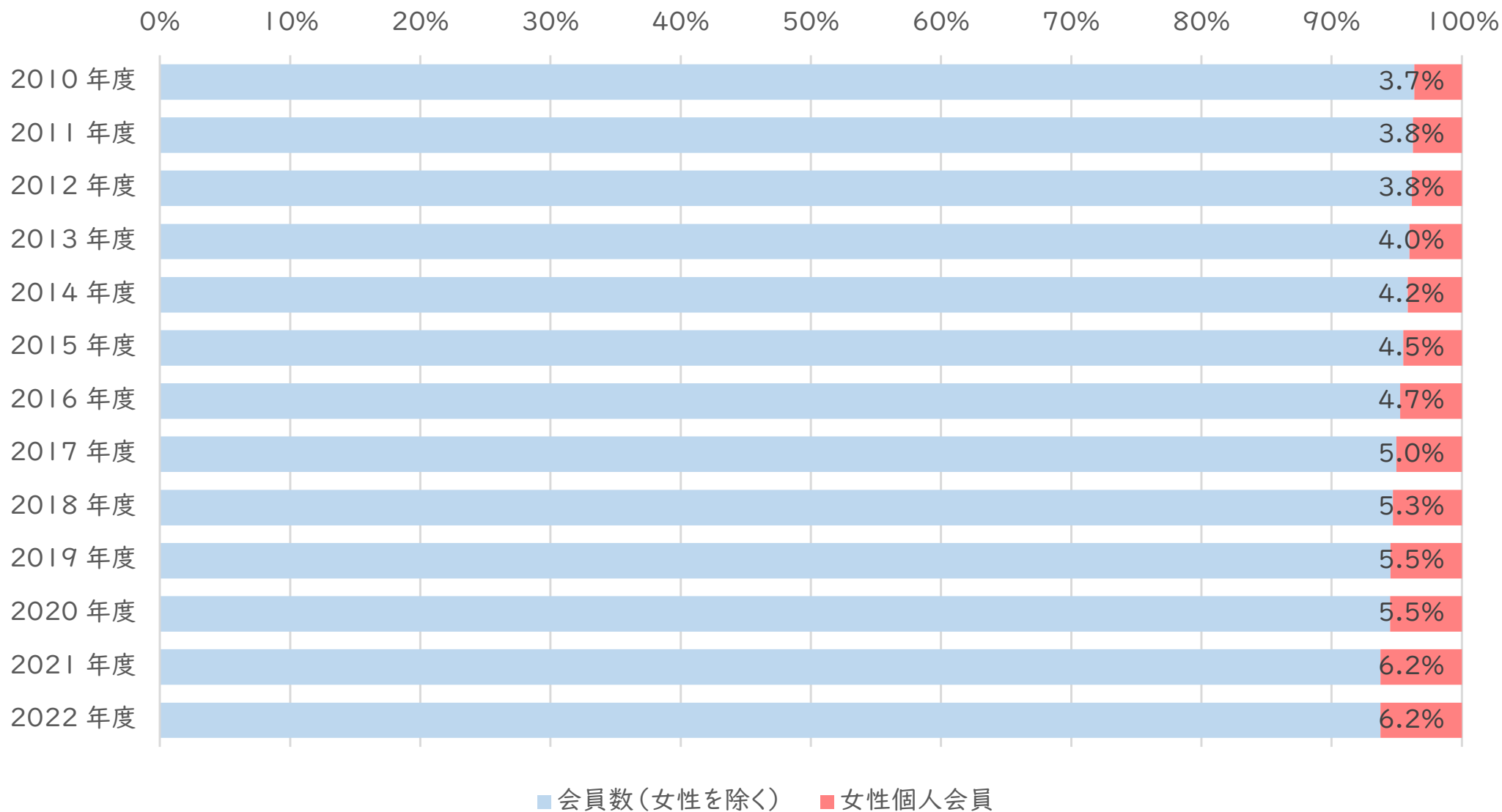
会員構成比の経年動向（年齢）

会員の経年動向（年齢構成比率）

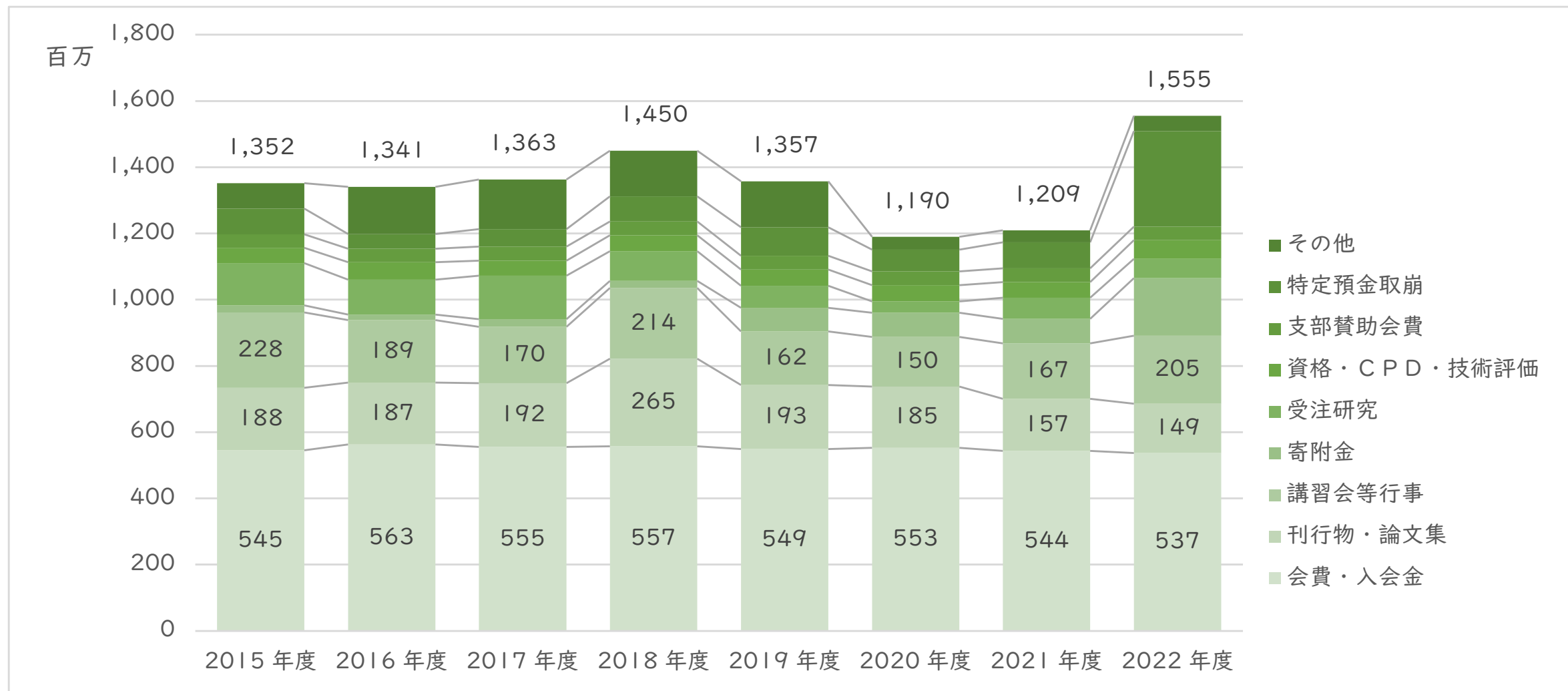


会員構成比の経年動向（年齢）

会員構成比の経年動向（男女）

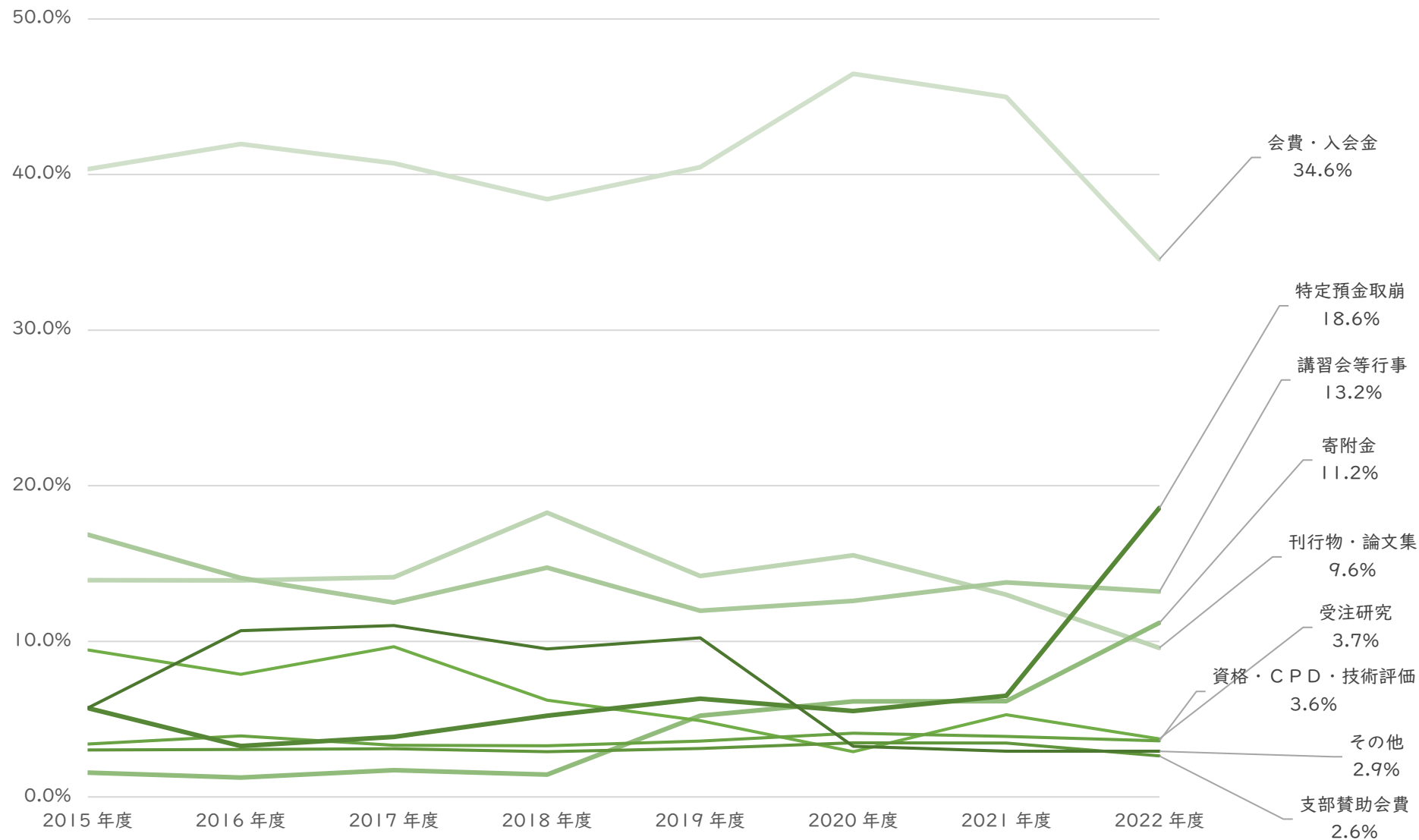


収入の経年動向（収入額）

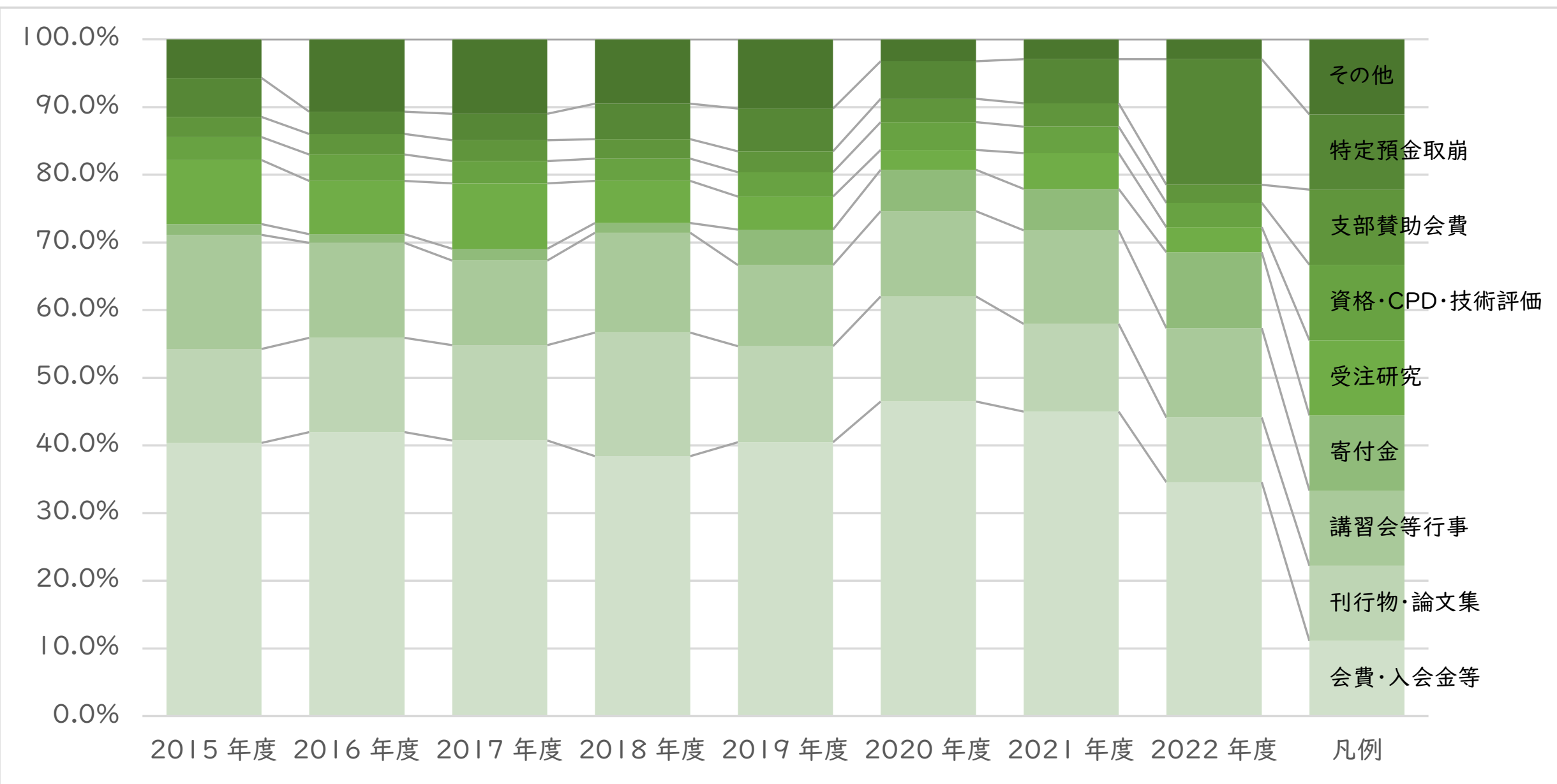


収入の経年動向（収入種類割合の変化）

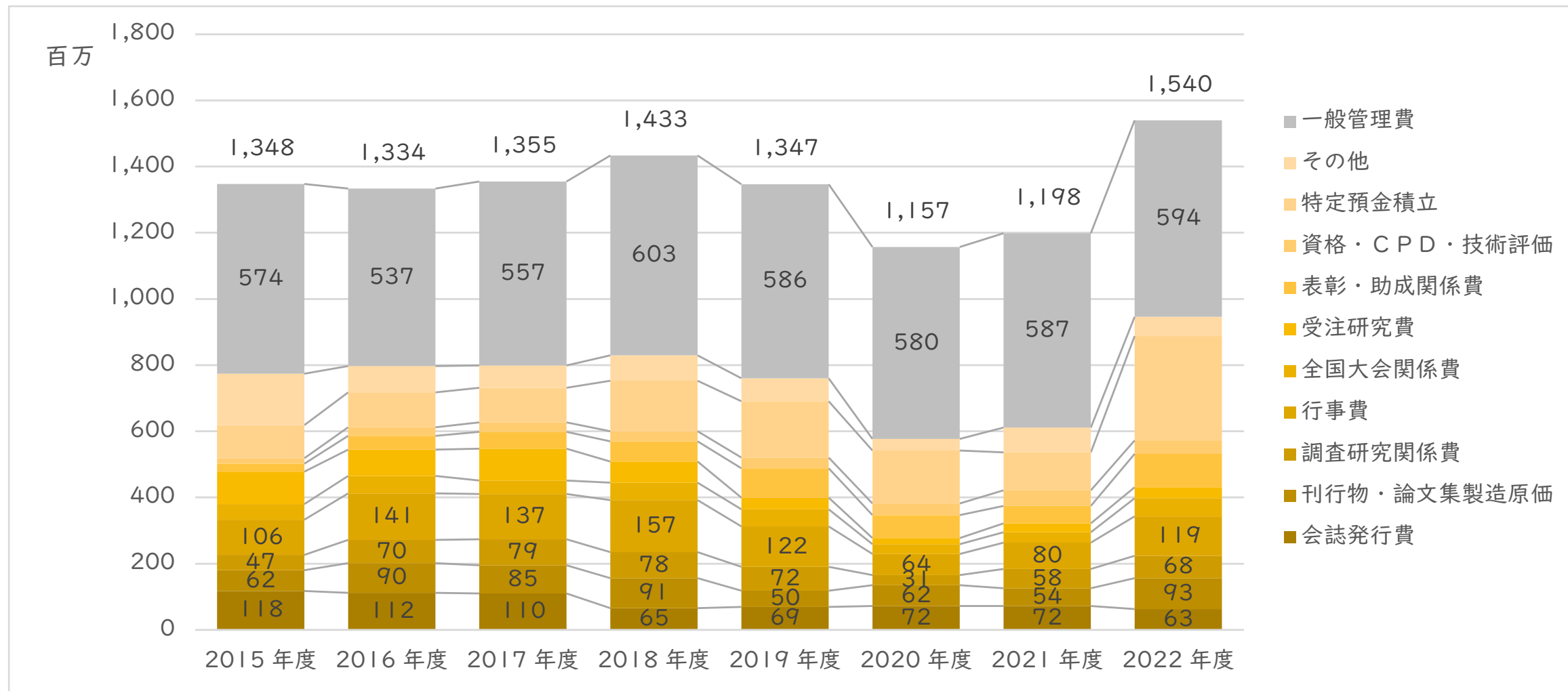
会費収入の経年動向（収入種類割合の変化）



収入の経年動向（収入種類割合の変化）

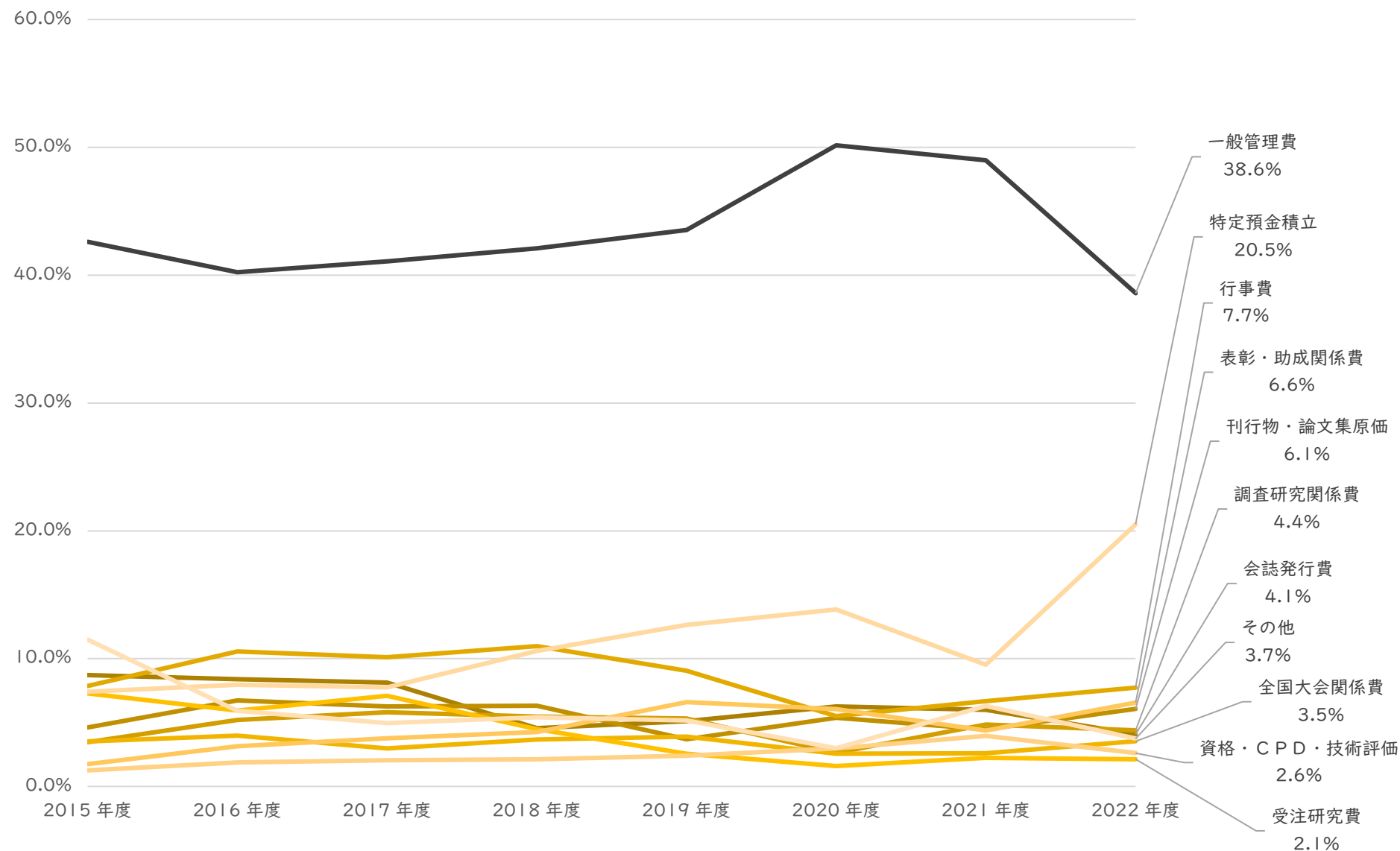


収入の経年動向（支出額）

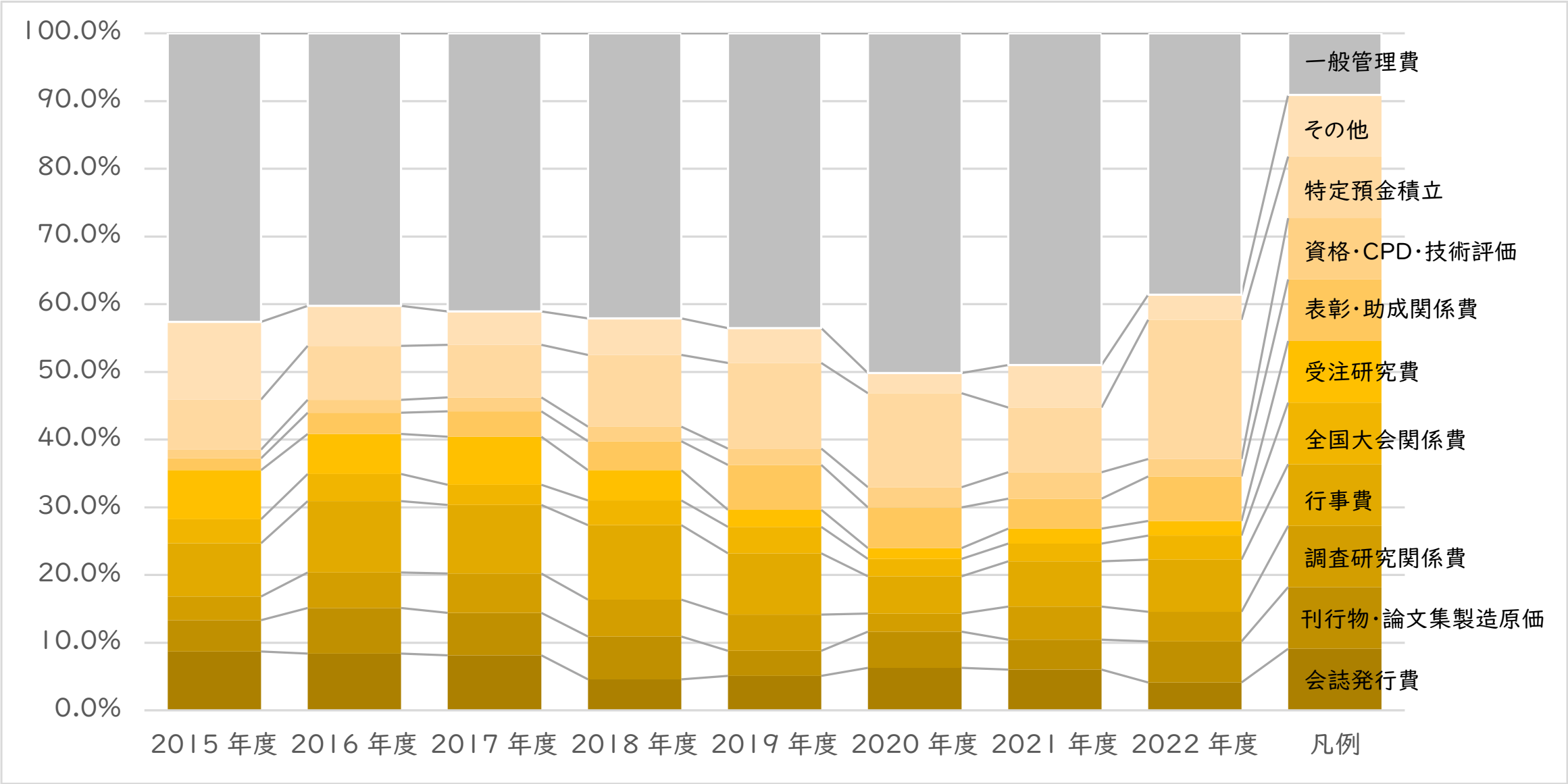


収入の経年動向（支出種類割合の変化）

会費支出の経年動向（支出種類割合の変化）

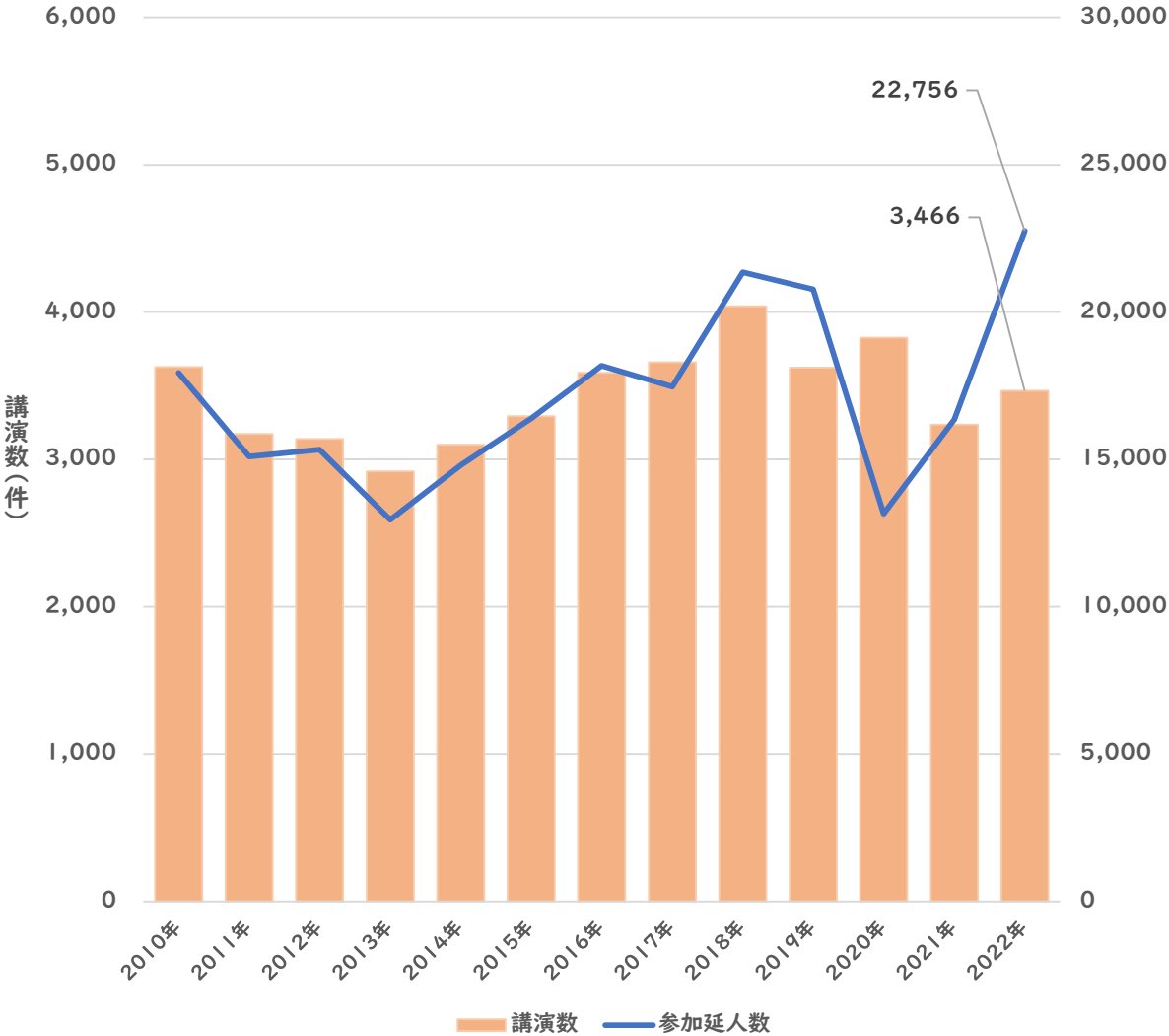


収入の経年動向（支出種類割合の変化）

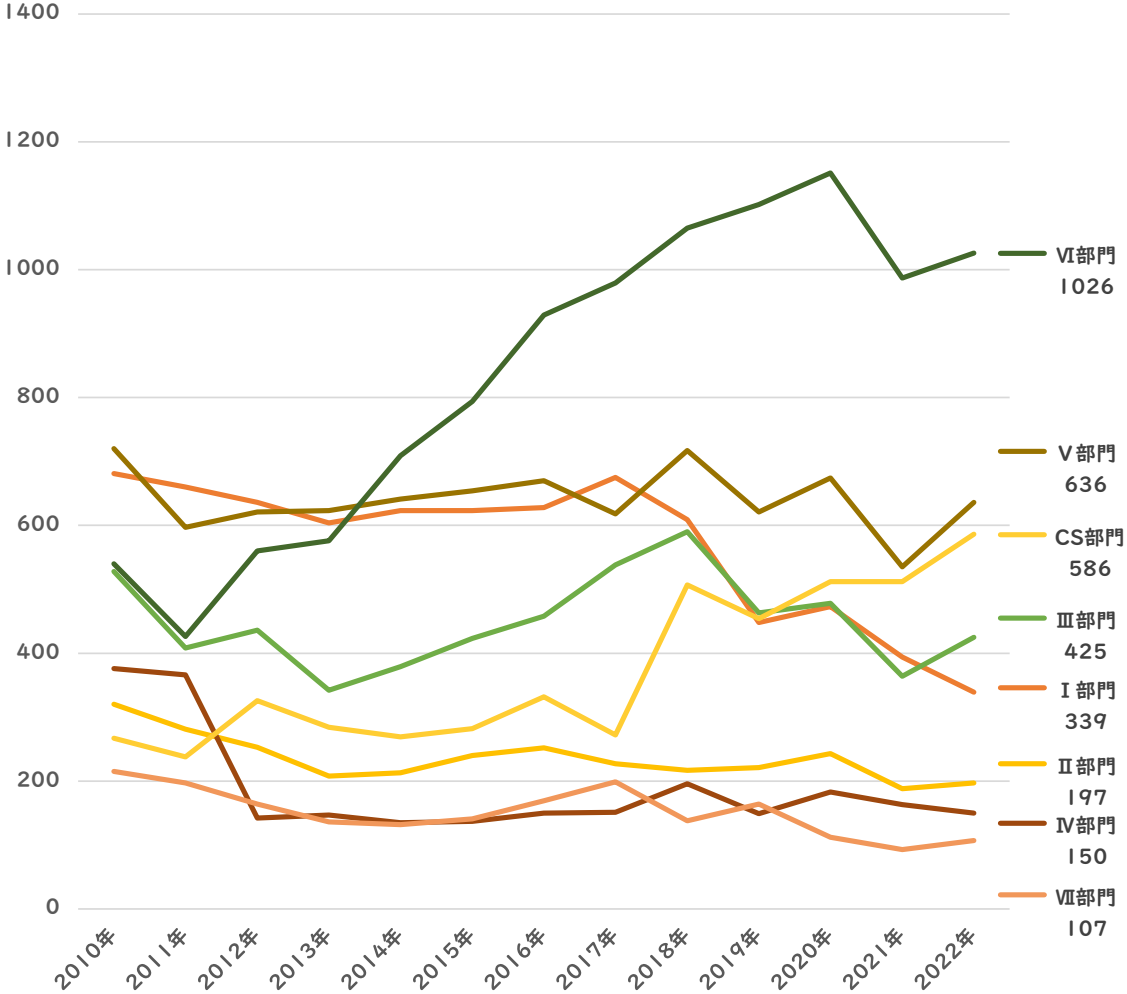


全国大会の実施（参加人数、投稿件数）

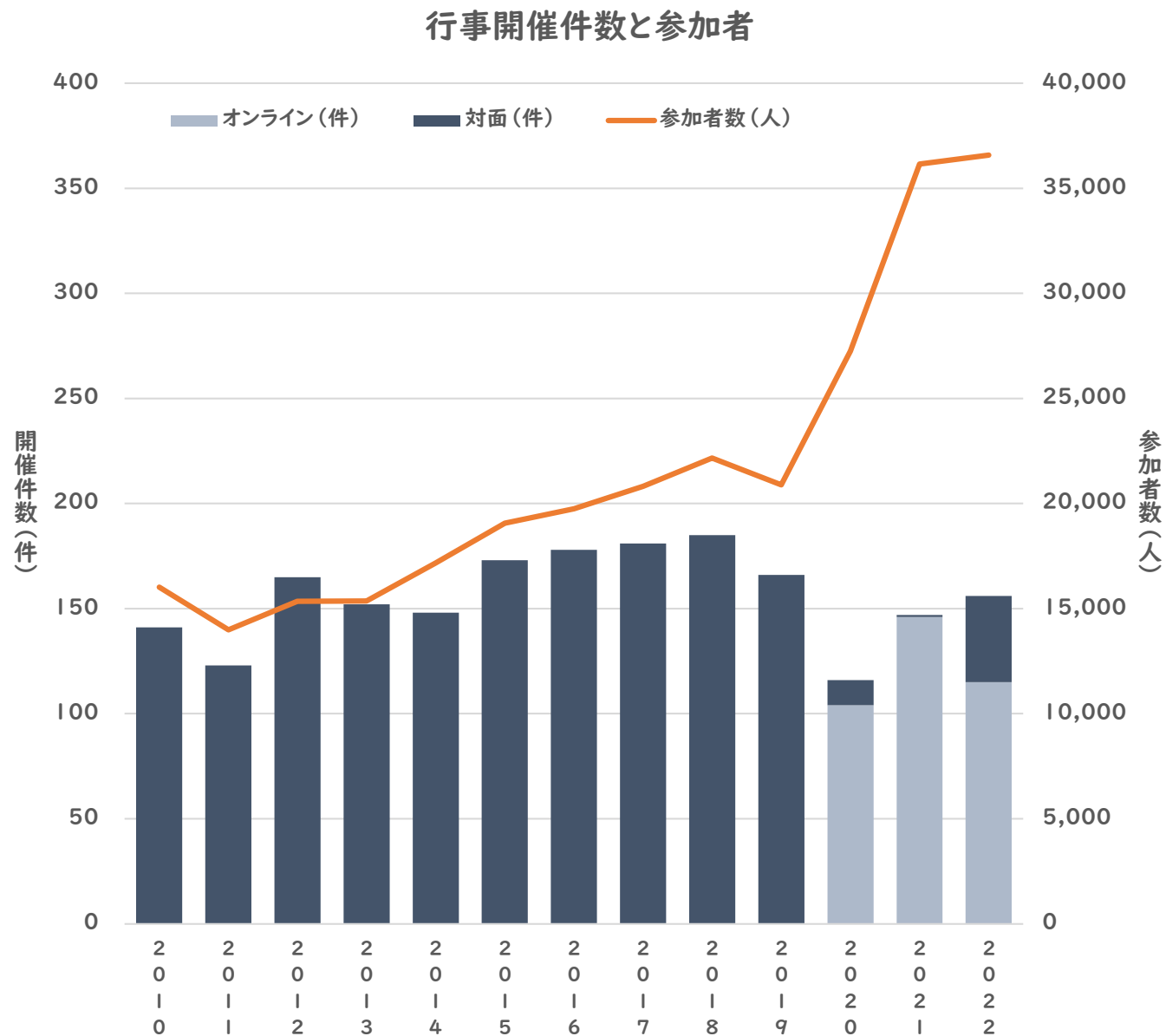
講演数と参加延人数



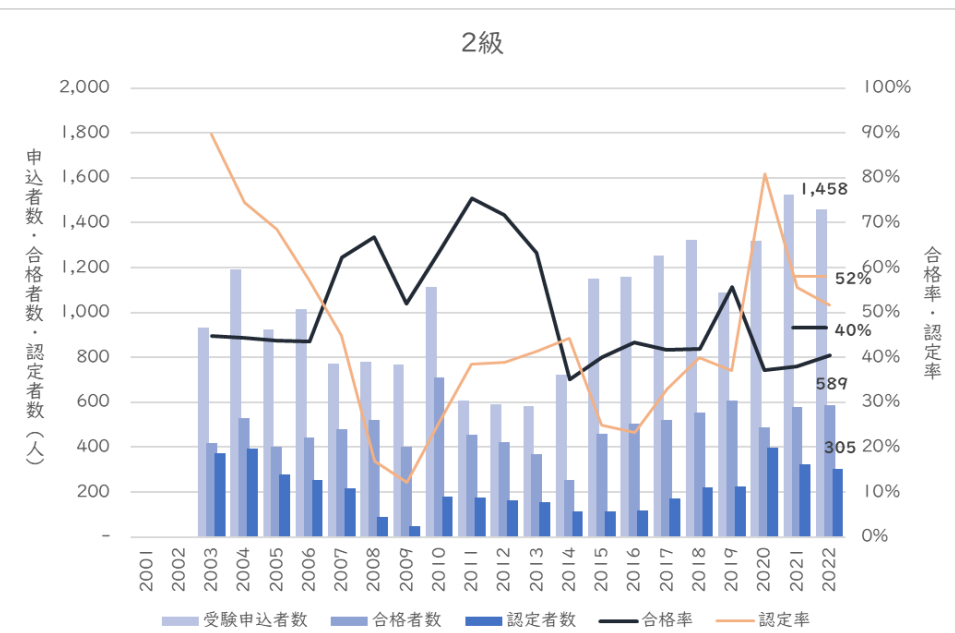
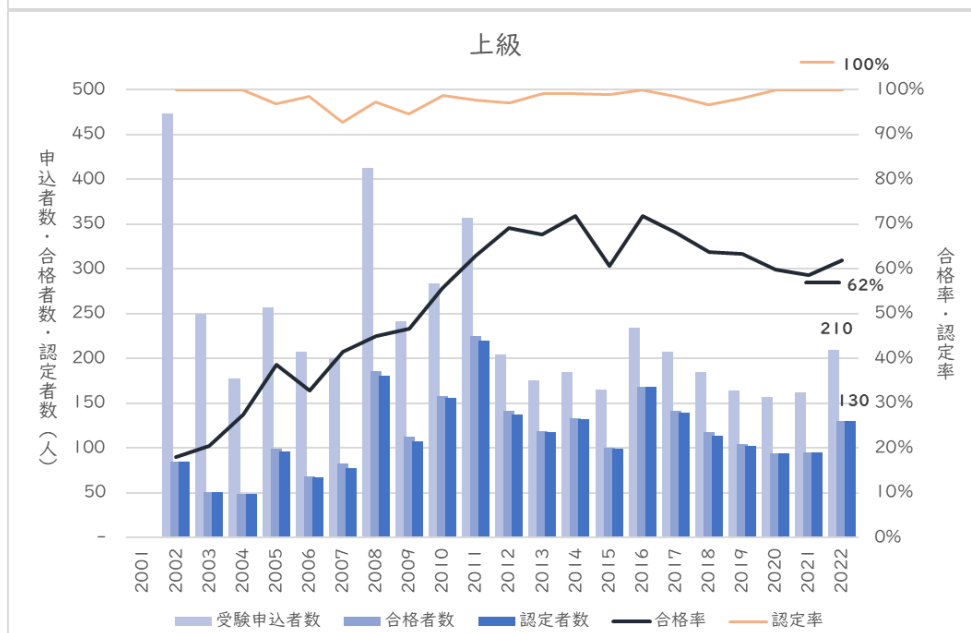
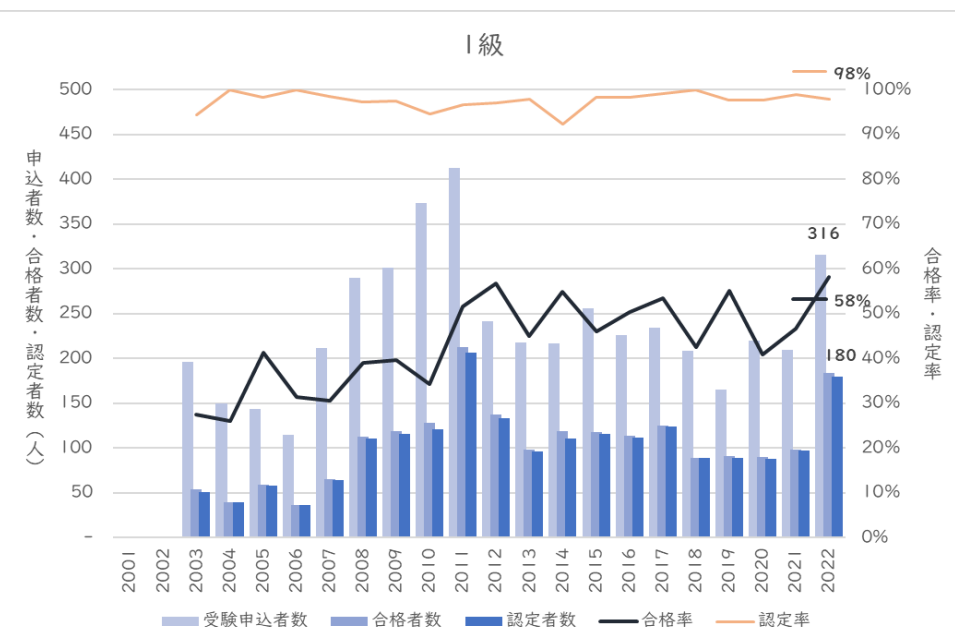
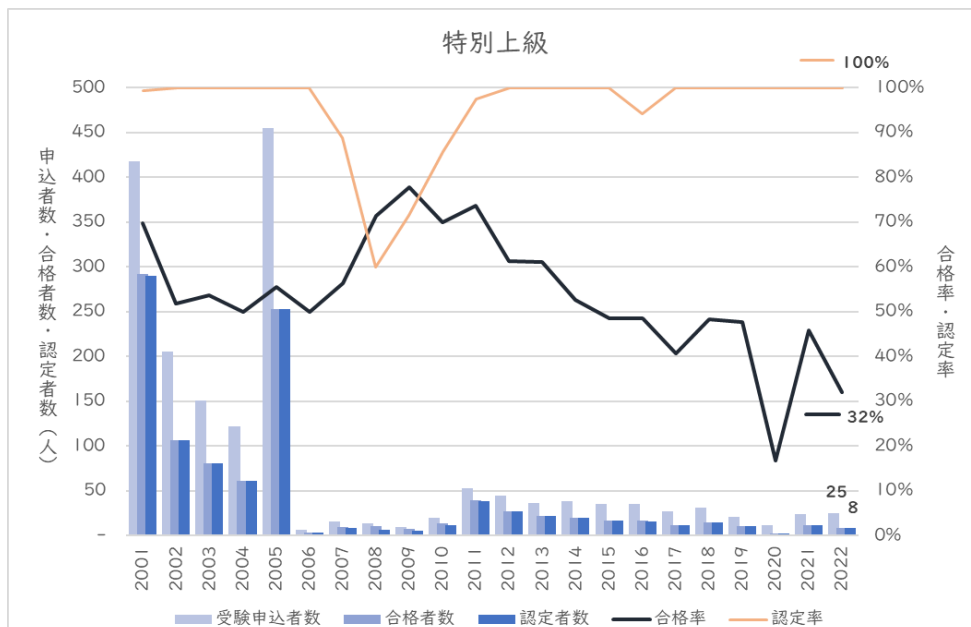
部門別講演数



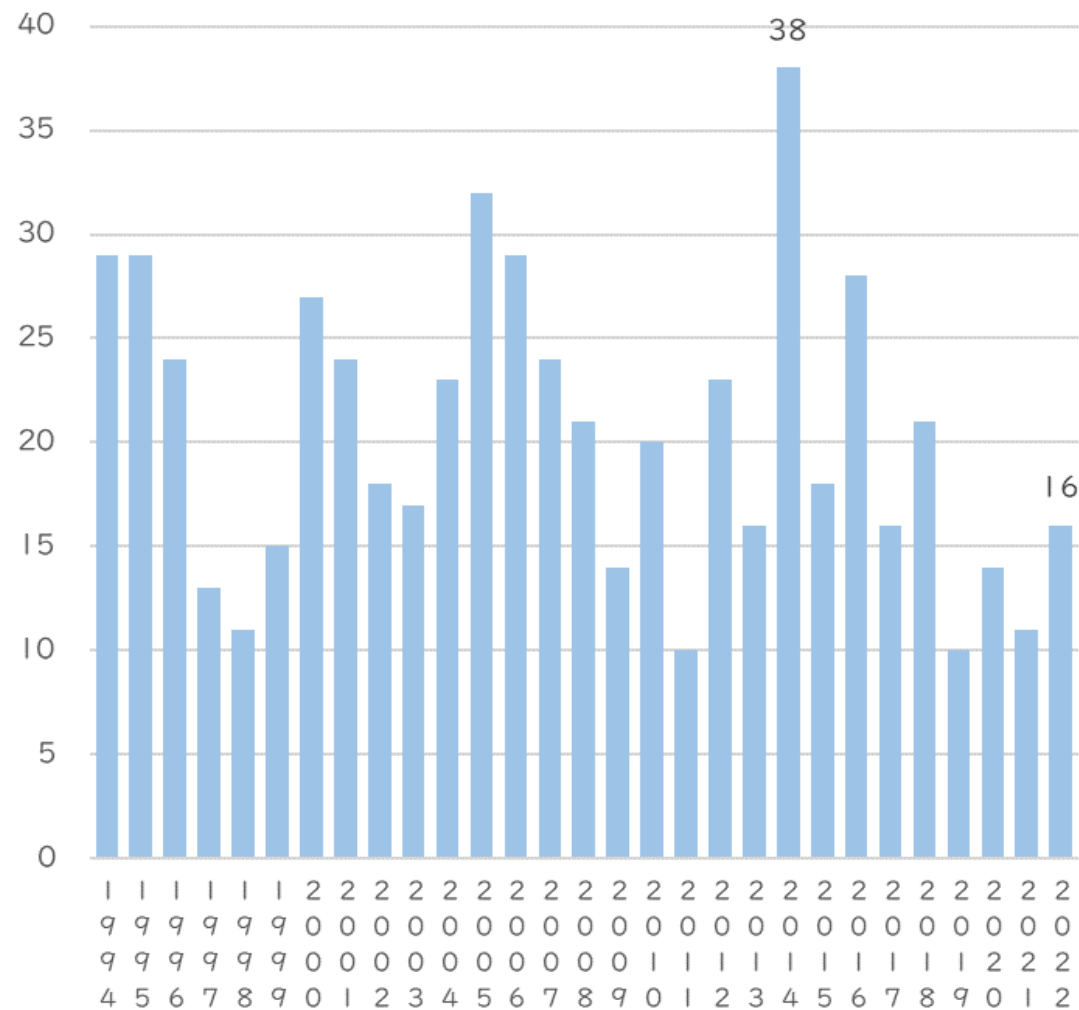
本部開催行事（実施数、経年変化）



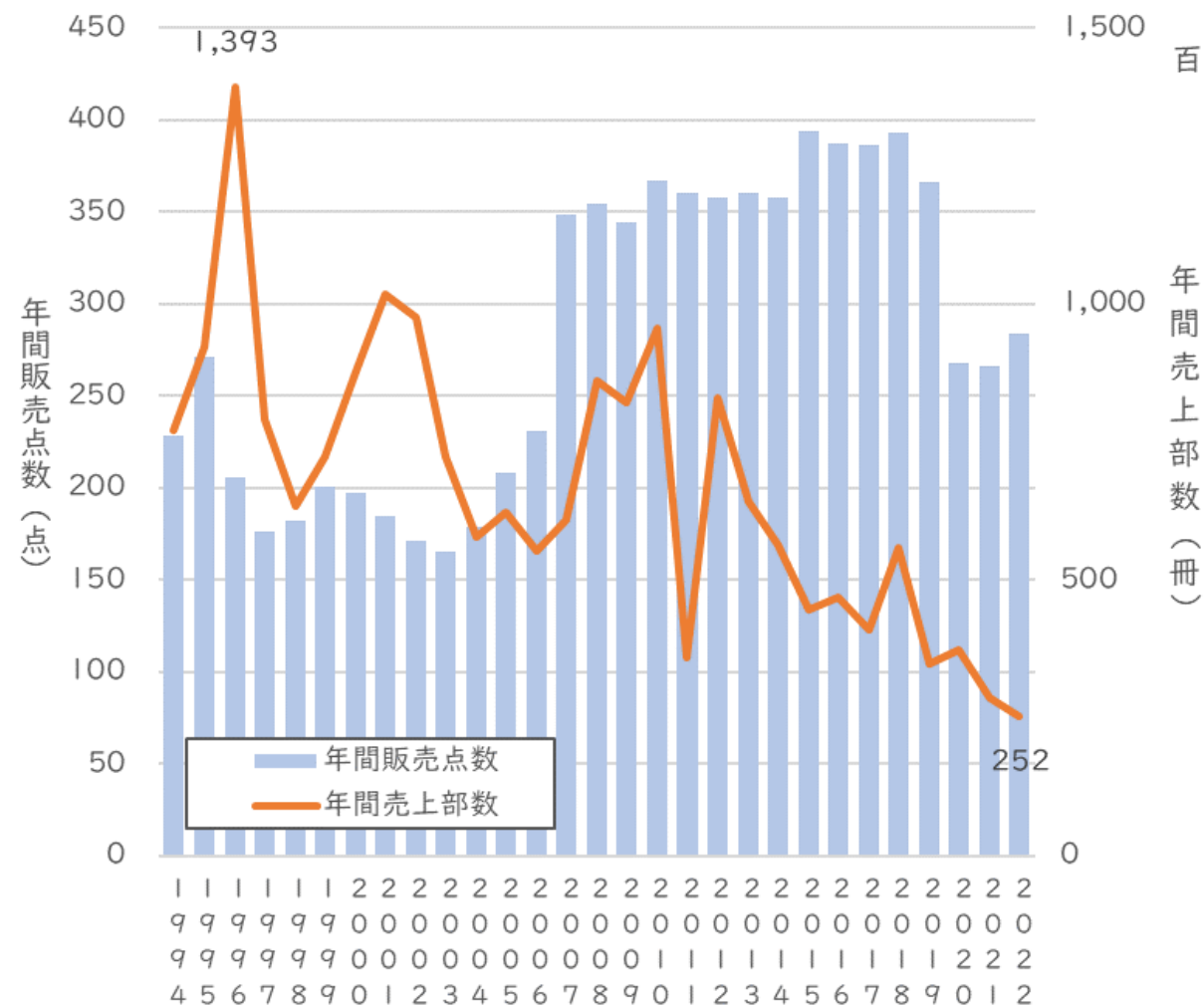
学会資格の付与状況（経年変化）



新刊発行点数



刊行物取扱実績



	累計発行数	月平均発行数	最大	最小
2014年度	486,000	40,500	41,200	39,600
2015年度	487,500	40,625	41,200	40,000
2016年度	490,150	40,846	41,900	39,400
2017年度	493,750	41,146	41,850	40,050
2018年度	490,300	40,858	41,850	39,330
2019年度	485,550	40,463	41,350	38,800
2020年度	483,930	40,328	41,100	39,330
2021年度	476,760	39,730	41,350	37,950
2022年度	469,750	39,146	40,850	37,350
2023年度	475,120	39,593	41,330	38,340

- 主なSNSアカウント
 - Facebook
 - 本部 3、委員会 13、支部 14、その他 1
 - Instagram
 - 本部 2、委員会 6
 - X
 - 本部 8、委員会 9、支部 1、その他 2
 - YouTube
 - 本部 8、委員会 5、支部 3
 - note
 - 本部 1、委員会 5、その他 1

SNS別フォロワー数 (facebook)

種類	運営主体	名称	運用開始	URL	フォロワー数
facebook	本部	土木学会	2011/6/18	https://www.facebook.com/JSCE.jp/	47,599
facebook	本部	Japan Society of Civil Engineers	2011/3/6	https://www.facebook.com/JSCE.en/?ref=br_rs	3,827
facebook	本部	土木学会誌	2013/12/14	https://www.facebook.com/jsce.magazine/?ref=br_rs	3,737
facebook	その他	土木チャンネル	2013/7/5	https://www.facebook.com/doboku.ch/	2,596
facebook	委員会	土木学会デザイン賞	2012/4/28	https://www.facebook.com/dobokudescho/	1,687
facebook	委員会	ドボ博	2016/11/10	https://www.facebook.com/dobohaku/	1,441
facebook	委員会	土木学会水工学委員会水害対策小委員会	2013/7/22	https://www.facebook.com/JSCEsuigai/	1,170
facebook	委員会	土木コレクションHANDS+EYES	2014/4/15	https://www.facebook.com/profile.php?id=100027778346200	1,042
facebook	委員会	土木史フォーラム	2015/3/16	https://www.facebook.com/dobokushiforum/	926
facebook	支部	土木学会関西支部	2015/2/24	https://www.facebook.com/jscekc/?ref=br_rs	713
facebook	委員会	土木学会 市民普請グループ	2013/1/8	https://www.facebook.com/siminbusin/	675
facebook	支部	土木学会東北支部	2015/2/10	https://www.facebook.com/jsce.th/	659
facebook	支部	シビルネット九州沖縄	2012/7/13	https://www.facebook.com/civilnet.KO/	607
facebook	支部	シビルネット北海道(土木学会北海道支部)	2012/10/31	https://www.facebook.com/civilnet.HK/	602
facebook	支部	シビルネット関西	2012/6/28	https://www.facebook.com/civilnet.ks/	547
facebook	支部	シビルネット中部(土木学会中部支部)	2016/6/21	https://www.facebook.com/civilnet.CB/	540
facebook	委員会	若手パワーアップグループ	2016/8/25	https://www.facebook.com/jsce.wakate/	487
facebook	委員会	旅に出たくなる日本の土木遺産	2019/11/15	https://www.facebook.com/JSCEInter/	481
facebook	支部	シビルネット東北	2015/2/13	https://www.facebook.com/civilnet.TH/	467
facebook	支部	シビルネット四国	2013/11/1	https://www.facebook.com/civilnet.SK/	434
facebook	支部	シビルネット中国(土木学会中国支部)	2015/9/19	https://www.facebook.com/civilnet.CG/	406
facebook	支部	シビルネット関東(土木学会関東支部)	2015/12/17	https://www.facebook.com/civilnet.KT/	326
facebook	委員会	自転車政策研究小委員会	2012/6/8	https://www.facebook.com/csjsce/?ref=br_rs	275
facebook	委員会	土木学会 ダイバーシティ&インクルージョン推進委員会	2021/2/24	https://www.facebook.com/JSCE.DandI	222
facebook	支部	土木学会関東支部Student Chapter 日本大学船橋部会	2013/5/17	https://www.facebook.com/jscescfuna/	180
facebook	支部	土木学会関西支部 学生会員海外研修支援事業	2017/6/7	https://www.facebook.com/jscekc.kaigai/	115
facebook	支部	ぶら・土木	2013/4/18	https://www.facebook.com/buradoboku/	115
facebook	委員会	成熟したシビルエンジニア活性化小委員会	2014/8/1	https://www.facebook.com/seijukucivil/?ref=br_rs	74
facebook	委員会	土木学会地盤工学委員会	2013/8/1	https://www.facebook.com/jscejiban/	71
facebook	支部	土木学会関東支部若手技術者交流サロン	2013/8/17	https://www.facebook.com/profile.php?id=100069681024847	64
facebook	委員会	火山工学研究小委員会	2016/7/28	https://www.facebook.com/kazankougaku/	25

SNS別フォロワー数（Instagram）

種類	運営主体	名称	運用開始	URL	フォロワー数
Instagram	本部	（公社）土木学会	2019/2/1	https://www.instagram.com/doboku_jsce/	1,154
Instagram	本部	dobokutv	2023/8/30	https://www.instagram.com/dobokutv/	251
Instagram	委員会	JSCE 建設技術研究委員会 教育小委員会	2021/7/1	https://www.instagram.com/jsce_kyoiku/	235
Instagram	委員会	旅に出たくなる日本の土木遺産	2019/11/1	https://www.instagram.com/jsce.international/	206
Instagram	委員会	土木学会若手パワーアップ小委員会	2022/6/20	https://www.instagram.com/jsce_wakatepu/	158
Instagram	委員会	土木学会誌編集委員会 学生委員	2022/9/1	https://www.instagram.com/doboku_gakusei/	156
Instagram	委員会	LIMN(ライモン)	2021/8/1	https://www.instagram.com/limn.project/	137
Instagram	委員会	土木学会 コンサルタント委員会 市民交流研究小委員会	2020/11/1	https://www.instagram.com/doboku_snswg/	7

SNS別フォロワー数 (X)

種類	運営主体	名称	運用開始	URL	フォロワー数
X	本部	公益社団法人 土木学会	2010/3/1	https://twitter.com/jsceinfo	3,397
X	本部	土木学会note支部	2020/12/8	https://twitter.com/JSCE_note	2,731
X	委員会	土木学会若手パワーアップグループ	2013/7/1	https://twitter.com/jsce_wakate	1,753
X	その他	土木学会WEB情報誌『from DOBOKU』公式	2021/4/1	https://twitter.com/from_DOBOKU	1,301
X	本部	土木学会附属 土木図書館	2011/11/1	https://twitter.com/jsce_library	999
X	本部	公益社団法人 土木学会 災害関連情報	2011/3/1	https://twitter.com/JSCE_Saigai	945
X	その他	土木偉人かるた	2021/4/1	https://twitter.com/dobokuijin	865
X	委員会	土木学会デザイン賞	2012/4/1	https://twitter.com/dobokudescho	521
X	本部	dobokuTV	2023/8/30	https://twitter.com/DBMR2023	469
X	委員会	土木学会国際センター	2019/11/1	https://twitter.com/JSCEInter	383
X	委員会	教育小委員会	2021/7/1	https://twitter.com/jscekyoiku	234
X	委員会	若手構造技術者連絡小委員会	2023/4/16	https://twitter.com/wakate_struct	228
X	委員会	土木学会学生小委員会	2022/6/1	https://twitter.com/doboku_gakusei	205
X	本部	土木学会_CPD	2017/6/1	https://twitter.com/JSCE_CPD	171
X	支部	土木学会関西支部	2023/12/1	https://twitter.com/JSCE_kansai	76
X	委員会	土木学会水工学委員会水害対策小委員会	2020/7/1	https://twitter.com/JSCE_HYD	67
X	委員会	土木学会 市民交流研究小委員会	2020/11/1	https://twitter.com/shimin_snsWG	63
X	本部	土木学会全国大会	2014/8/1	https://twitter.com/JSCE_zenkoku	29
X	委員会	成熟したシビルエンジニア活性化小委員会	2021/12/1	https://twitter.com/seijukucivil	16
X	本部	土木学会 全国大会 2010 講演会	2010/9/1	https://twitter.com/jsce2010_sympo	16

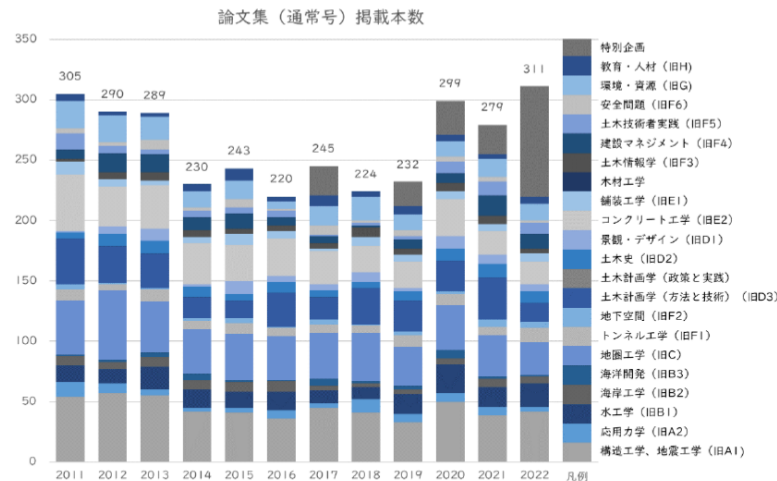
SNS別フォロワー数 (YouTube)

種類	運営主体	名称	運用開始	URL	フォロワー数
YouTube	本部	土木チャンネル	2013/6/21	https://www.youtube.com/user/dobokuchannel	4,780
YouTube	本部	土木学会tv	2015/5/8	https://www.youtube.com/@JSCEtv	3,010
YouTube	本部	土木学会企画部門	2020/5/27	https://www.youtube.com/channel/UC-ZqolBFC4XwrI9YWvdJjxQ	503
YouTube	委員会	ドボクのラジオ	2020/1/30	https://www.youtube.com/@dobokunoradio	393
YouTube	本部	dobokuTV	2023/8/5	https://www.youtube.com/@dobokuTV	330
YouTube	委員会	土木学会水工学委員会	2020/6/26	https://www.youtube.com/channel/UCzhihsZ0D1yUg_6eA9EOyqg	108
YouTube	委員会	土木学会構造工学委員会	2020/9/3	https://www.youtube.com/@user-oq3pv7cj3k	106
YouTube	本部	土木学会全国大会 本部	2020/6/22	https://www.youtube.com/channel/UCuHnJcr7YmQGhzuvn4KPWSg/	95
YouTube	本部	jsce3visual	2011/4/19	https://www.youtube.com/user/jsce3visual	89
YouTube	本部	土木学会技術推進機構	2019/2/2	https://www.youtube.com/channel/UCSb1wdX2qinhd-Az0Z_5GiA	77
YouTube	支部	土木学会全国大会 中部支部	2020/8/3	https://www.youtube.com/channel/UCcpzdeYWmrz61ZOu7QxLEEW	74
YouTube	本部	土木学会国際センター	2020/4/7	https://www.youtube.com/channel/UCGIs6DHzX_cGD-mHUrRlKA	23
YouTube	支部	土木学会関西支部	2015/2/24	https://www.youtube.com/channel/UCUprathVllvw2CC7jc1yquA	13
YouTube	委員会	みんなのどぼくチャンネル	2021/11/29	https://www.youtube.com/@user-ou8fn5jp8q/featured	11
YouTube	支部	公益社団法人 土木学会北海道支部	2023/11/22	https://www.youtube.com/@jsce-hokkaido	10
YouTube	委員会	土木学会誌チャンネル【公式】	2021/1/25	https://www.youtube.com/@user-dm4oj5pz1m/	7

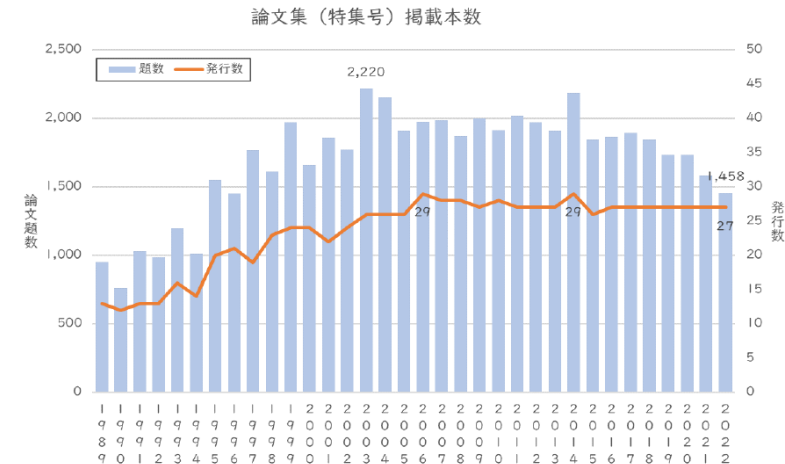
SNS別フォロワー数（note）

種類	運営主体	名称	運用開始	URL	フォロワー数
note	本部	土木学会	2020/8/1	https://note.com/jsce	1,473
note	委員会	WEB情報誌『from DOBOKU』?土木への偏った愛	2021/3/15	https://note.com/from_doboku	417
note	委員会	JSCE 建設技術研究委員会 教育小委員会	2021/8/17	https://note.com/jsce_kyoiku	109
note	委員会	JSCE 若手パワーアップグループ	2021/6/28	https://note.com/wakate_pu	108
note	委員会	土木学会学生小委員会	2022/6/1	https://note.com/doboku_gakusei/	48
note	委員会	JSCE土木学会 成熟したシビルエンジニア活性化小委員会	2023/6/27	https://note.com/civil_id	30
note	その他	国難災害プロジェクト	2023/6/27	https://note.com/kokunansaigai	9

土木学会見える化データ2022より 論文集（通常号）



論文集（特集号）



- ◆オンラインジャーナルとして、J-STAGE上で公開
- ◆公開後1年を経過した論文はオープンアクセス



土木学会論文集HP

<https://www.jsce.or.jp/collection/>

19

2024/5/10

土木学会見える化データ2022



The Editorial Committee on Journal of Japan Society of Civil Engineers

To English

- 論文集編集委員会トップ
- 土木学会論文集の概要

委員会活動

- 委員会規則
- 委員会構成
- お知らせ

オンラインジャーナル

ホーム

土木学会英文論文集（Journal of JSCE）公開中

投稿者：事務局 投稿日時：火、2013-02-12 13:00

土木学会英文論文集（Journal of JSCE）を2013年1月に発刊しました。どなたでも無料でご覧いただけるかたちでJ-Stage上で公開しており、好評をいただいております。 <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/journalofjsce>

また、J-STAGEの土木学会のジャーナル一覧のページにも加わり、より目に留まりやすくなりました。

https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/AY01S470_ja.html

投稿料・掲載料・ネイティブによる英文校閲料も無料です。どうぞ奮ってご投稿ください。

<http://committees.jsce.or.jp/jjsce/english/index-e>



土木学会論文集HP

<https://www.jsce.or.jp/collection/>

20

土木学会見える化データ2022

024/5/10

基本目標	2015目標
c1) 「土木総合情報プラットフォーム」の構築	c1-1) 技術情報データベースの構築と公開
	c1-2) 技術映像データベースの充実と活用
	c1-3) 土木貴重資料・図面等デジタルアーカイブスの整備
	c1-4) 絶版図書のオンデマンド出版
	c1-5) 土木デジタルミュージアムの構築
	c1-6) 東日本大震災アーカイブサイトの充実と活用

土木学会附属土木図書館

アーカイブ内検索

土木図書館案内

お問合せ

土木学会

土木図書館

土木図書館デジタルアーカイブス

戦前図書・雑誌コレクション



- 戦前雑誌
 - 建設ニュース | 土木ニュース
 - 工学会誌
 - 建設
 - 土木満洲
 - 土木建築工事画報
 - 道路の改良
- 戦前図書
 - 戦前土木名著100書
 - 内務省関連資料

写真・絵葉書ライブラリー



- 絵葉書
 - 戦前土木絵葉書ライブラリー
- 写真
 - 土木貴重写真コレクション
 - 伊藤清忠 景観デザイン・フォトライブラリー
 - ダムフォトライブラリー
 - 田島二郎氏橋梁写真集

土木図書館デジタル化資料



- 土木学会誌・論文集
 - 土木学会誌
 - 土木学会論文集
 - 学術論文公開
 - デジタル化書籍リスト
- 各種委員会資料
 - 鋼構造委員会

基準類



- 道路構造令・道路橋示方書
- コンクリート橋示方書
- JSCE STANDARD(Concrete Library of JSCE No.3, JUNE 1984)
- 土木構造物の耐震設計指針
- トンネル標準示方書

JSCE 土木学会 東日本大震災アーカイブサイト

Contents

- トップページ
- 東日本大震災特別委員会 成果一覧

公開資料

- 土木学会関連
 - 書籍・報告書
 - 記事・論文
- 投稿資料を含むアーカイブ
 - 写真他(情報共有GISサイト)
 - ファクトデータ
 - 映像
- Link
 - 土木図書館
 - 震災ライブラリー
 - ご意見・ご要望

<< 土木学会発の東日本大震災に関する情報を一括公開 (2011.12.1~)>>

土木学会東日本大震災アーカイブ・震災GISデータベース (情報共有GISサイト)
新しい試みとして、位置情報がわかるものは、地図上に表示するGIS表示システムを用意しています。「loginせずに閲覧」からご利用下さい。推奨ブラウザ情報をご覧ください。

土木学会震災アーカイブ映像データベース
新しい試みとして、震災映像をシーンごとに分割した映像の配信システムを用意しています。

利用上の注意
利用にあたっては、以下の事項を遵守してください。

- 掲載されたコンテンツの利用は土木学会会員及び土木に関心ある個人の研究・学習などの目的に限ります。
- 掲載された全てのコンテンツは土木学会に帰属します。
- 当ページは予告なく変更する場合があります。
- 当ページの利用によってもたらされた行為の責は全て利用者であり、当学会はそれに関与しません。

※このデータベースは、日本学術振興会科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を受けてレコードの追加を行っています。



土木学会東日本大震災アーカイブサイトの開設にあたって

このたび(2011.3.11)の大震災で被災された皆様へ、心からお見舞い申し上げます。
土木学会情報資料部門では東日本大震災アーカイブ特別委員会を設置し、土木学会委員会・会員の方々の、東日本大震災に関する活動成果を全て網羅し、集約して公開するため、提言や調査報告などのほか活動の過程で収集した各種資料、学会誌の特集記事や各部門の関連論文、あるいは会員が記録した写真・映像資料などを収集・分類・登録・保存するとともに、デジタルアーカイブとして、webサイトに情報公開することで、容易なアクセスと探しやすいさを提供いたします。ぜひご利用ください。また、会員の皆様が保有する、各種資料・映像・写真などお手持ちの情報が公開可能なものをぜひお寄せください。

国土交通省をはじめとする各省庁や地方公共団体での活用例

各分野において発注する公共工事について、その共通仕様書に「土木学会規準」あるいは「土木学会コンクリート標準示方書」などの記載を確認することができる。

防災

水管理・国土保全トップ > 河川 > ダム > 砂防 > 海崖 > 水資源 > 下水道 > 防災 > 環境 > 利用 > 国際 > 情報・技術

ホーム > 政策・仕事 > 水管理・国土保全 > 防災 > 災害調査（国総研、土木学会）

河川砂防技術基準 調査編 第10章 災害調査

激甚な災害が頻発する状況下、災害が起こった際に、その内容を適切に調査することの重要性はますます高まっています。災害の態様は様々で、複雑な状況を呈することも多く、災害の調査を行うことは重要という一般論だけをもって、調査を行い、関連情報を収集しても、必ずしも有用な知見が獲得できるとは限りません。このことを踏まえ、災害調査の実施が検討される際に、考慮すべき事項と役立つ事項を述べ、当該災害調査が「災害益な知見を得る」ものになるための助けとするものです。

> [第10章 災害調査（R5.5改定）](#)

災害調査資料

災害調査の成果は、適切な形で蓄積し、技術情報として共有化することも重要です。ここでは、これまでの主な災害共有します。

◆国総研
（HPトップ> 研究・活動の紹介> 災害関連情報> 災害調査> [国内で生じた災害の調査報告](#)）
> [平成30年北海道胆振東部地震で発生した凍状化被害等に関する専門家派遣結果（概要）](#)
> [平成28年（2016年）熊本地震における下水道施設被災状況緊急調査報告](#)
> [平成26年8月豪雨による広島県で発生した土砂災害の現地調査現地調査報告](#)

◆国総研
（HPトップ> 研究成果・データ> 国総研資料等> [国土技術政策総合研究所資料](#)）
> [令和元年（2019年）房総半島台風および東日本台風による土木施設・建築物等災害調査報告](#)
> [大阪湾沿岸の港湾地域における台風1821号に伴う高潮等の調査報告](#)
> [平成28年（2016年）熊本地震土木施設被害調査報告](#)

◆土木学会 水工学委員会 水害対策小委員会
HPトップ> 委員会活動> 水工学委員会> 部会・小委員会・懇談会など> 水害対策小委員会> [災害調査回報書](#)

土木学会 水工学委員会
水害対策小委員会

委員会サイトホーム 土木学会ホーム

水工学委員会 水害対策小委員会メニュー

水工学委員会 水害対策小委員会ホーム

水害対策小委員会について

ワーキンググループ

河川災害に関するシンポジウム

災害調査回報書

「水害対策小委員会 Facebookページ」

ユーザログイン

ユーザ名 *

パスワード *

☐ ログイン状態を保持する
(利用パソコンではチェックを外してください)

☐ パスワードの再発行

ログイン

災害調査回報報告書

令和3年7月 静岡県東部豪雨災害調査回

令和2年7月 九州豪雨災害調査回

令和元年 台風19号豪雨災害調査回

平成30年7月 西日本豪雨災害調査回（四国地区）

平成30年7月 西日本豪雨災害調査回（中国地区）

平成29年7月 秋田水害調査回

平成29年7月 九州北部豪雨災害調査回

平成28年8月 東北支庁合同 台風10号東北水害調査回

平成28年8月 北海道豪雨災害調査回

平成28年4月 熊本水害調査回

平成27年9月 関東・東北豪雨災害調査回

平成26年8月 広島豪雨災害調査回

平成26年8月 関西支庁合同 兵庫・京都・岐阜水害調査回

平成26年8月 四国水害調査回

平成25年10月 伊豆大島豪雨災害 緊急災害調査回

平成25年9月 京都・滋賀水害調査回

平成25年8月 秋田・岩手水害調査回

平成25年7月 山口・島根水害調査回

（抜粋）港湾工事共通仕様書（国土交通省港湾局、令和6年3月）

第1編共通編 第4章無筋・鉄筋コンクリート

第4章 無筋・鉄筋コンクリート

第1節 適用

1. 本章は、無筋・鉄筋コンクリート構造物、プレストレストコンクリート構造物に使用するコンクリート、鉄筋、型枠等の施工その他これらに類する事項について適用するものとする。

2. 本章に特に定めのない事項については、第1編第2章材料の規定によるものとする。

第2節 適用すべき諸基準

受注者は、設計図書において特に定めのない事項については、下記の基準類によらなければならない。なお、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督職員に確認を求めなければならない。

土木学会 コンクリート標準示方書【施工編】

土木学会 コンクリート標準示方書【設計編】

土木学会 コンクリート標準示方書【維持管理編】

土木学会 コンクリート標準示方書【規程編】

注）制定された最新のものを使用すること。

土木学会規準および関連規準

国土交通省

港湾及び海岸保全施設のコンクリート構造物の耐久性確保について
（平成20年3月31日 国港技第92号、国港技監第71号、国港海第398号）

国土交通省

「港湾及び海岸保全施設のコンクリート構造物の耐久性確保について」の運用について
（平成20年3月31日 国港技第93号、国港技監第72号、国港海第399号）

国土交通省 アルカリ骨材反応抑制対策について
（平成14年7月31日 国官技第112号、国港環第35号、国空建第78号）

国土交通省 「アルカリ骨材反応抑制対策について」の運用について
（平成14年7月31日 国官技第113号、国港環第36号、国空建第79号）

1-93

d: 提言活動

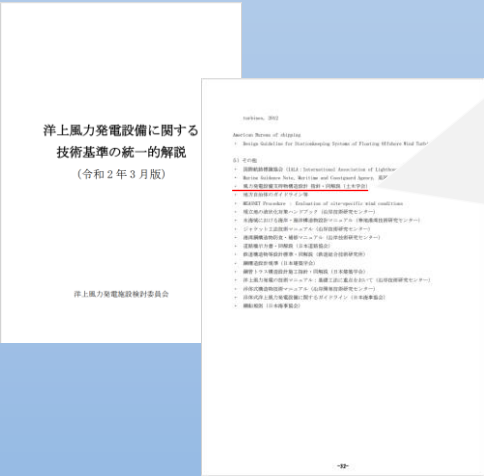
■政策の立案・実施に際して（土木学会とのかかわり）

- たとえば、『洋上風力発電の導入推進』にあたり、
- 洋上風力発電設備等については、港湾法、再エネ海域利用法[※]及び電気事業法の各法に基づく基準を満たしていることの確認のため、審査が必要。
 - 審査手続きの合理化や事業者の負担軽減を図るためには、各法に基づく審査が統一的な考え方のもとで実施されることが望ましいことから、洋上風力発電設備に関する技術基準の統一的解説等を策定。

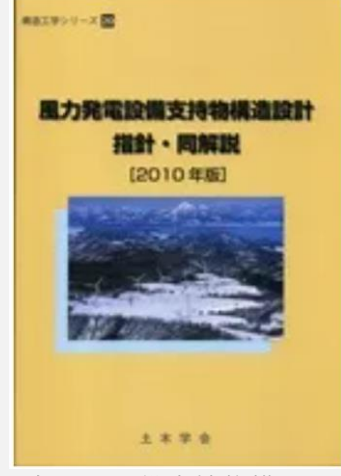
※海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律



洋上風力発電設備に関する技術基準の統一的解説（令和2年3月版）として、関係法規（国内における法規・基準・指針、国際規格・基準、対応JIS規格、海外における認証規格、その他）とある中に【風力発電設備支持物構造設計 指針・同解説（土木学会）】と記載されており、この統一的解説における洋上風力発電設備等の希求性能、設計などにおいて参考文献としてたびたび引用されています。



洋上風力発電設備に関する技術基準の統一的解説（令和2年3月版）



風力発電設備支持物構造設計指針・同解説（土木学会）

- 2016年度 港湾法改正
- 2016～17年度 技術基準の統一的解説策定
- 2017年度 施行の審査の指針策定
- 2018年度 維持管理の統一的解説策定
- 2019年度 再エネ海域利用法施行 ⇒ 技術基準・維持管理の統一的解説改定／施工の審査の指針改定

- 【最新の統一的解説及び指針】
- ・ 洋上風力発電設備に関する技術基準の統一的解説（令和2年3月版）
 - ・ 洋上風力発電設備の維持管理に関する統一的解説（令和2年3月版）
 - ・ 洋上風力発電設備の施工に関する審査の指針（令和2年3月版）

標準示方書は、出版の売り上げ部数の上位

土木学会見える化データ2022より

売上部数ランキング

刊行物・試験器販売
<https://www.jsce.or.jp/publication/>



2022年度 売上部数ベスト10(すべての出版物)

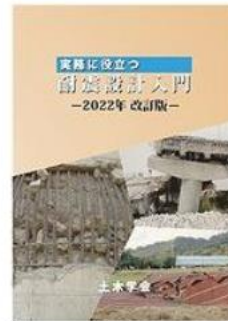
(対象期間:2022年4月1日~2023年3月31日)

	書名	担当委員会名	売上部数	発行年月	定価(円) (本体価格)
1	土木材料実験指導書 2023年改訂版	コンクリート委員会	2,735	2023年3月	1,600
2	2017年制定 コンクリート標準示方書[施工編]	コンクリート委員会	1,545	2018年3月	5,500
3	土質試験のてびき 第三版	地盤工学委員会	726	2015年2月	1,300
4	CL160 コンクリートのあと施工アンカー工法の設計・施工指針(案)	コンクリート委員会	674	2022年1月	4,500
5	2018年制定 コンクリート標準示方書[規準編]	コンクリート委員会	587	2018年10月	13,000
6	2018年制定 コンクリート標準示方書[維持管理編]	コンクリート委員会	561	2018年10月	6,000
7	2017年制定 コンクリート標準示方書[設計編]	コンクリート委員会	557	2018年3月	8,000
8	実務に役立つ耐震設計入門~2022年改訂版~	地震工学委員会	541	2022年7月	3,400
9	知っておきたい斜面のはなしQ&A 一斜面の災害に備える~	地盤工学委員会	520	2022年1月	1,200
10	土木製図基準2009年改訂版	土木製図基準改訂委員会	517	2009年2月	3,800

2022年度 売上部数ベスト10(示方書、教材図書を除く出版物)

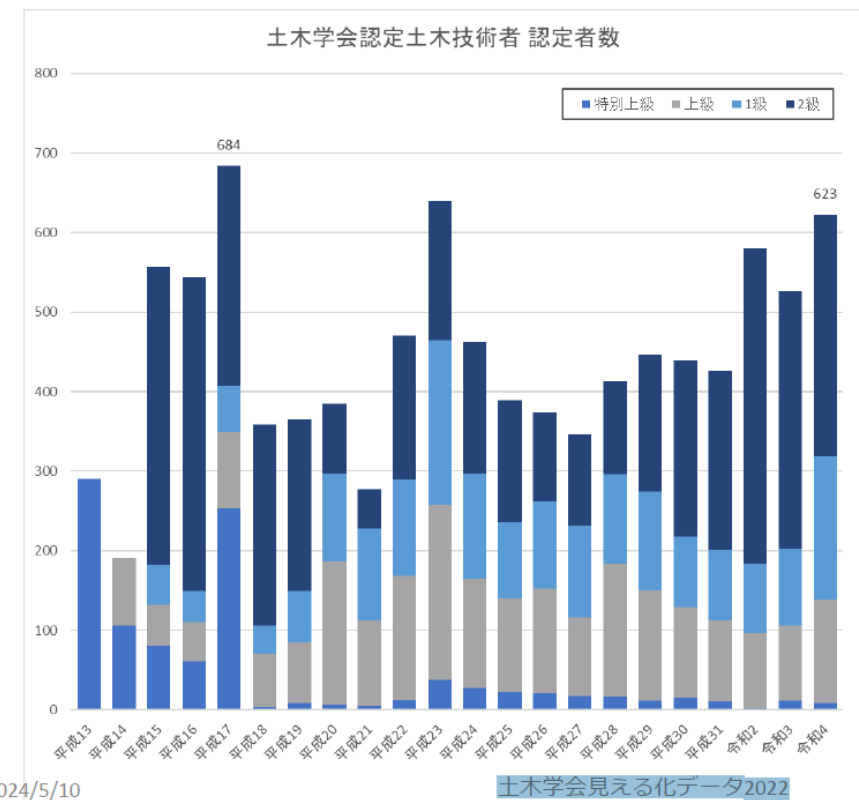
(対象期間:2022年4月1日~2023年3月31日)

	書名	担当委員会名	売上部数	発行年月	定価(円) (本体価格)
1	CL160 コンクリートのあと施工アンカー工法の設計・施工指針(案)	コンクリート委員会	674	2022年1月	4,500
2	実務に役立つ耐震設計入門~2022年改訂版~	地震工学委員会	541	2022年7月	3,400
3	知っておきたい斜面のはなしQ&A 一斜面の災害に備える~	地盤工学委員会	520	2022年1月	1,200
4	日本インフラの「技(わざ)」	土木学会誌編集委員会	501	2022年12月	1,400
5	モニタリング技術活用のための指針(案)	インフラメンテナンス総合委員会	416	2022年6月	4,400
6	CL156 鉄筋定着・継手指針[2020年版]	コンクリート委員会	409	2020年3月	3,200
7	仮設構造物の計画と施工[2010年改訂版]	建設技術研究委員会	404	2010年10月	6,000
8	Beyondコロナの日本創生と土木のビッグピクチャー[提言]	コロナ後の「土木」のビッグピクチャー特別委員会	397	2023年3月	1,500
9	PL18ブロック系舗装入門	舗装工学委員会	382	2023年1月	3,400
10	鋼構造架設設計施工指針 2012年改訂版	鋼構造委員会	323	2012年5月	4,400



土木学会見える化データ2022より

土木学会認定土木技術者

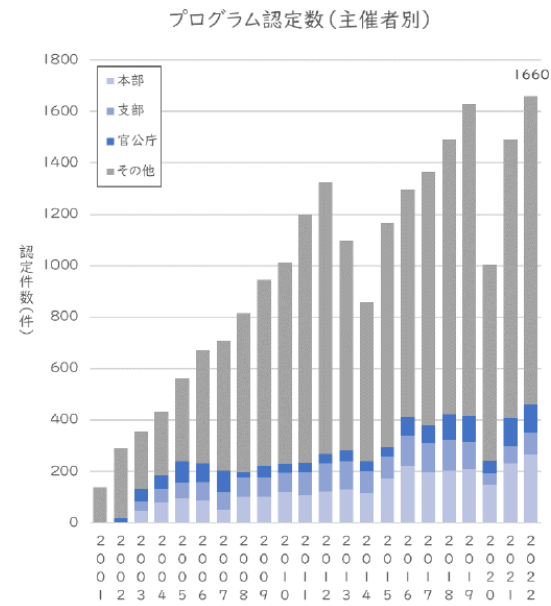


- ◆ 近年は認定者数が増加傾向
 - ◆ 上級・1級の認定が増加している
- 特別上級土木技術者**
専門分野における高度な知識および豊富な経験に基づく広範な見識により、日本を代表する技術者として土木界さらには社会に対して、多面的に貢献できる能力。
- 上級土木技術者**
複数の専門分野における高度な知識、あるいは少なくとも1つの専門分野における豊富な経験に基づく見識を有し、重要な課題解決に対してリーダーとして任務を遂行する能力。
- 1級土木技術者**
少なくとも1つの専門分野における高度な知識を有し、自己の判断で任務を遂行する能力。
- 2級土木技術者**
土木技術者として必要な基礎知識を有し、与えられた任務を遂行する能力。



土木学会認定土木技術者制度
<https://committees.jsce.or.jp/opcet/shikaku>

CPD認定プログラム（件数）

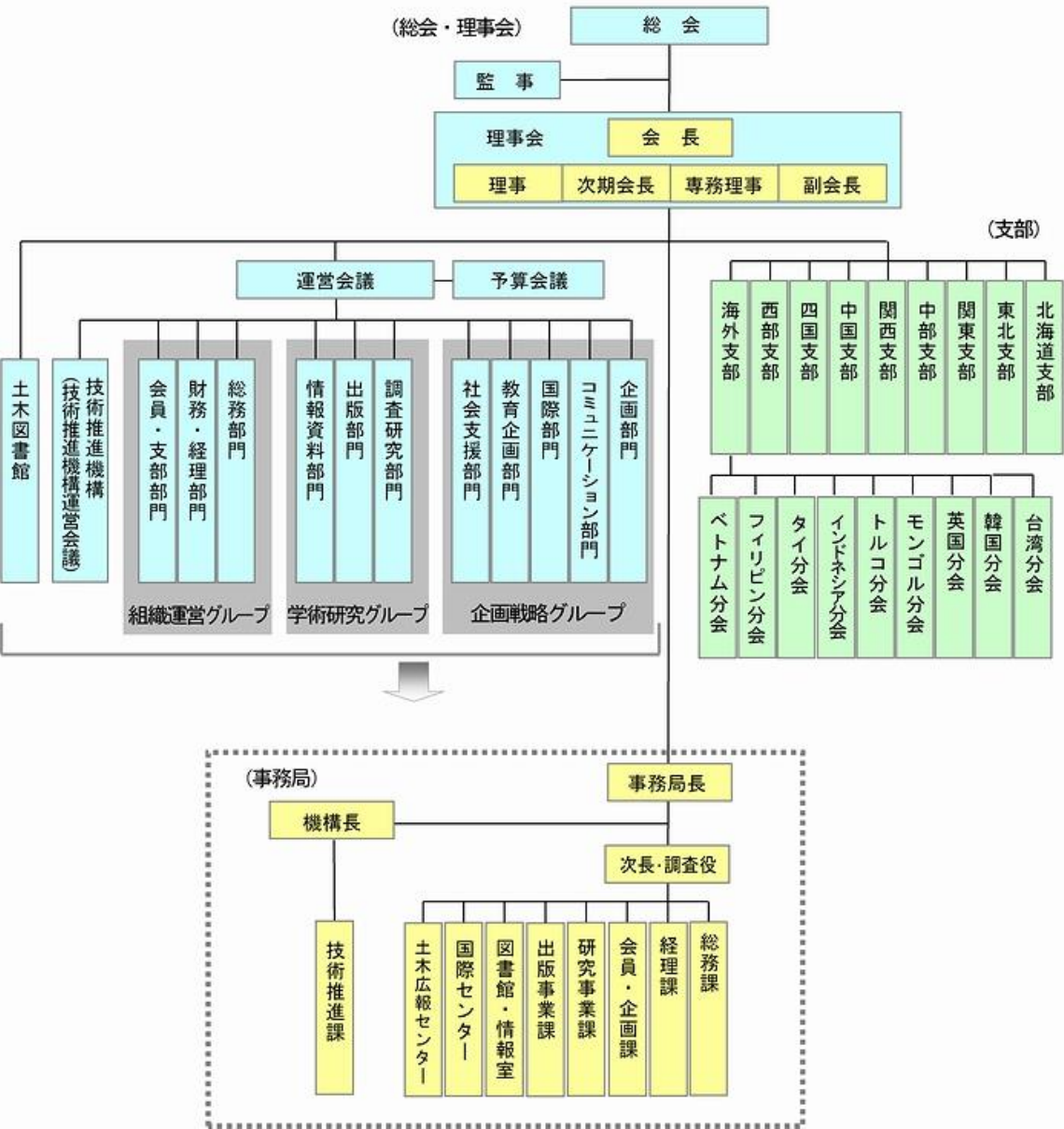


- ◆ CPDプログラム認定件数は、右肩上がり増加
- ◆ コロナ禍の2020年には大きく落ち込んだが、2022年は過去最高となる**1660件**のCPDプログラム認定件数



土木学会CPD制度
<https://committees.jsce.or.jp/opcet/cpd>

コロナで落ち込んだものの、近年増加傾向。



グループ	部門	委員会	付属する組織数
理事会		2023年度会長プロジェクト	4
		支部長会議	1
		次期会長候補者選考会議	1
		正副会長会議	1
		土木・建築タスクフォース	1
		土木学会・日本建築学会正副会長会議	1
企画戦略G	企画部門	歴代会長懇談会	1
		企画委員会	1
		「日本インフラの体力診断委員会	5
	コミュニケーション部門	論説委員会	1
		土木学会誌編集委員会	1
		土木広報センター	17
		土木広報戦略会議	1
		アジア土木学協会連合協議会担当委員会	1
		学術交流基金管理委員会	2
		国際センター	12
	国際部門	国際戦略委員会	1
		教育企画部門会議	1
		ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進委員会	1
	教育企画部門	教育企画・人材育成委員会	10
		大学院博士課程人材活用検討特別委員会	1
		インフラメンテナンス委員会	7
		減災・防災委員会	3
	社会支援部門	豪雨対策総合検討会	1
		司法支援特別委員会	1
		地盤検討会	1

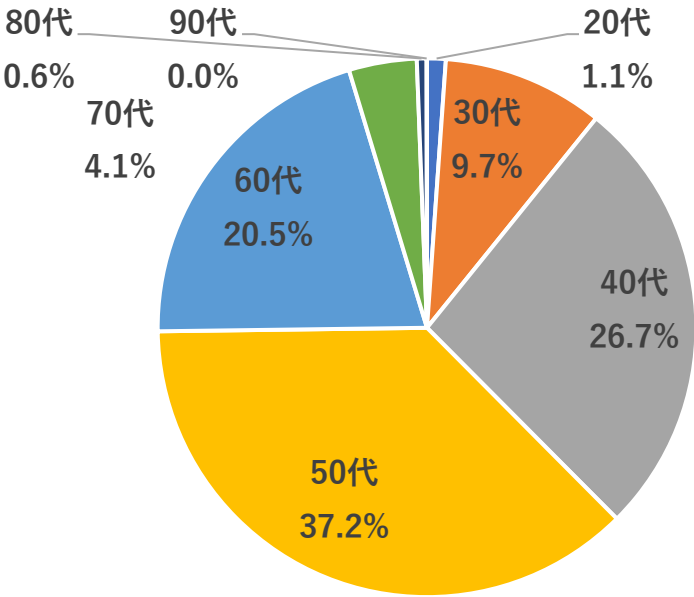
土木学会本部組織の組織数

グループ	部門	委員会	付属する 組織数
学術研究G	調査研究部門	調査研究部門会議	1
		エネルギー委員会	6
		コンクリート委員会	17
		コンサルタント委員会	6
		トンネル工学委員会	5
		安全問題研究委員会	4
		応用力学委員会	7
		海岸工学委員会	10
		海洋開発委員会	6
		環境システム委員会	5
		環境工学委員会	11
		岩盤力学委員会	9
		景観・デザイン委員会	4
		建設マネジメント委員会	26
		建設技術研究委員会	8
		建設用ロボット委員会	5
		研究企画委員会	1
		原子力土木委員会	8
		構造工学委員会	17
		鋼構造委員会	22
		水工学委員会	17
		地下空間研究委員会	8
		地球環境委員会	2
		地震工学委員会	15
		地盤工学委員会	5
		土木学会論文集編集委員会	22
		土木計画学研究委員会	18
		土木史委員会	8
		土木情報学委員会	12
		複合構造委員会	11
		舗装工学委員会	16
		木材工学委員会	6

グループ	部門	委員会	付属する 組織数
	出版部門	出版委員会	1
	情報資料部門	土木技術映像委員会	3
		土木図書館委員会	2
組織運営G	総務部門	110周年記念事業実行委員会	1
		学術振興基金運営委員会	1
		学術文化事業運営委員会	1
		環境賞選考委員会	1
		技術開発賞選考委員会	1
		技術功労賞選考委員会	1
		吉田賞選考委員会	2
		公益増進事業運営委員会	1
		国際貢献賞選考委員会	1
		出版文化賞選考委員会	1
		全国大会委員会	3
		田中賞選考委員会	1
		土木学会選奨土木遺産委員会	1
		表彰委員会	1
		名誉会員候補者選考委員会	1
		役員候補者選考委員会	1
		倫理・社会規範委員会	3
		論文賞選考委員会	1
	財務・経理部門	部門会議	1
		予算会議	1
	会員・支部部門	会員支部部門会議	1
		フェロー審査委員会	1
技術推進機構		技術推進機構運営会議	2
		ICT教育特別委員会	1
		ISO対応特別委員会	2
		技術者教育プログラム審査委員会	1
		技術評価制度検討委員会	1
		継続学習委員会	2
		土木技術者資格委員会	6

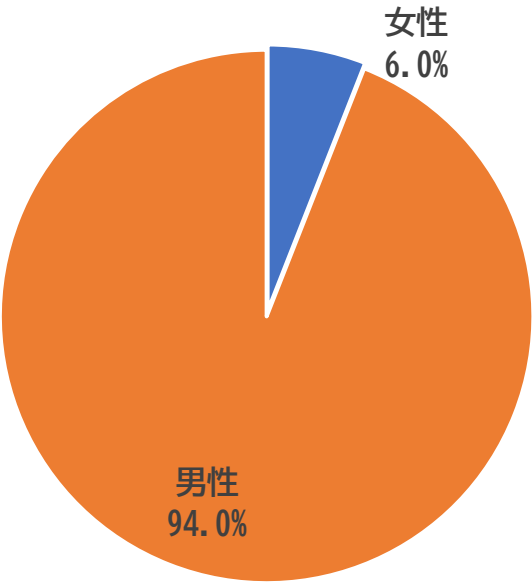
	組織体	参加人数	うち、外国籍
本部に所属する 委員会・小委員会	442組	10,372名 (延べ人数)	71名 (0.7%)

不明（≒非会員） 1,633人



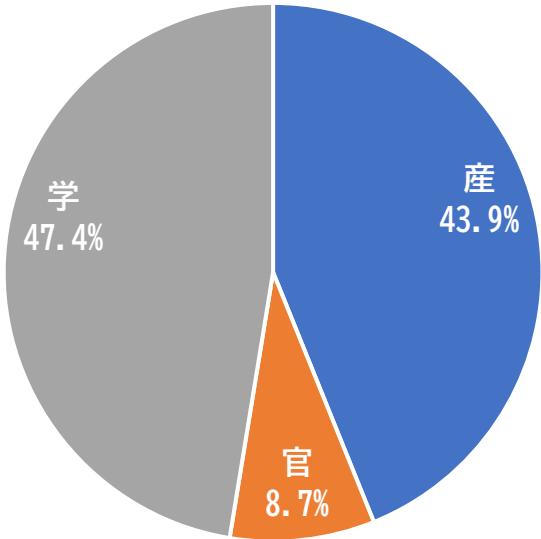
20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
30	847	2,336	3,255	1,794	356	51	2

年代別割合
(不明除く)



男性	女性
8,218	521

男女別割合
(不明除く)



産	官	学
3,836	759	4,144

業種別割合
(不明除く)

④組織活動実態把握アンケート

結果の概要

2024年4～6月に、学会の実態把握を目的とした以下のアンケート調査を実施

組織活動実態把握アンケート

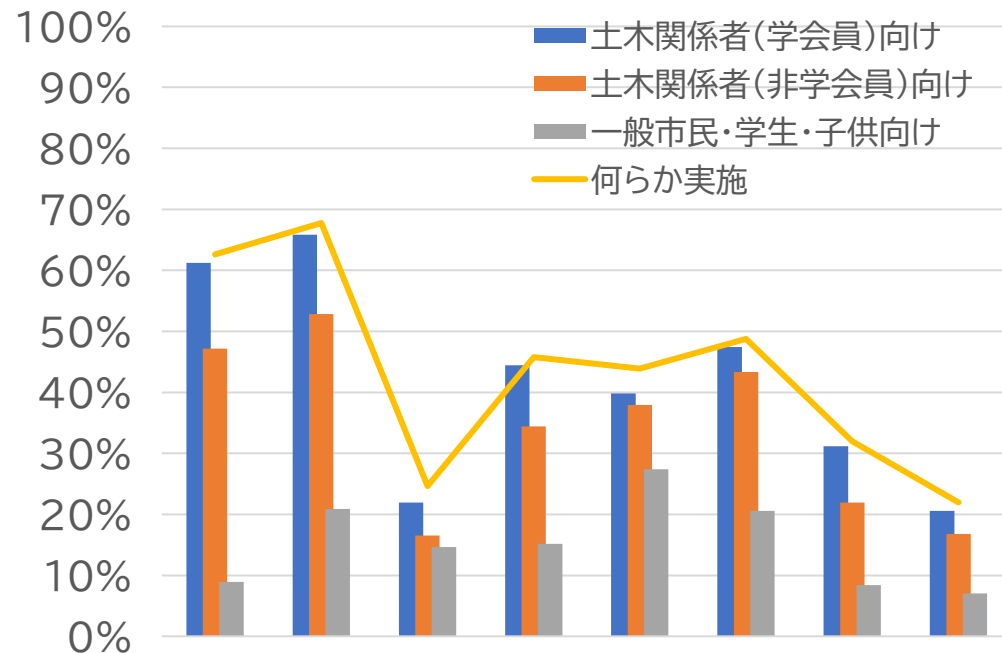
- 土木学会の各組織（委員会、小委員会、支部等）の活動実態等を把握
- 【回答数】本部各委員会等：328、支部各組織：41 【回答率 75%】

組織活動実態把握アンケートの実施（2024.4.27～5.29）

	組織体	送信組織体	回答組織体
本部に所属する 委員会・小委員会	442組	442組	328組 (74.2%) ※
支部に所属する 委員会・小委員会※	50組	50組	41組

※うち組織をまとめて
回答が2件あるため、
回答数は327件

活動内容(全体)



・「研究発表会、報告会、講演会等」

「学術調査・研究」

→主として学会員や土木関係者向けの学会活動の核と言える

・「図書、印刷物、映像資料等の刊行」

「勉強会、研究会、セミナー等」

「教育、啓発、広報活動」

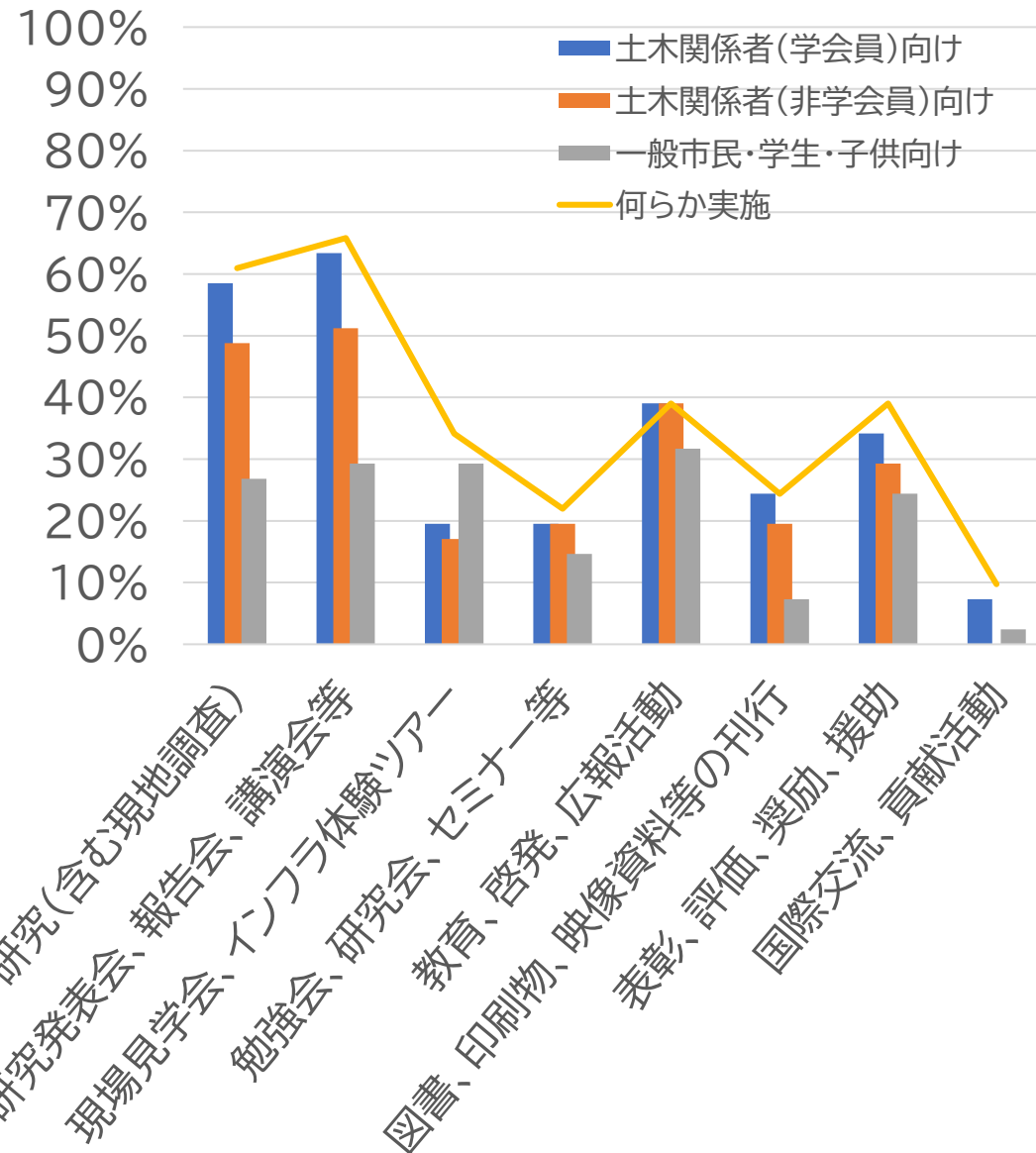
→学会員向けのみならず非学会員や一般市民向けの主たる活動である

ただし、活動を実施する上で何らかのハードル（費用面・労力面等）があると推定される。

・「現場見学会、インフラ体験ツアー」

→他の取り組みに比較して実施率が低く、費用面・労力面に加えて組織内の運営ノウハウ不足等の高いハードルがあると推定される。

活動内容(各支部)



各支部の活動は実施率が高い順に

- 「研究発表会、報告会、講演会等」
- 「学術調査・研究」
- 「教育、啓発、広報活動」
- 「表彰、評価、奨励、援助」
- 「現場見学会、インフラ体験ツアー」

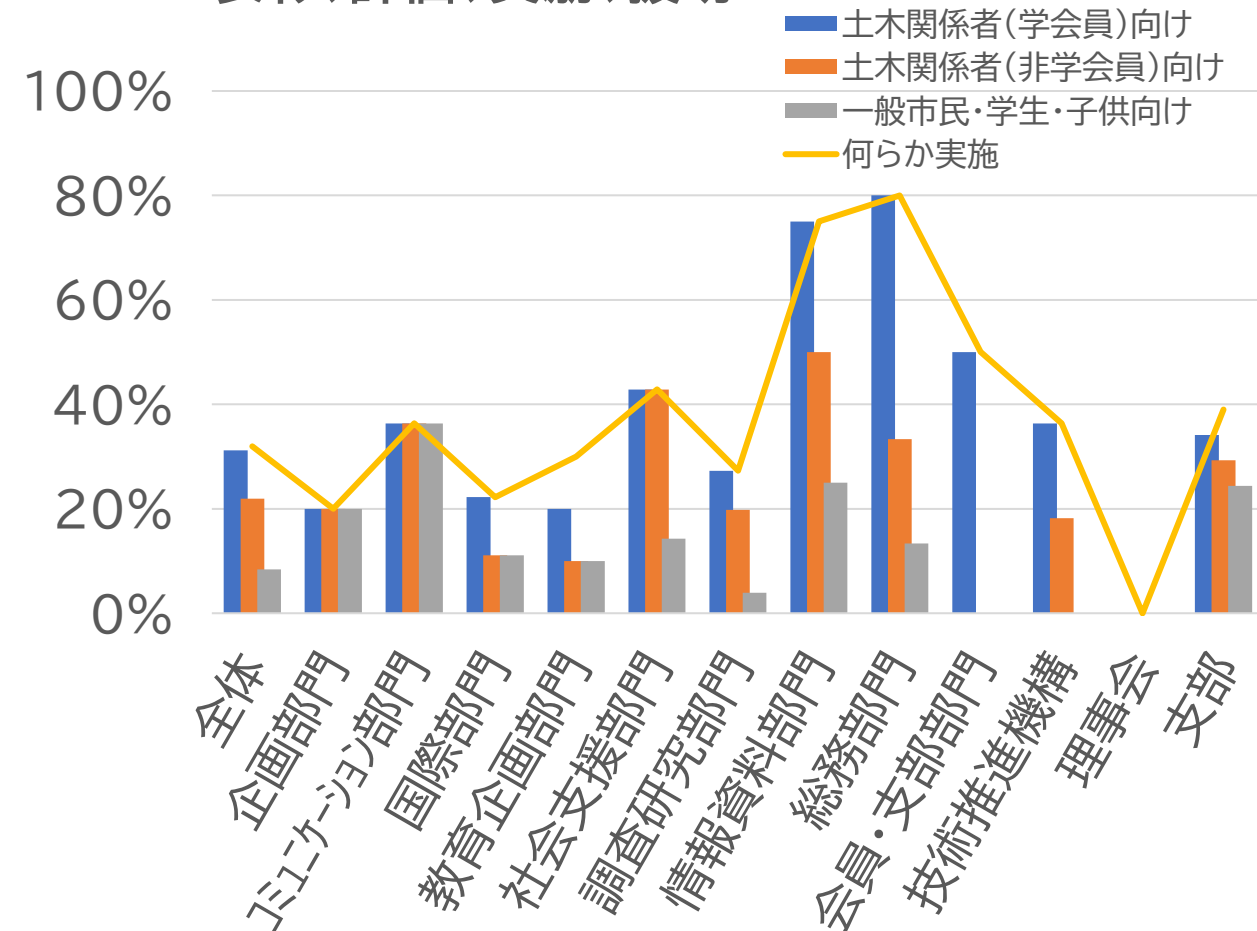
✓「勉強会、研究会、セミナー等」、「図書、印刷物、映像資料等の刊行」の実施率が少ない以外は**概ね本部各委員会等と重なる**

✓学会員のみならず**非会員や一般市民に向けた幅広い取り組み**がなされている

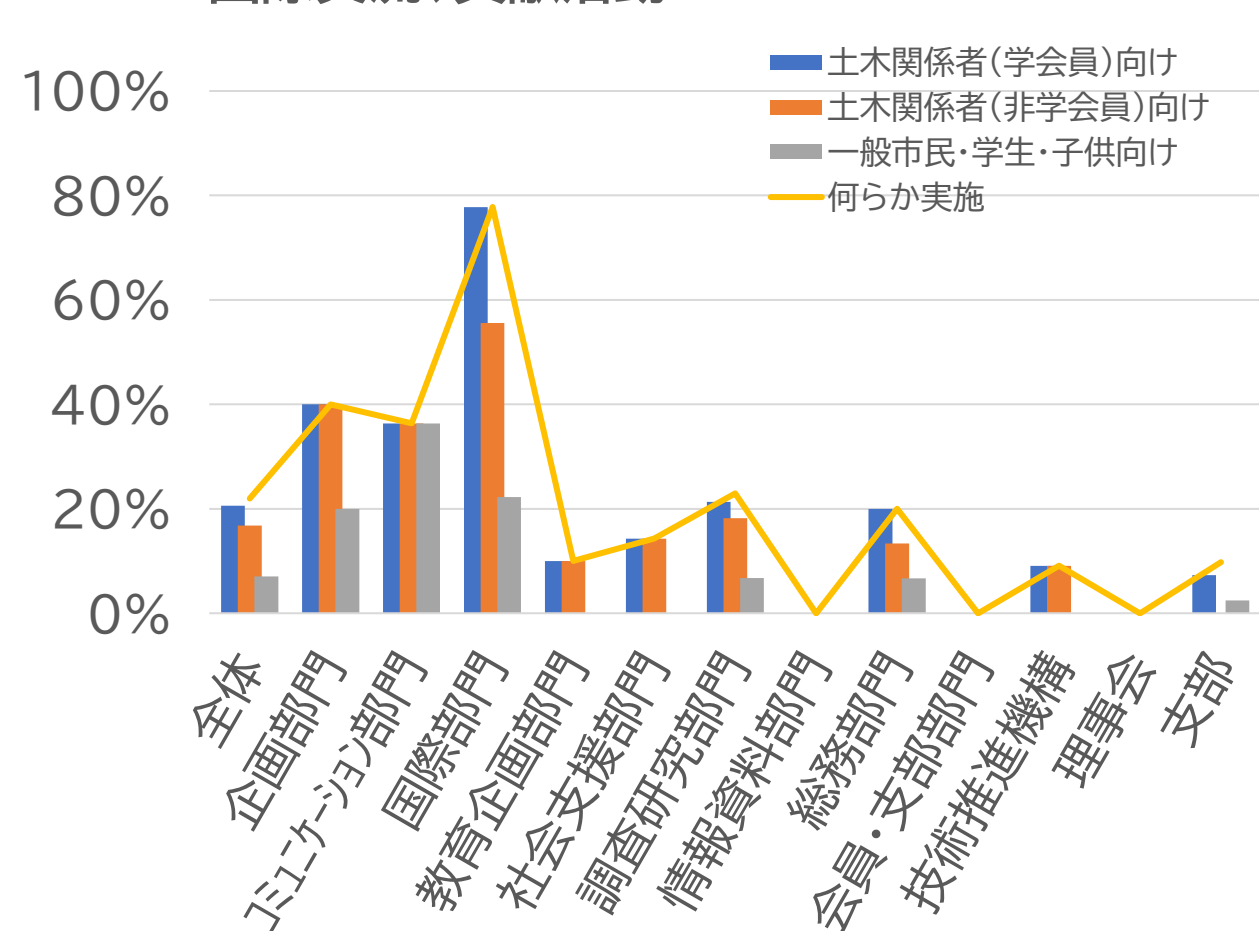
✓**地域に密着した市民と学会をつなぐ活動が多く取り組まれていると推定される**

土木学会の活動実態③ ～各部門～

表彰、評価、奨励、援助



国際交流、貢献活動

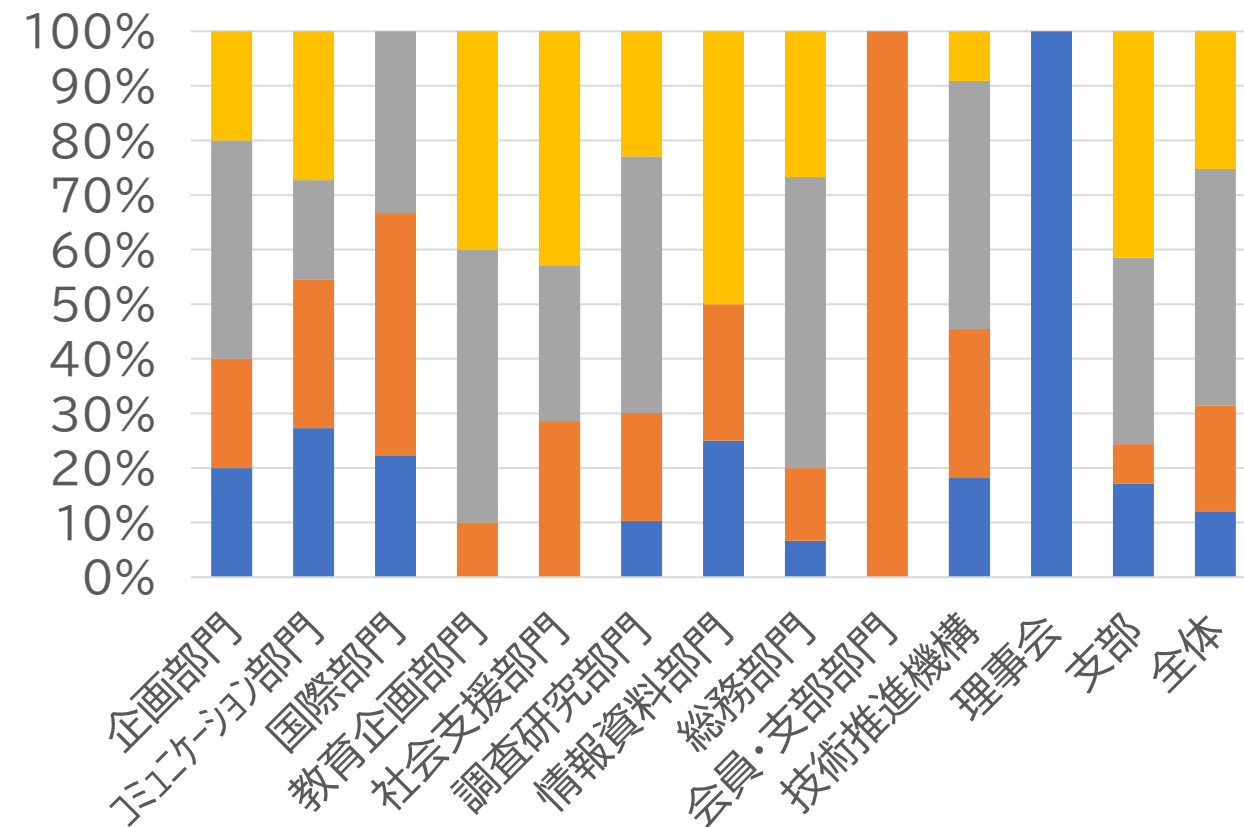


✓「表彰、評価、奨励、援助」は総務部門等を中心に、「国際交流、貢献活動」は国際部門を中心
 に、主として会員・土木関係者向けに取り組みがなされており、学会全体の中で必要に応じた
 取り組みがなされているものと推定される。

土木学会の活動実態④ ～活動の頻度～

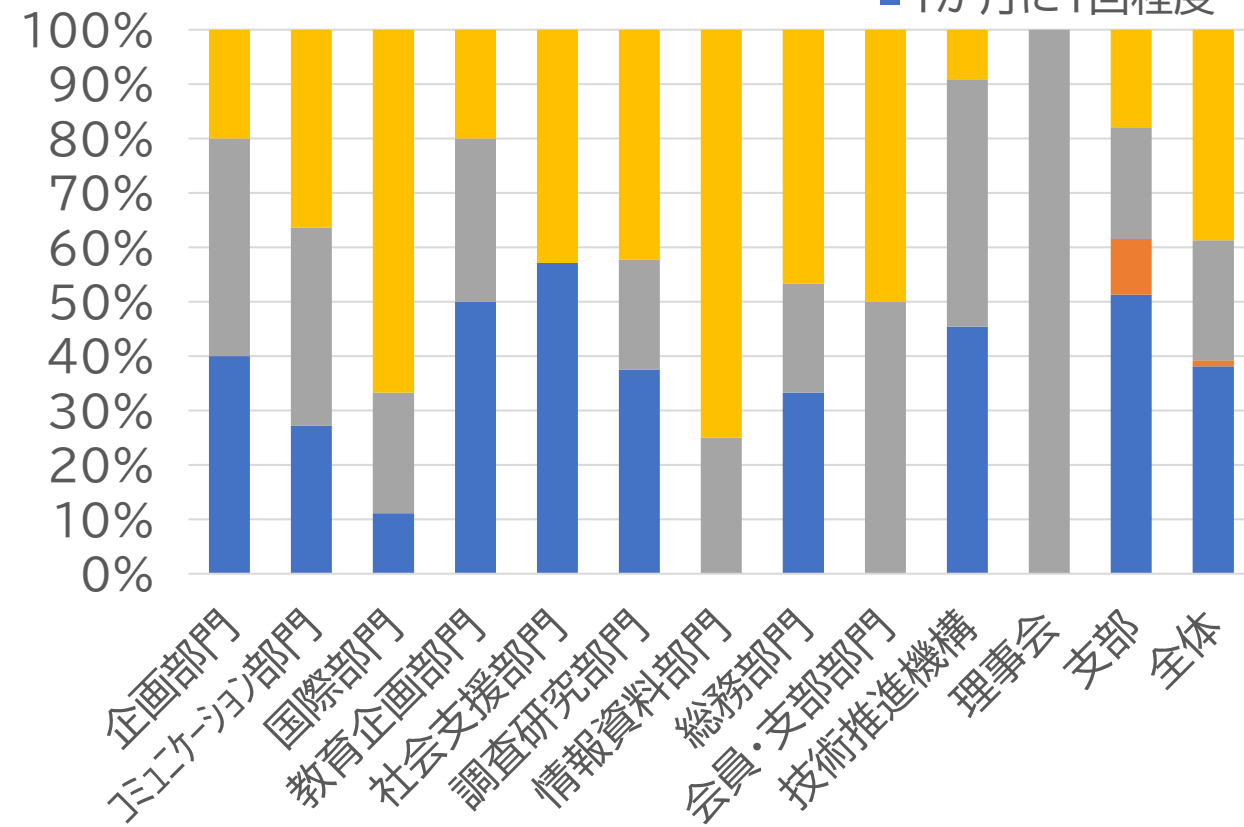
会議等の開催頻度

■ 半年に1回程度
 ■ 3か月に1回程度
 ■ 2か月に1回程度
 ■ 1か月に1回程度



主体となる活動の頻度

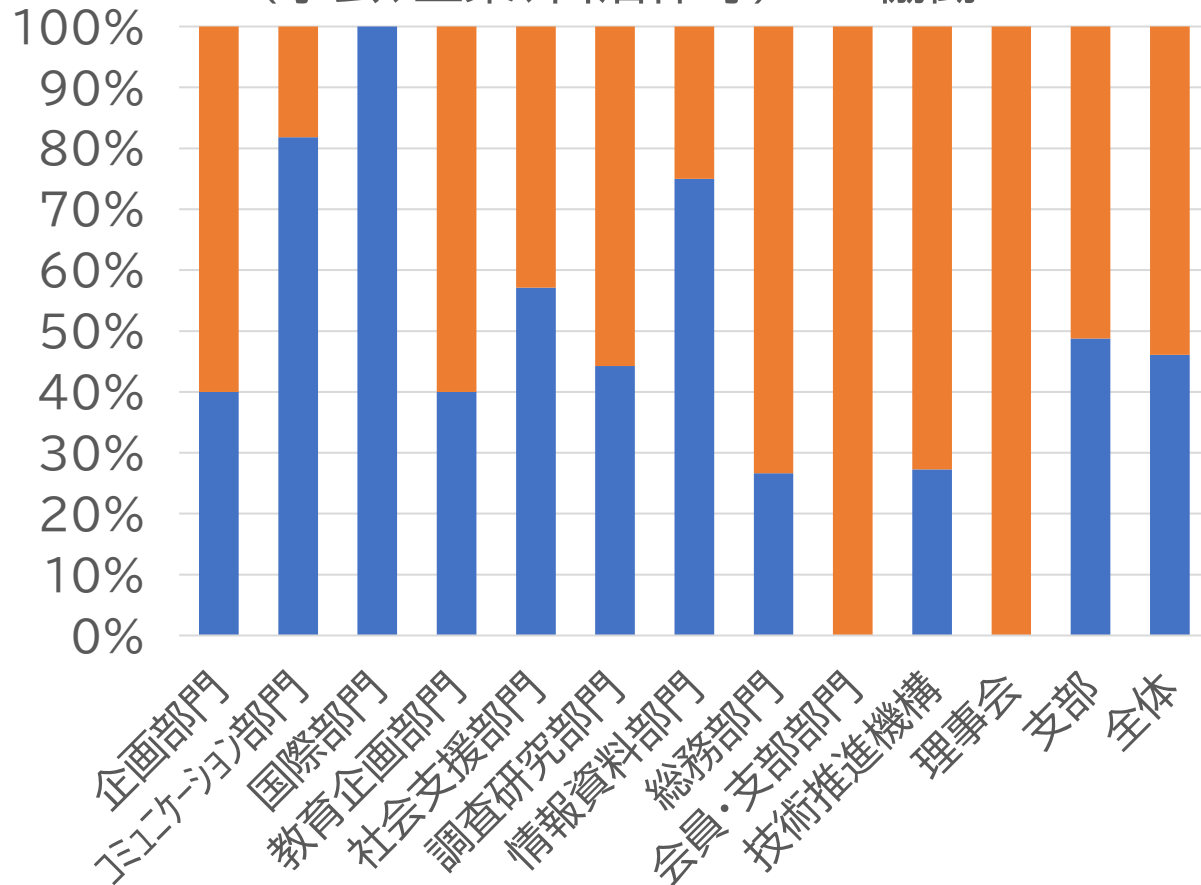
■ 半年に1回程度
 ■ 3か月に1回程度
 ■ 2か月に1回程度
 ■ 1か月に1回程度



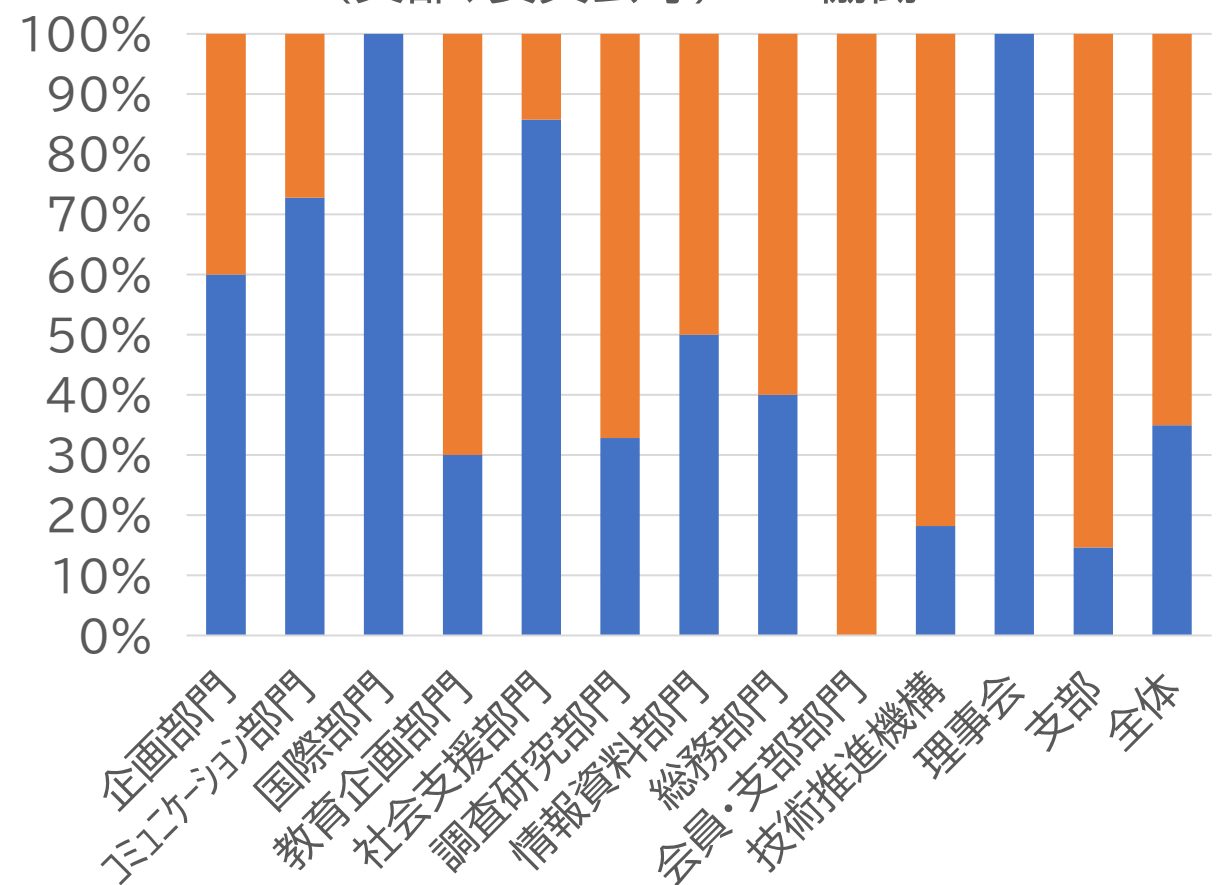
- ✓ 各組織の会議開催頻度、主体となる**活動の頻度は3か月に1回程度以下が過半**であり、会員のボランティアにより成立する社団法人としての実態を示していると考えられる。

土木学会の活動実態④ ～他組織との協働～

土木学会以外の他の組織
(学会、企業、自治体等)との協働



土木学会内の他の組織
(支部、委員会等)との協働

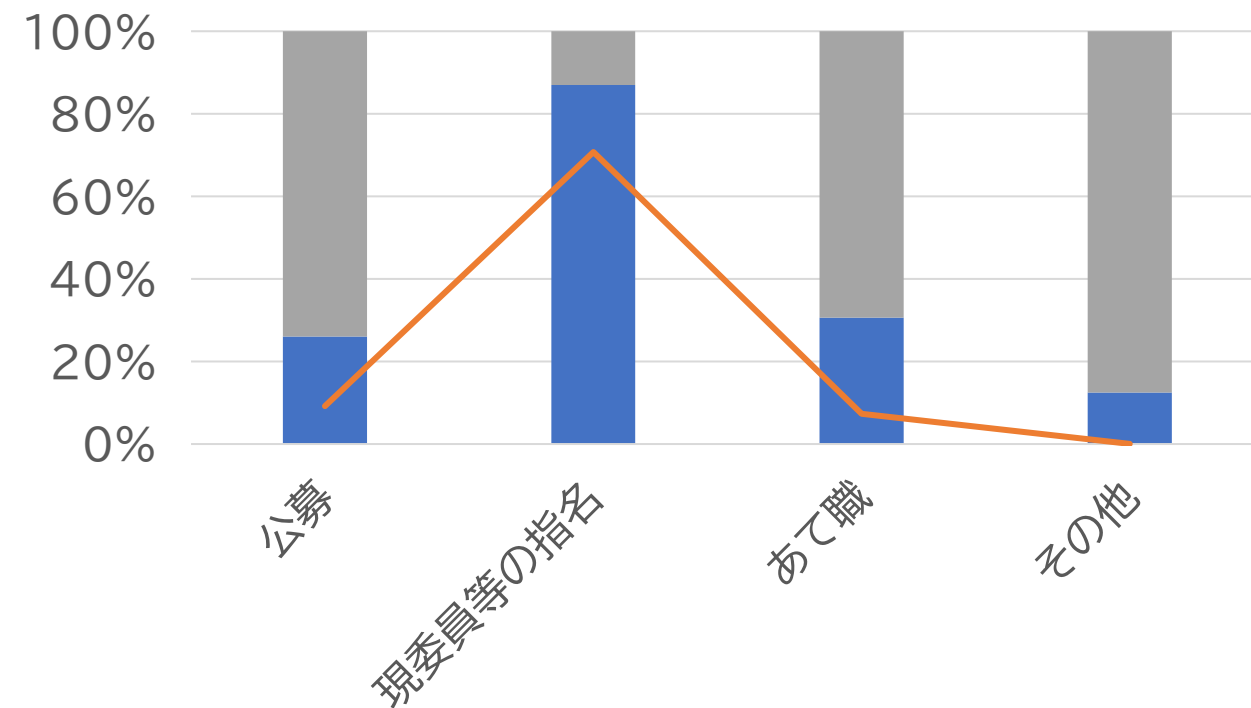


- ✓ 企画、社会支援、総務、理事会以外の部門で**学会外よりも学会内の連携が少ない結果**となっており、関連学協会等との連携が行われている一方で、学会内の組織の横つなぎはあまりできていないものと考えられる。

土木学会の活動実態⑤ ～委員選定・参画～

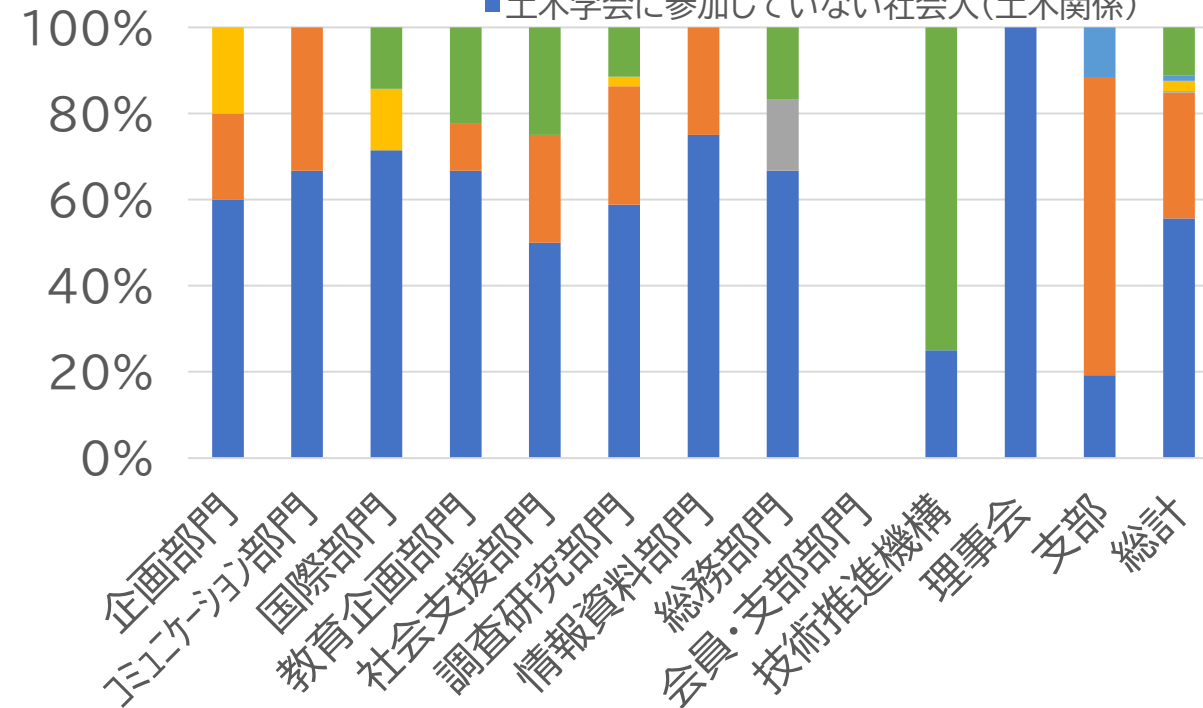
次期メンバー選任方法(学会全体)

■ 無回答 実施率
 ■ あり 実施率
 — 最もあり 実施率



各組織内の学会員以外の参画

■ 不明
 ■ その他
 ■ 学生
 ■ 支部事務局職員
 ■ 土木学会に参加していない社会人(土木関係以外)
 ■ 土木学会に参加していない社会人(土木関係)

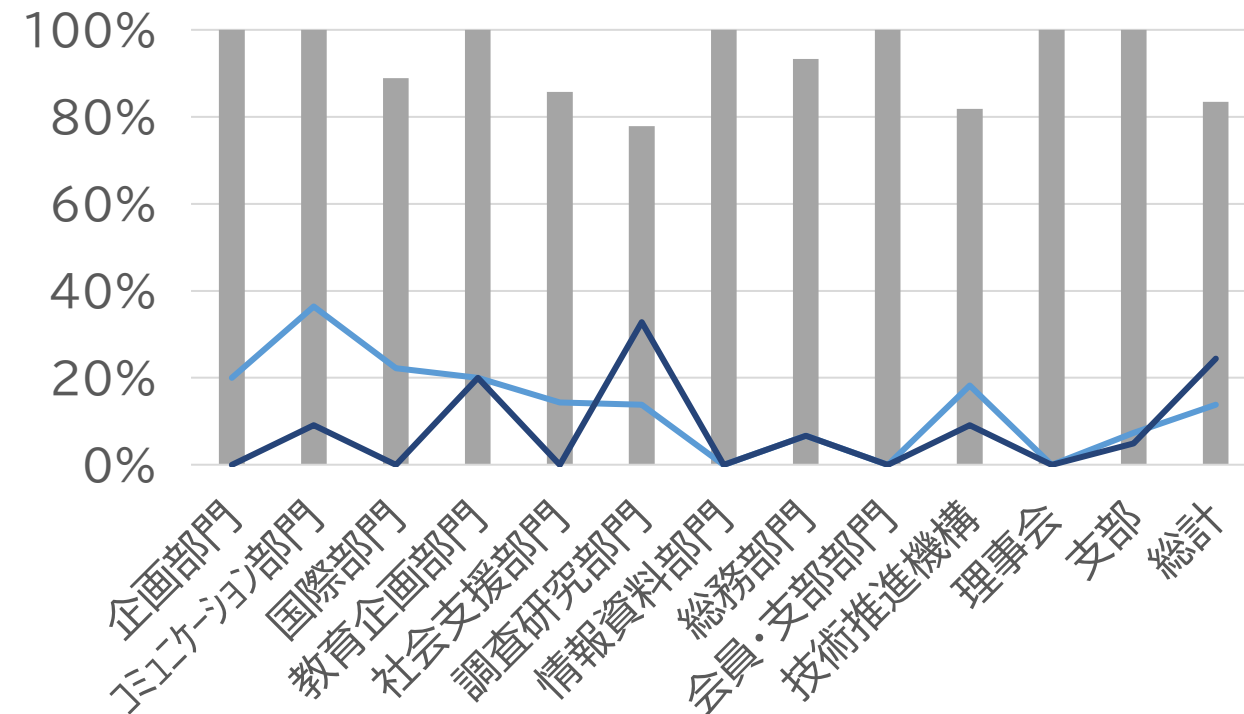


- ✓ 次期メンバーの選定方法は全部門において**現メンバーの指名**が主体であり、公募の比率は低い。
- ✓ 各組織に参画する**学会員以外の方は、社会人がほとんどであり、その多くは土木関係者かつ土木学会未加入の方**である。

土木学会の活動実態⑥ ～活動資金～

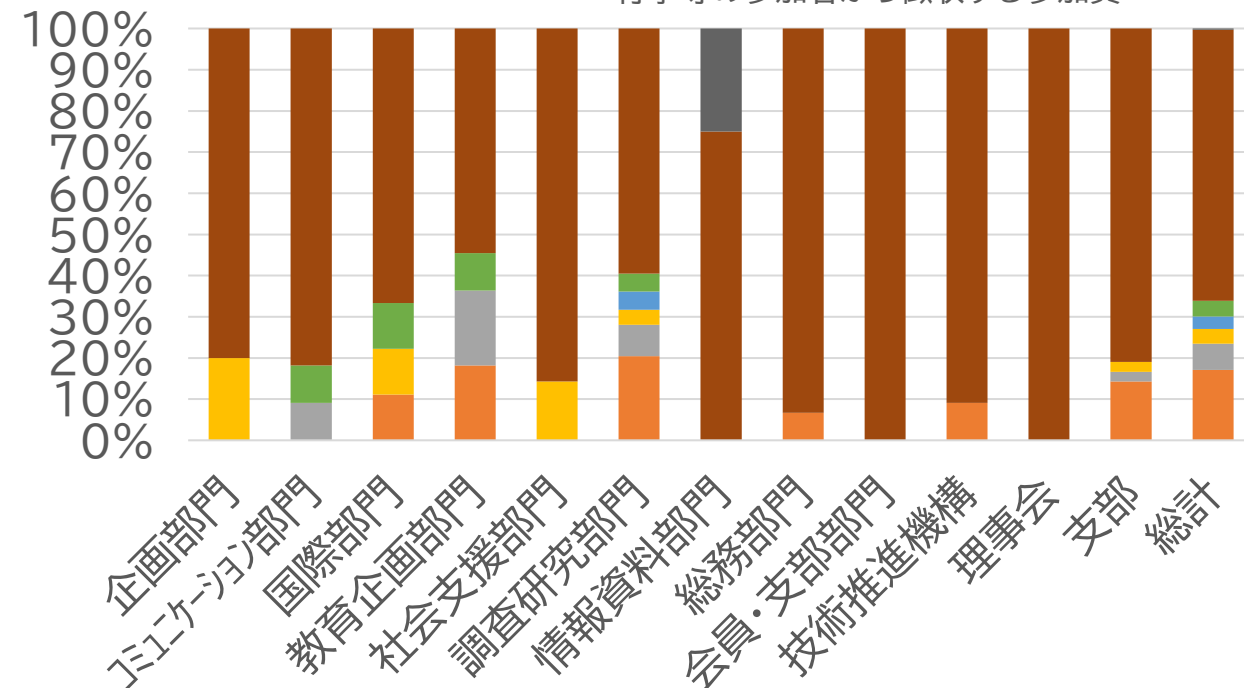
活動資金の調達方法

- 土木学会の資金(予算) 実施率
- 他の組織が拠出する資金(委託研究費、共催・後援組織からの拠出金等) 実施率
- 貴組織が独自に調達する資金 実施率



独自資金の調達方法

- 無回答
- 独自に資金調達が行っていない
- 一般市民等からのクラウドファンディング
- 企業等からの寄附金
- 公的機関からの補助金
- 公募等による外部団体からの交付金等
- 活動運営に関わるメンバーが拠出する資金
- 行事等の参加者から徴収する参加費



✓ 各組織の活動資金はほとんどが学会予算により賄われている

✓ 外部からの資金調達方法は行事参加メンバー負担のほか、連携する関連学協会等からの資金支援等が行われている一方で、クラウドファンディングで資金調達をしている事例はみられない。

【知の探求・集積】

- **持続可能な活動** **環境に配慮した持続可能な活動の推進**
- **教育プログラムの充実** **継続教育プログラムの充実、専門知識・スキル向上講座**
- **環境問題への取り組み** 環境問題に対する取組強化、研究やプロジェクトの推進
- **災害対応力の向上** 災害時の対応力を強化するための訓練やシミュレーション
- **倫理教育の推進** 技術者としての倫理観を高めるための教育プログラム導入

【知の体系化】

- **人材育成の強化** **若手技術者の育成、CPDプログラムの充実**
- **教育機関との連携** **大学や専門学校との連携強化、教育プログラムの充実**
- **技術標準の策定** **新しい技術標準の策定、業界全体での標準化推進活動**

【発信・外部との交流】

➤ 国際協力の強化

他国の土木学会・団体との連携強化、国際的な視野拡大
国際的学術交流推進、海外研究者との共同研究の拡充

➤ 広報活動の強化

学会の活動や成果を広く社会に発信、認知度向上
SNSやウェブサイトを活用した広報活動強化

➤ 会員サービスの充実

会員向けのサービス・サポート体制の強化

➤ イベントの多様化

セミナーやWSなどイベントを多様化、参加者ニーズに対応
オンラインイベントの開催頻度増

➤ 中小企業の支援

中小企業の技術力向上や経営支援

➤ 多様な働き方の推進

リモートワークやフレックスタイムなど、多様な働き方を推進

➤ 技術者の健康管理

技術者の健康管理やメンタルヘルスのサポート体制整備

➤ 文化活動の支援

技術者の文化活動や趣味を支援、リフレッシュの機会提供

➤ 学会誌の改善

学会誌の内容充実、読みやすさ・デザインの改善

➤ 会員間の交流促進

会員同士の交流促進イベント、ネットワーキングの機会提供

【学会の体制・運営】

- デジタル化の推進
- 組織の効率化
- 技術革新の促進
- 運営の透明性向上
- 会員の意見反映
- 技術情報の共有
- 地域活動の強化

オンライン・SNSを活用した情報発信とコミュニケーション強化

業務プロセスの見直しと効率化、DXの推進

最新技術の導入と活用を促進し、技術力の向上

学会運営に関する情報公開の徹底
意思決定プロセスの透明化

会員の意見や提案をもっと積極的に取り入れる仕組み
定期的なアンケートや意見交換会

最新の技術情報や研究成果を共有する場の拡大
定期的な技術報告会やニュースレターの発行
プロジェクトデータの共有と活用を促進、効率的な業務遂行

地域ごとの活動の活発化
地方支部の活動支援や地域イベントの開催
地域ごとの課題に対応

【その他全般】

- **資金調達の多様化** **資金面の限界を克服するための多様な資金調達方法
(スポンサーシップや寄付などを検討)**
- **会費の見直し** **会費の使途明確化、見直しや減額の検討**
- **若手研究者の支援** **若手研究者への支援強化
研究発表の機会や奨学金の提供**
- **女性技術者等の支援** **女性技術者のキャリア支援やネットワーキングの機会増加
女性研究者の活躍を支援するための具体的な施策
女性向けのネットワーキングイベントやメンター制度の導入**

⑤土木学会に対する意識に関するアンケート

結果概要

【一般】：一般向けアンケート

【学会員】・【学会員以外関係者】：土木学会員、土木・建築関係者向けアンケート

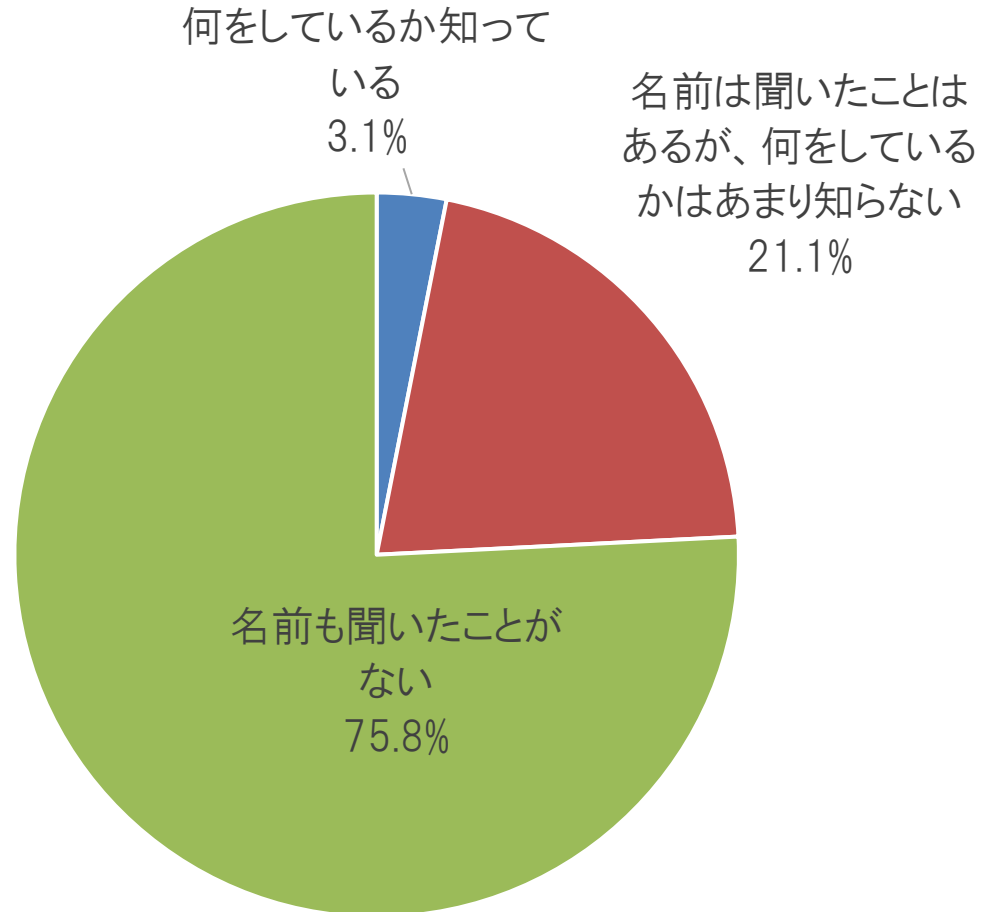
- ① 土木学会に対する意識調査アンケート（土木学会員、土木・建築関係者向け）（WEB）（2024.04.29～2024.06.15）
- 土木学会活動への参画状況、土木学会のイメージ、土木学会に期待すること等を把握
 - 【回答数】936（うち、土木学会員553、土木関係者（学会員でない）335、その他48）

[アンケートローデータ](#)

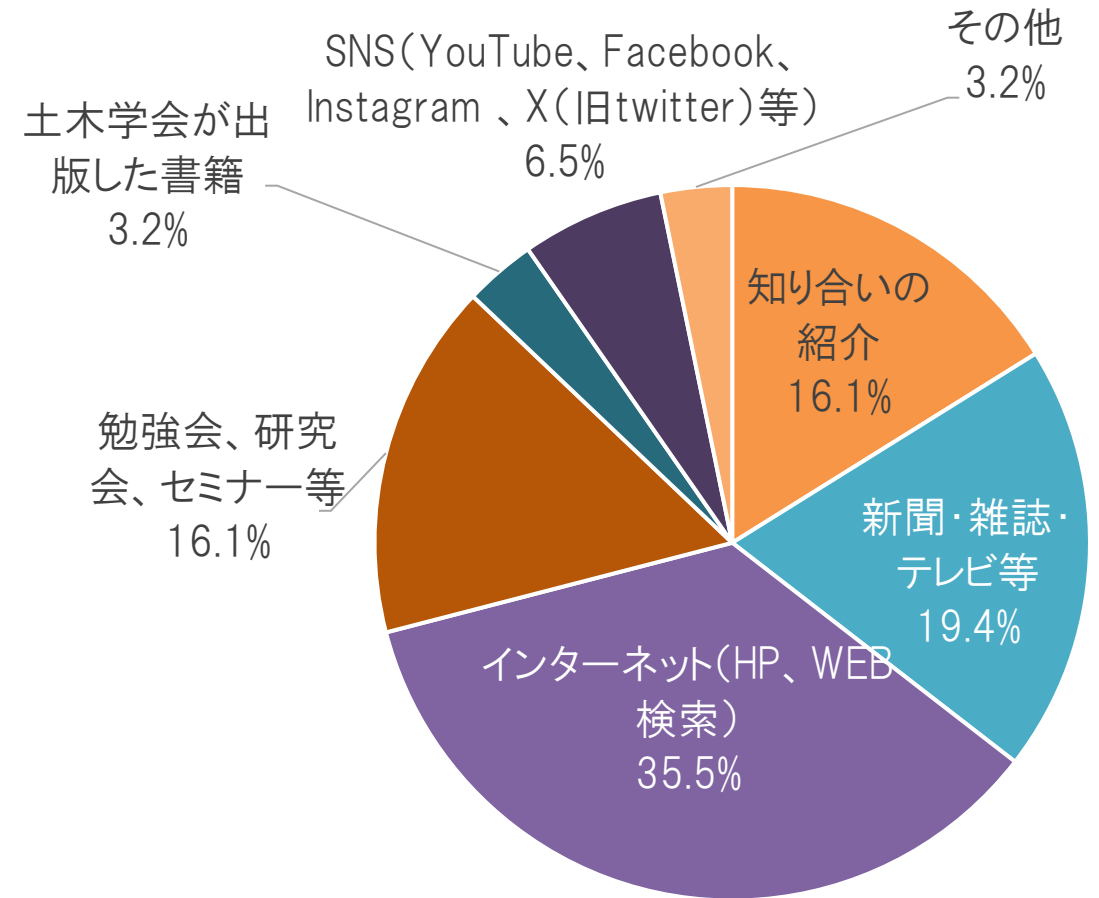
- ② 土木学会に対する意識調査アンケート（一般向け）（WEB）
（2024.07.08～2024.07.15）
- 土木学会の認知度、イメージ、活動への参加意向、インフラへの認識等を把握
 - 【回答数】1000（男・女：各500、20代以下・30代・40代・50代・60代以上：各200）

[アンケートローデータ](#)

【一般】土木学会の認知度

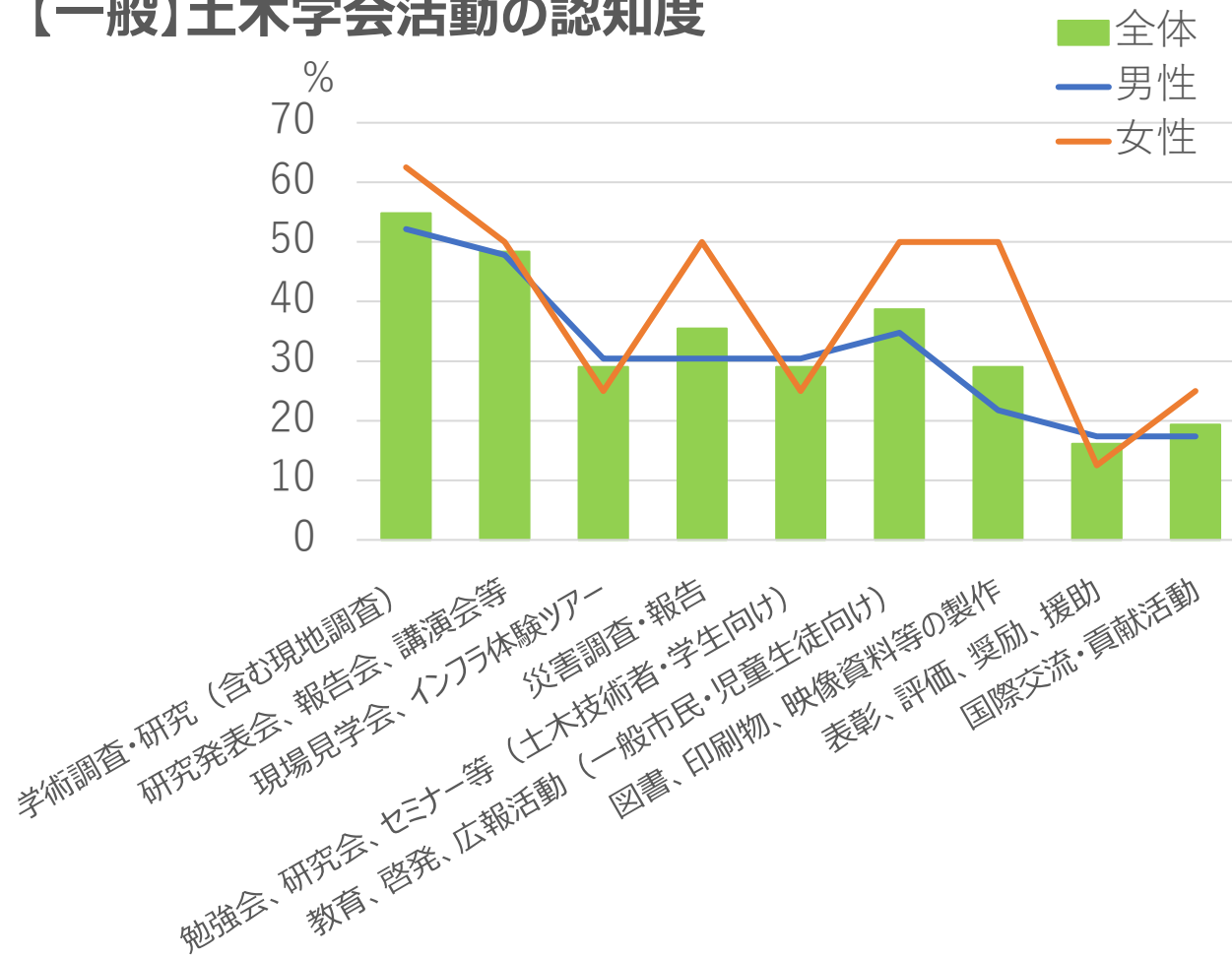


【一般】土木学会を知った手段

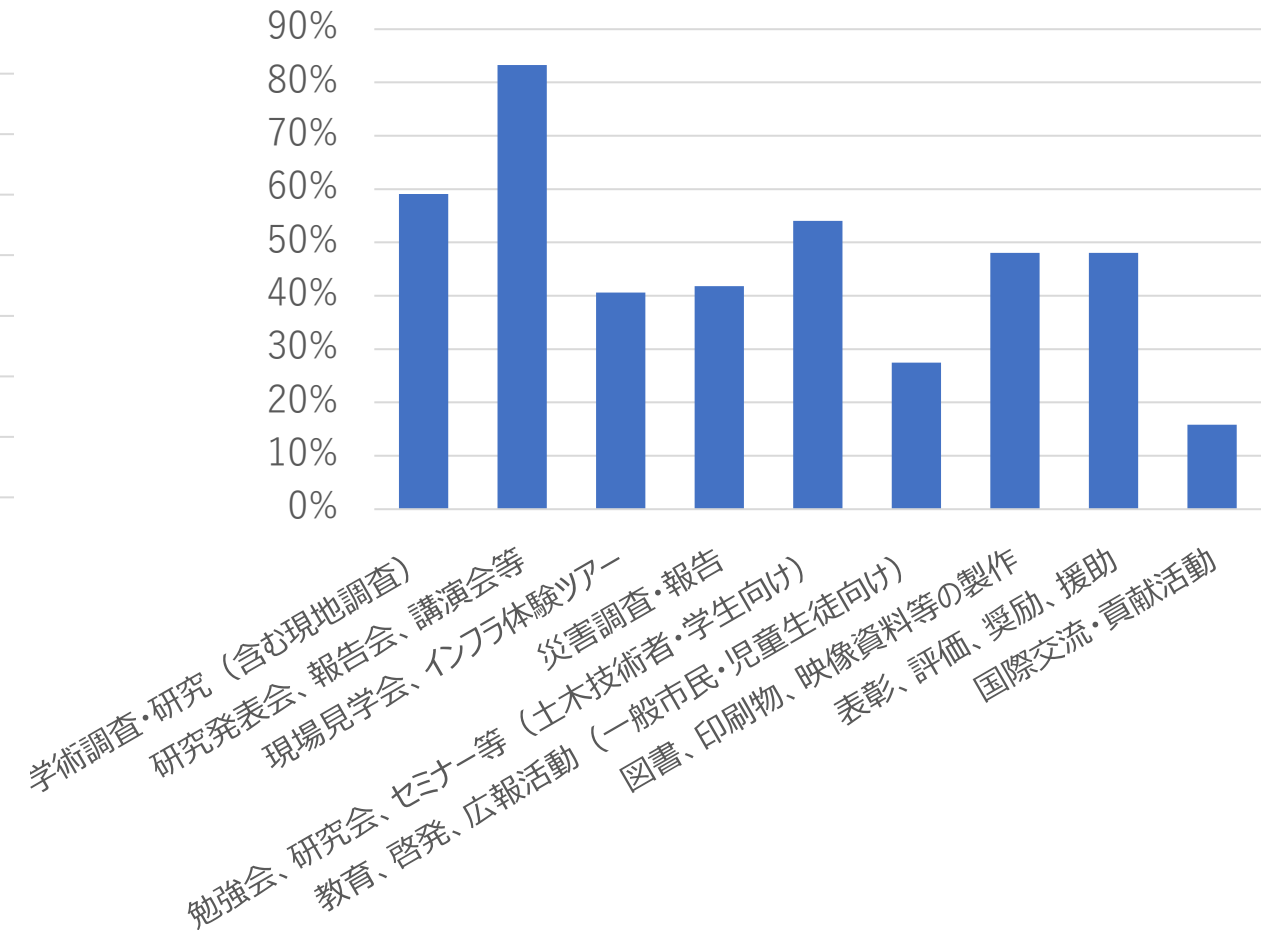


- ✓ 土木学会の認知度は、名前を知っているのが24%、活動内容まで知っているのが3%。
- ✓ 土木学会を知る手段として、「ホームページ」、「新聞・雑誌・テレビ等」、「勉強会、研究会、セミナー等」で71%を占める。

【一般】土木学会活動の認知度

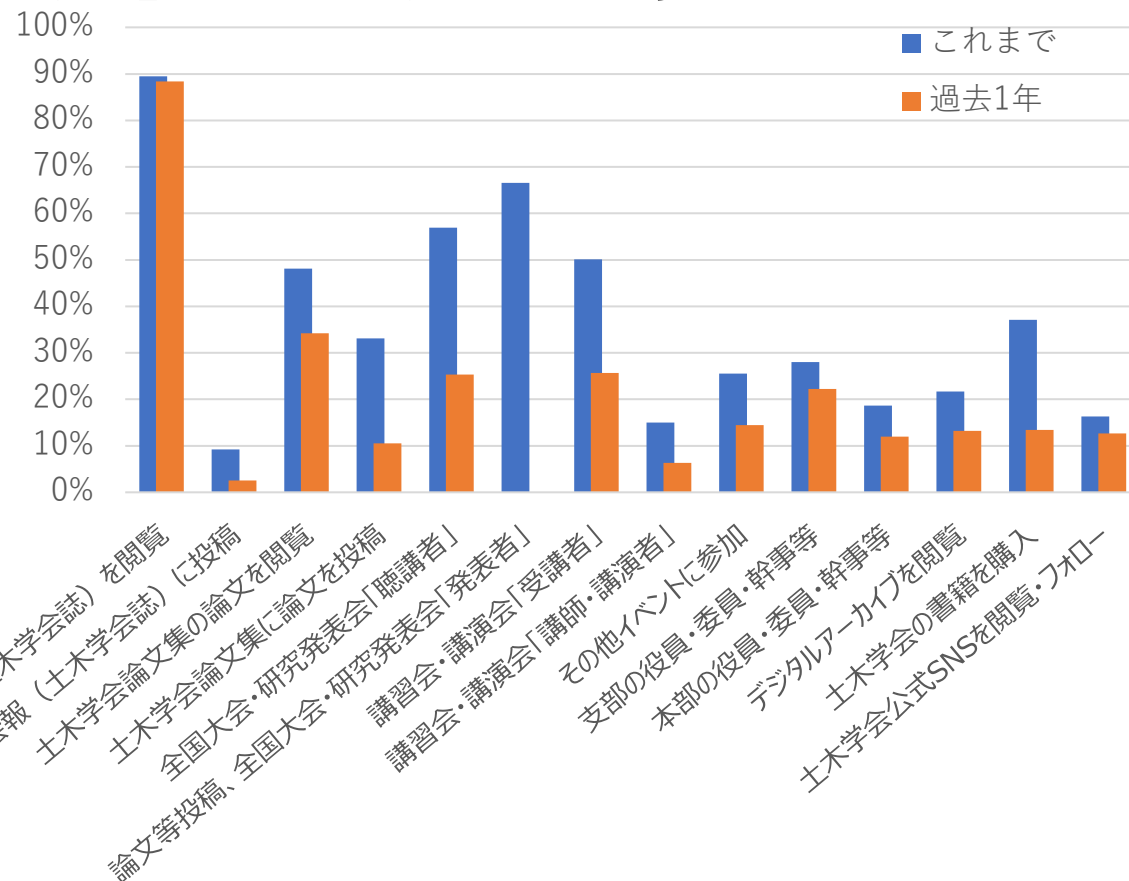


【学会員以外関係者】土木学会活動の認知度

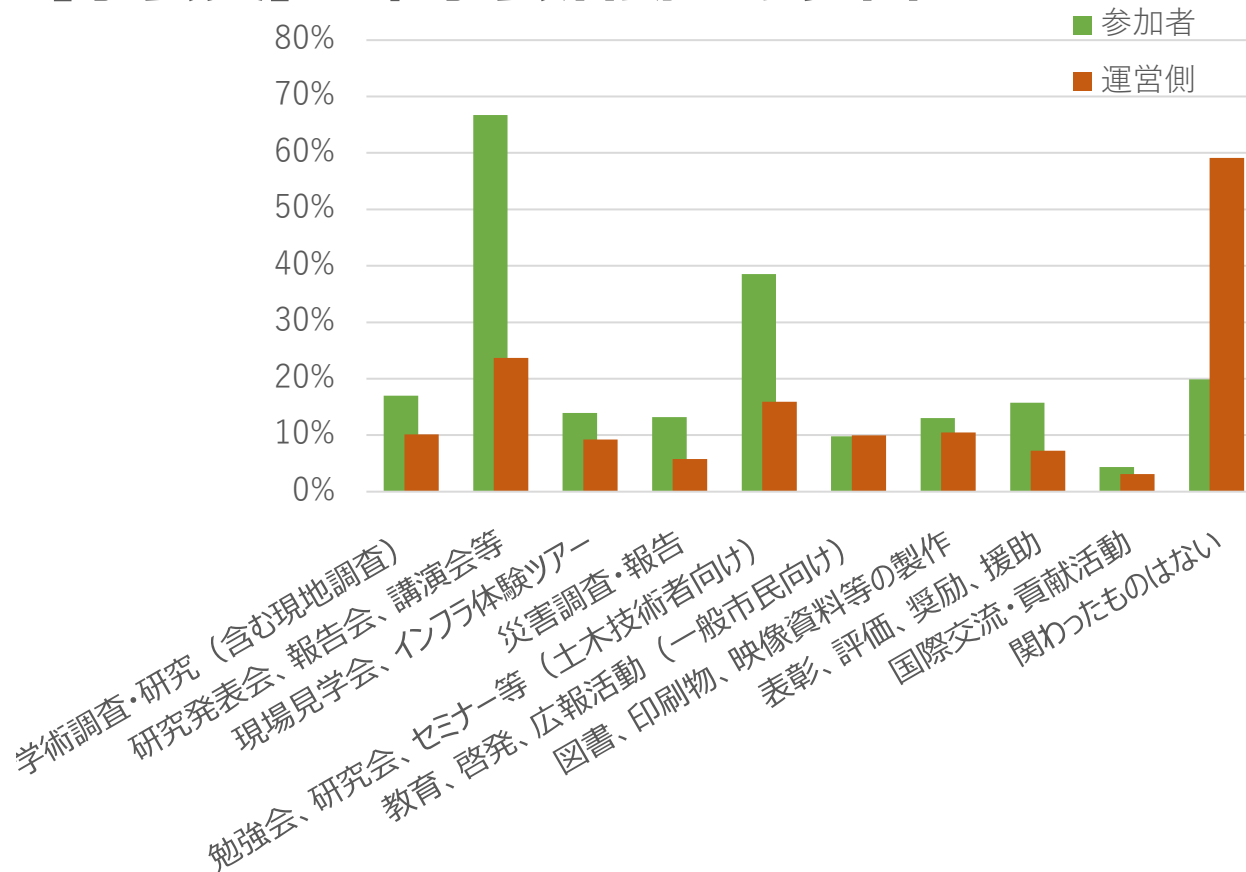


- ✓ 土木学会の活動は、「学術調査・研究 (含む現地調査)」、「研究発表会、報告会、講演会等」、「教育、啓発、広報活動」、「災害調査・報告」の順に認知度が高い
- ✓ 土木関係者には「研究発表会」、「学術調査・研究」、「研究会・セミナー」の認知度が高い

【学会員】土木学会との関わり方



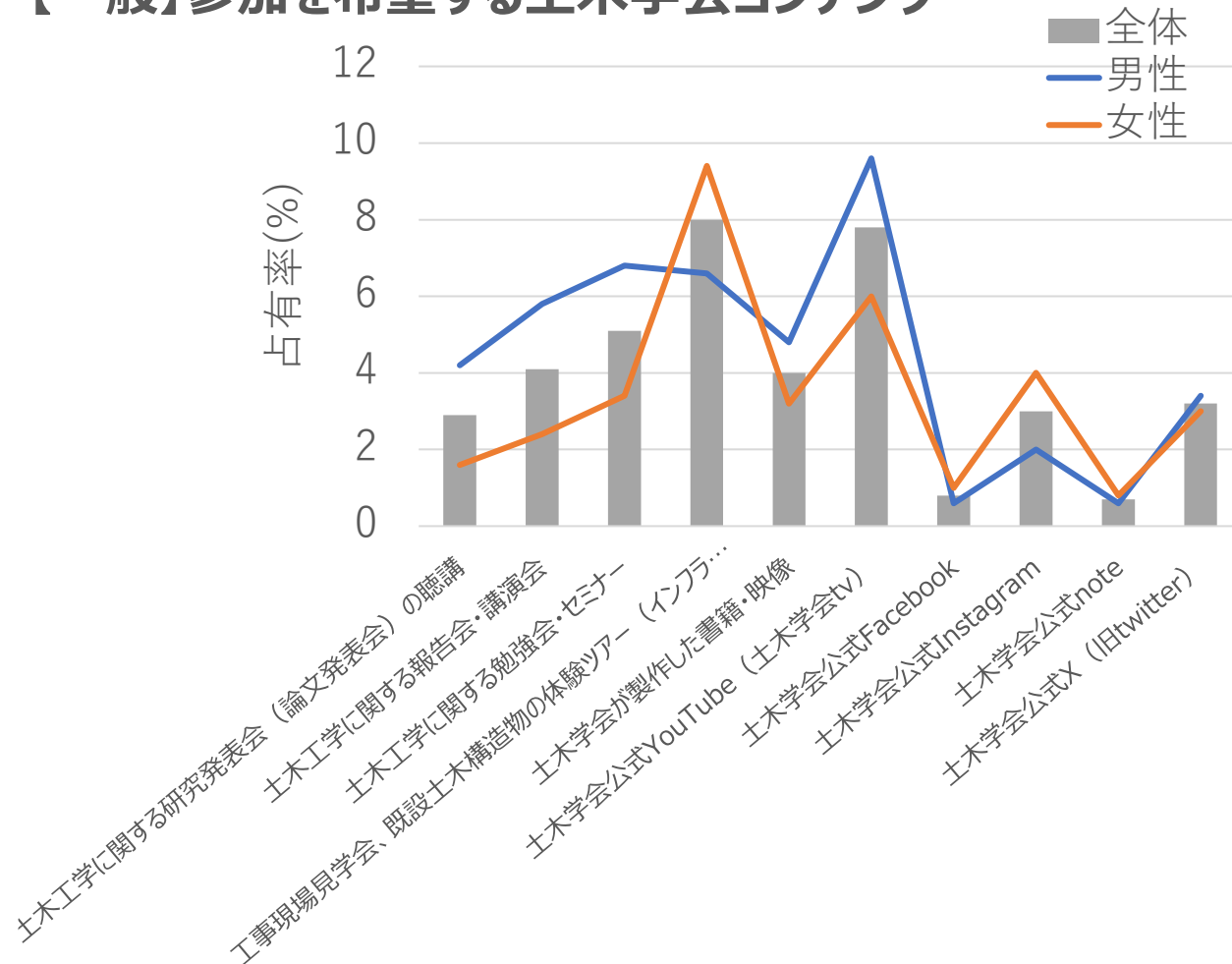
【学会員】土木学会活動への参画



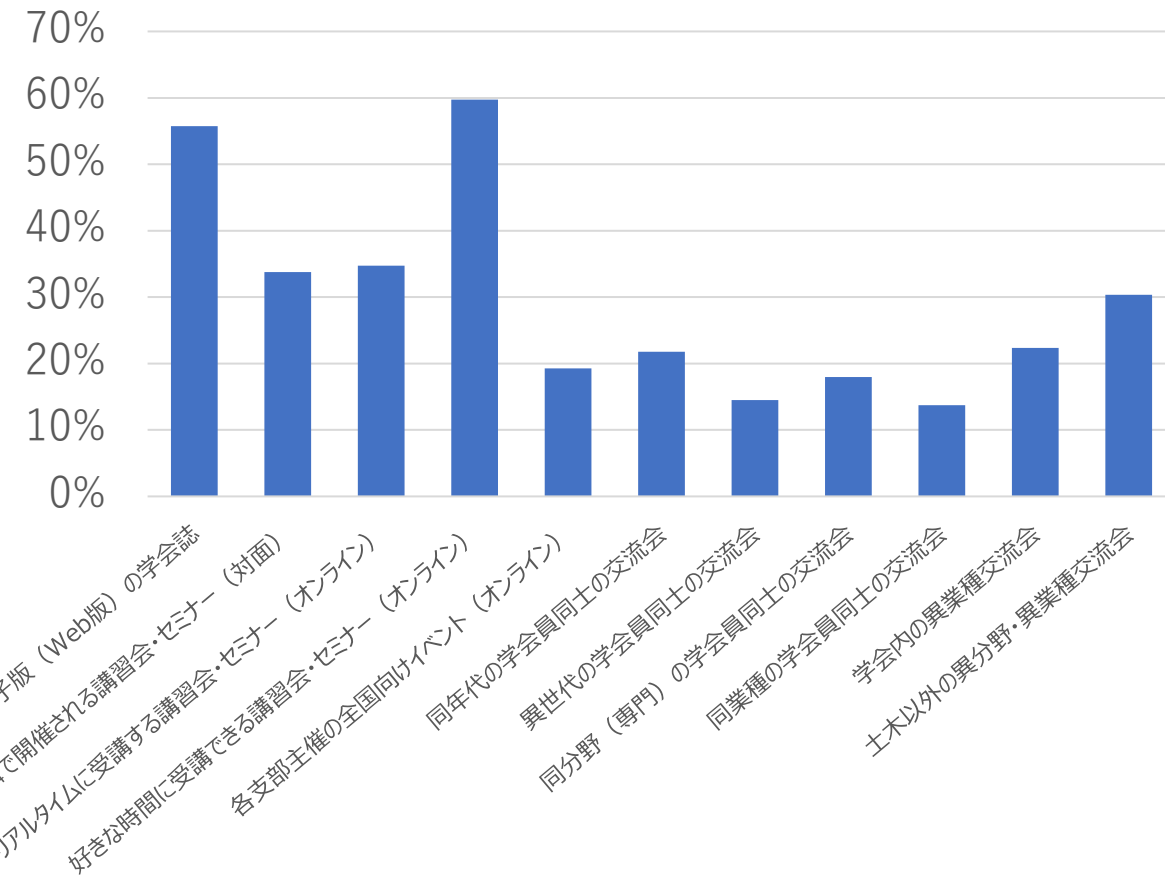
- ✓ 学会員の土木学会との関わりは、「学会誌閲覧」、「全国大会等で発表」、「全国大会等で聴講」、「講習会等受講」、「論文集閲覧」、「書籍購入」、「論文集投稿」の順
- ✓ 学会員で土木学会の活動に何らかに参加したことがある方は80.1%、企画運営側として何らかに関与したことがある方は40.9%。

土木学会活動への参加意向

【一般】参加を希望する土木学会コンテンツ

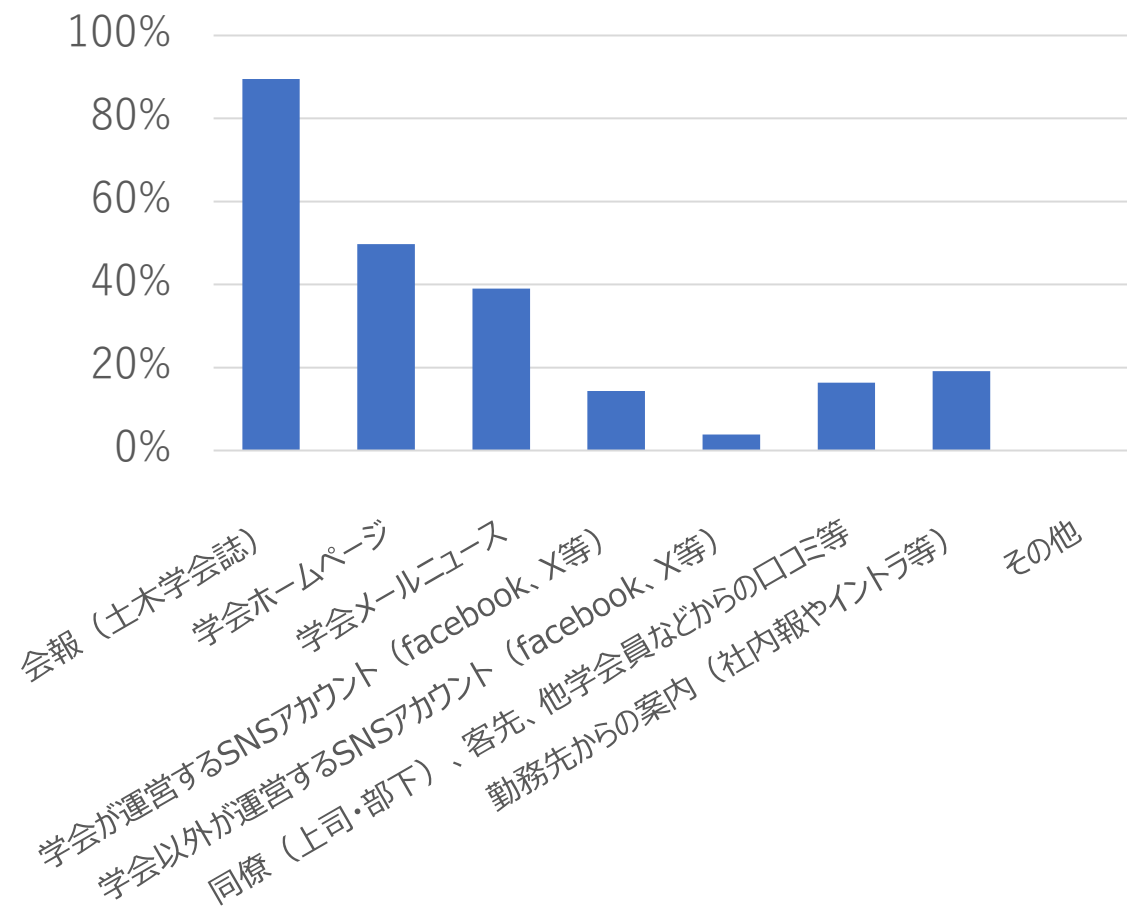


【学会員】未実施の学会活動への参加意向

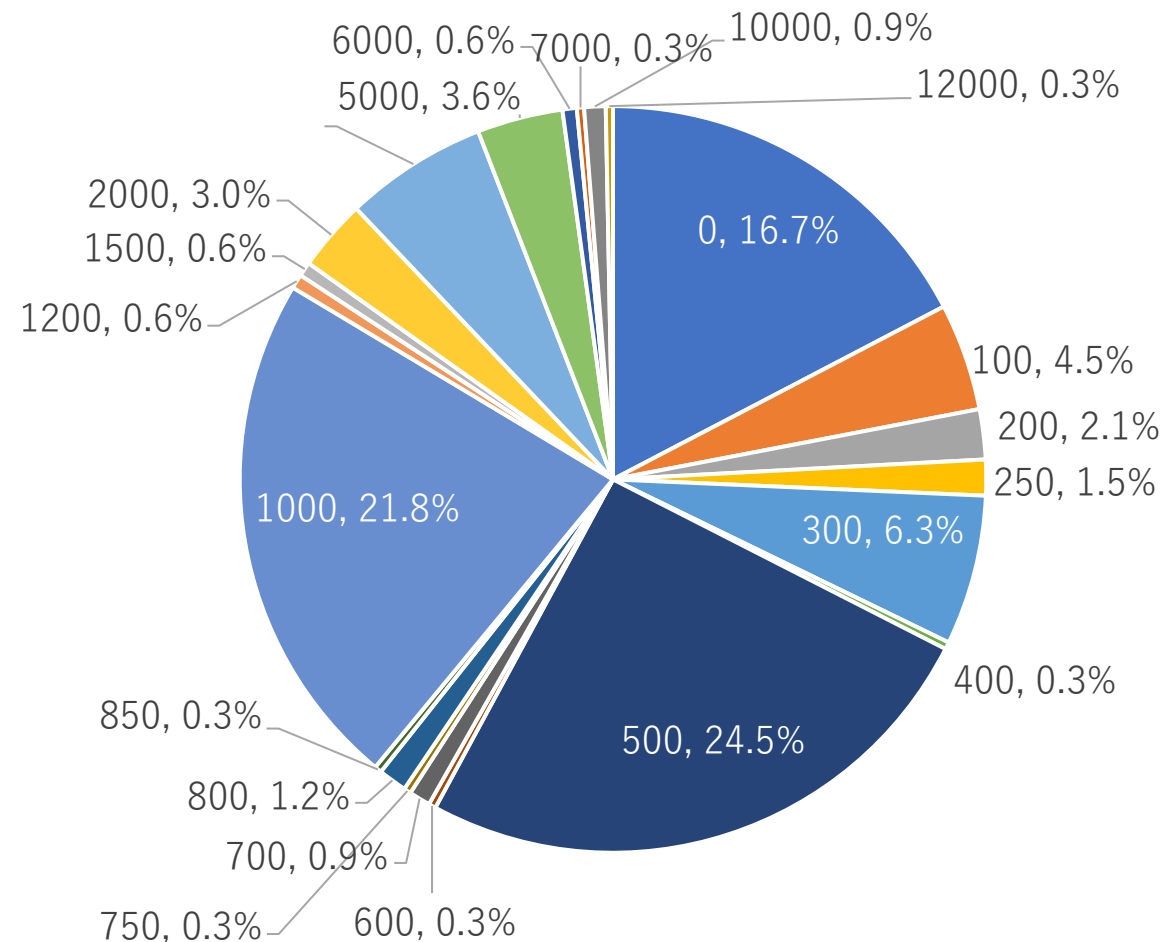


- ✓ 一般には「**現場見学会・体験**」、「**公式YouTube**」、「**勉強会・セミナー**」の参加希望が高いが、いずれも回答総数の10%未満
- ✓ 学会員は「**好きな時間に受講できるオンライン講習会**」、「**電子版学会誌**」の希望者が過半数

【学会員】土木学会活動の情報入手経路



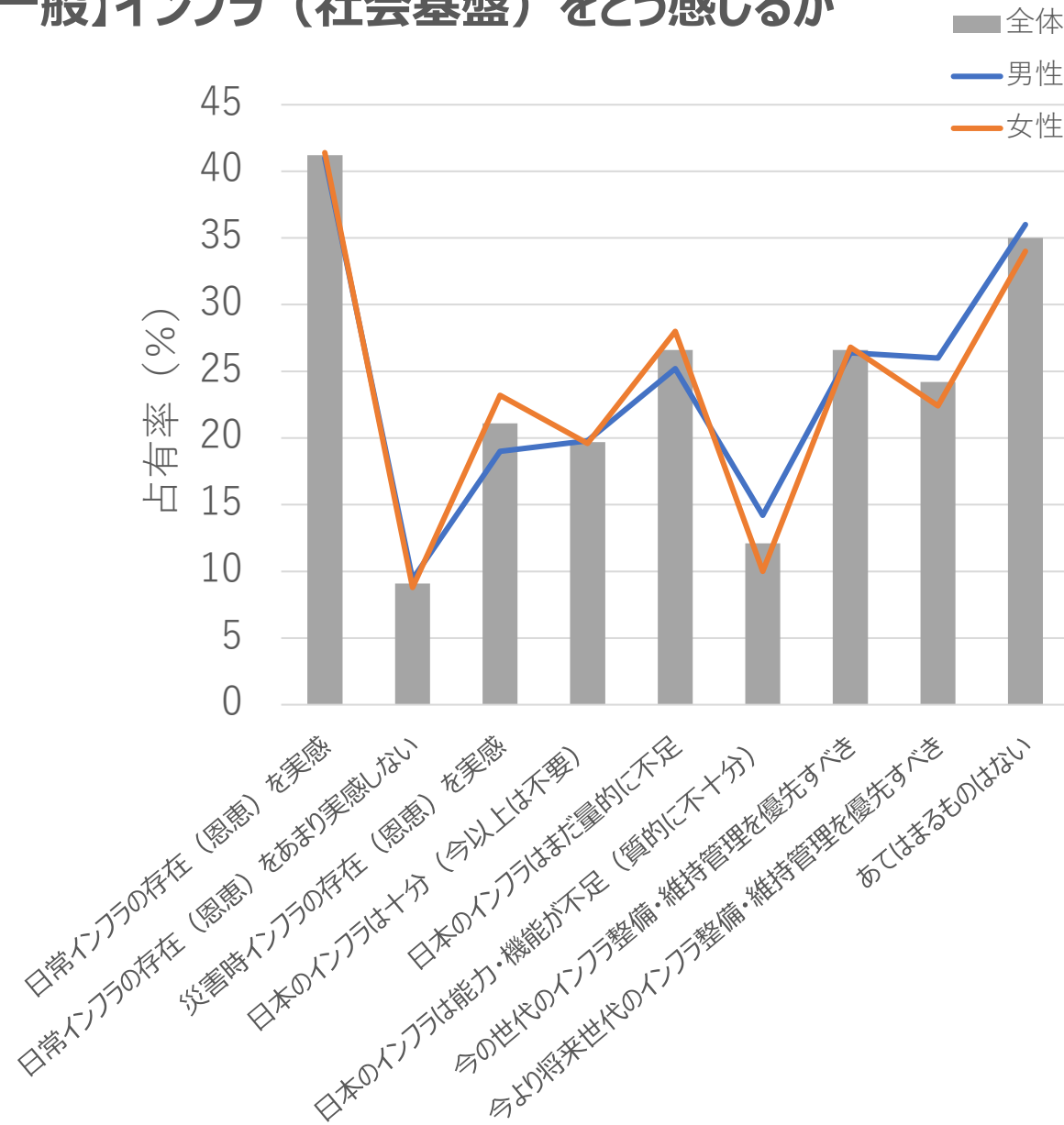
【学会員以外関係者】会費支払意向 (円/月)



- ✓ 学会員の情報入手経路は学会誌が最も多い
- ✓ 土木学会員でない土木・建築関係者が土木学会に入会する場合、会費支払意志は、500円／月が最も多く、次に現行会費水準である1,000円／月が続く結果となった

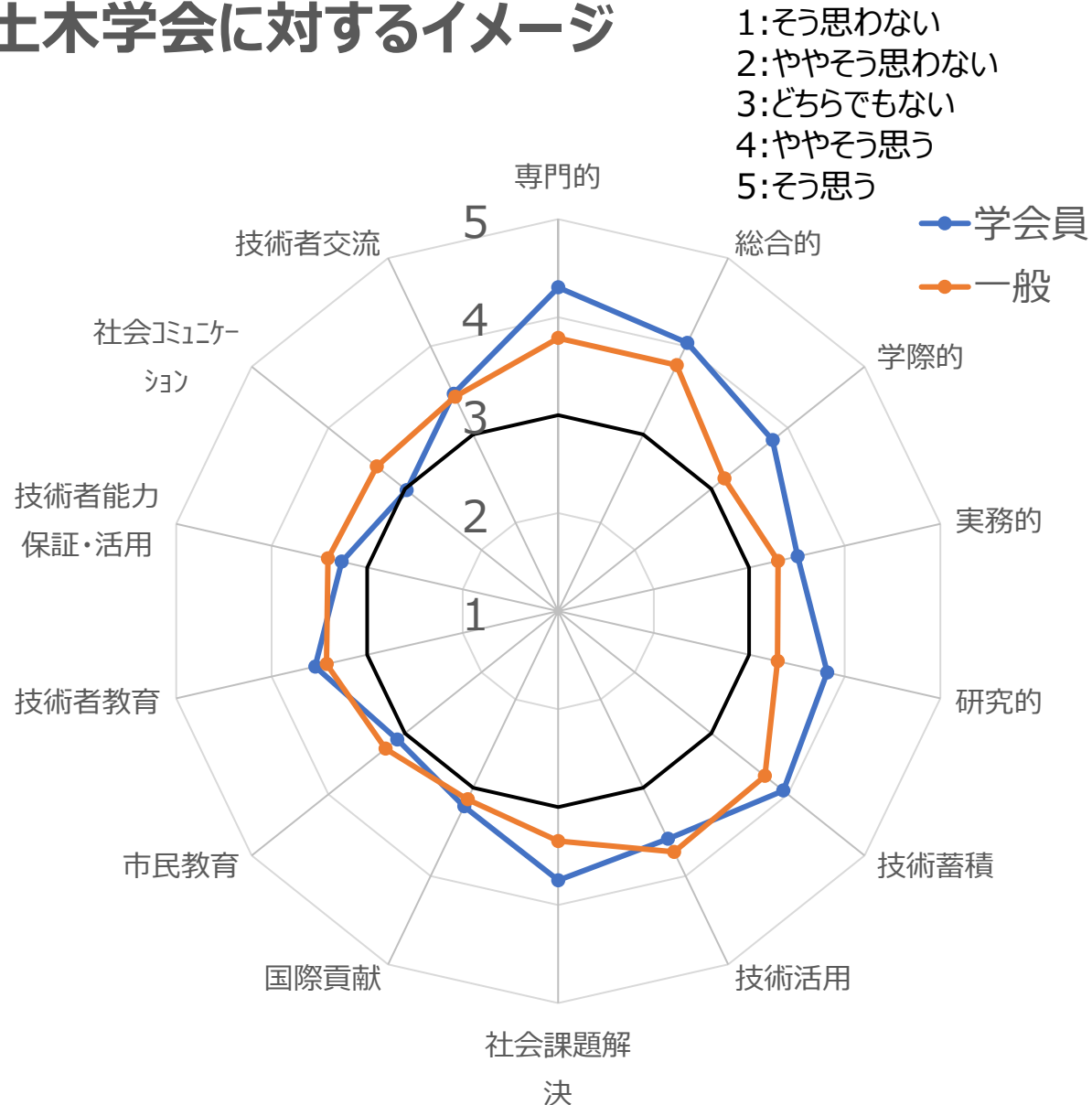
インフラ（社会基盤）に対する感覚

【一般】インフラ（社会基盤）をどう感じるか



- ✓インフラ（社会基盤）について、日常の生活または災害時に「存在（恩恵）を実感する」人に比べ、「日常の生活では存在（恩恵）を感じていない」という人は少ない。
- ✓「量的に不足」と感じる人がいる一方で、「十分整備されている」と感じる人もいる。一方で「質的に不十分」と感じる人は少ない。
- ✓「今の世代に必要なインフラ整備・維持管理を優先すべき」と感じる人と、「将来世代に必要なインフラ整備・維持管理を優先すべき」と感じる人は同程度。

土木学会に対するイメージ



✓学会員等が抱く土木学会のイメージは、「専門的」、「総合的」、「研究的」、「社会的課題への取組」、「技術・知識の蓄積」について高く、「国際貢献」、「市民の学習、学校教育」、「技術者能力保証・活用」、「社会とのコミュニケーション」について低い。

✓一般が抱く土木学会のイメージは、「専門的」、「知識や技術の活用」、「知識や技術の蓄積」について高く、「国際貢献」、「総合的」、「学際的」について低い。

✓学会員等が抱く土木学会のイメージは、一般が抱く土木学会のイメージに比べて「専門的」、「総合的」、「学際的」、「研究的」、「社会的課題解決」について高い一方で、「社会とのコミュニケーション」について低い。

■ネガティブなイメージ（**太字**については一般にも同様の認識がある。）

- **固い・堅い:** **学会のイメージが堅苦しいと感じる意見が多い。**
- **土木業界の中心:** 土木業界で働く人が多く所属し、業界の総本山と見なされている。
- **高齢者の技術集団:** 高齢者が多く所属している技術集団とのイメージがある。
- **会費が高い:** 会費が高いと感じる意見がある。
- **活動内容が不明確:** 具体的に何をしているのかわからない、ピンとこないという意見がある。

■ポジティブなイメージ（**太字**については一般にも同様の認識がある。）

- **学術的:** **専門家が専門的見地から議論し、信頼できる正確な情報を持っている。**
- **技術者の集まり:** **技術者が集まり、技術や知識の普及・発展に努めている。**
- **学会発表の場:** **論文発表や研究発表会を行う場として認識されている。**
- **国家インフラの研究:** 国家インフラ全般に関する学術研究を行っている。
- **広報活動:** 土木・建設業界の広報活動や子ども向けの現場見学会などを実施している。

■「学会の知の体系化」

- ・ 技術士資格取得支援： 技術士資格取得のための支援を強化すること。
- ・ セミナー・講習会の柔軟化： セミナーや講習会を好きな時間に受講できるようにすること。

■「学会の発信、外部との交流」

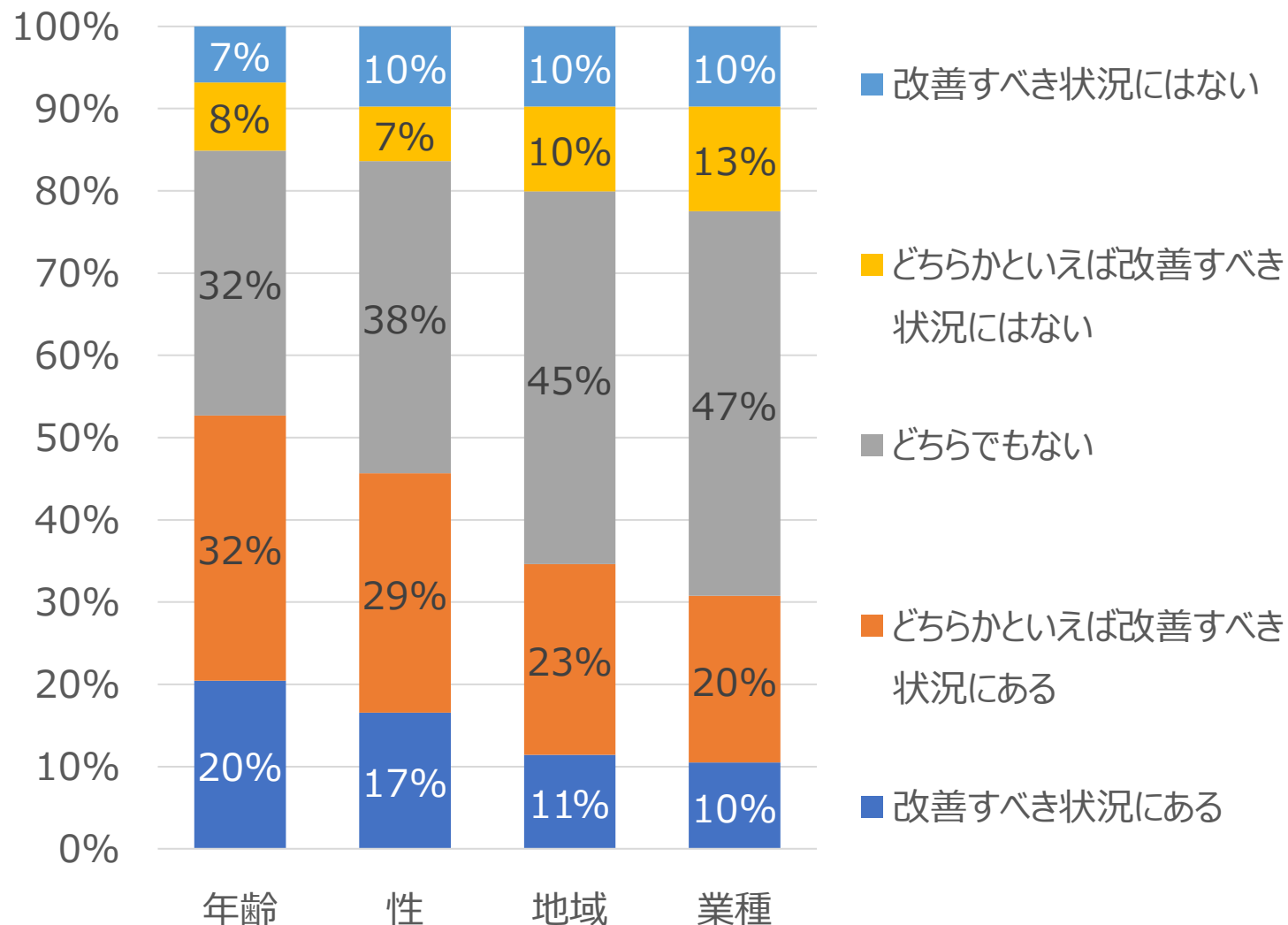
- ・ 広報活動の強化： 土木の魅力をもっと積極的に世の中に発信・アピールすること。
- ・ 学会誌の電子化： 学会誌を電子化し、紙媒体の送付を希望者のみにすること。
- ・ 異業種交流の促進： 他業種との交流を深め、土木学会がリードすること。
- ・ 現場見学会の充実： 一般向けの現場見学会を充実させること。

■「学会の体制、運営」

- ・ 会費の値下げ： 会費が高いと感じる意見が多く、値下げを希望する声が多い。
- ・ 若手技術者の参加促進： 若手の繋がり場を提供し、若手技術者の参加を促進すること。
- ・ 委員会活動の負担軽減： 委員会活動に参加する際の会社や個人の負担を軽減すること。
- ・ DXやICTの普及促進： DXやICTを活用した土木技術の普及促進に取り組むこと。

学会員が土木学会に期待すること②～DE&I～

【学会員】DE&Iの観点から改善の必要性



✓学会員等は土木学会のDE&Iに関して、「年齢」、「性」の観点から改善すべきとの意見が約半数

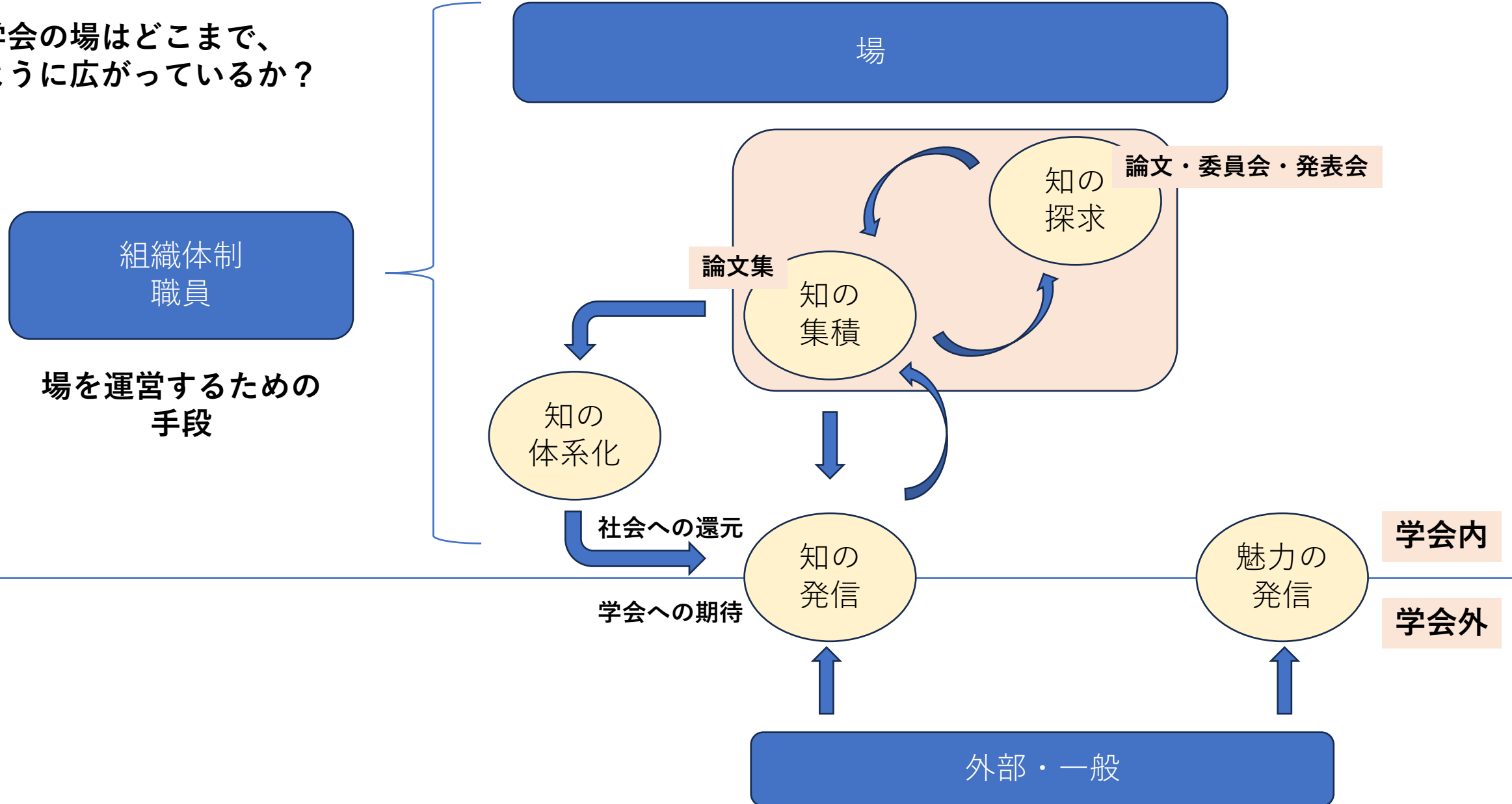
✓一方で、「地域」、「業種」の観点から改善すべきとの意見は約3分の1にとどまる

⑥現状分析WG内での議論まとめ

WG全体および4つのサブWGにおける議論（アンケート等結果を踏まえて）

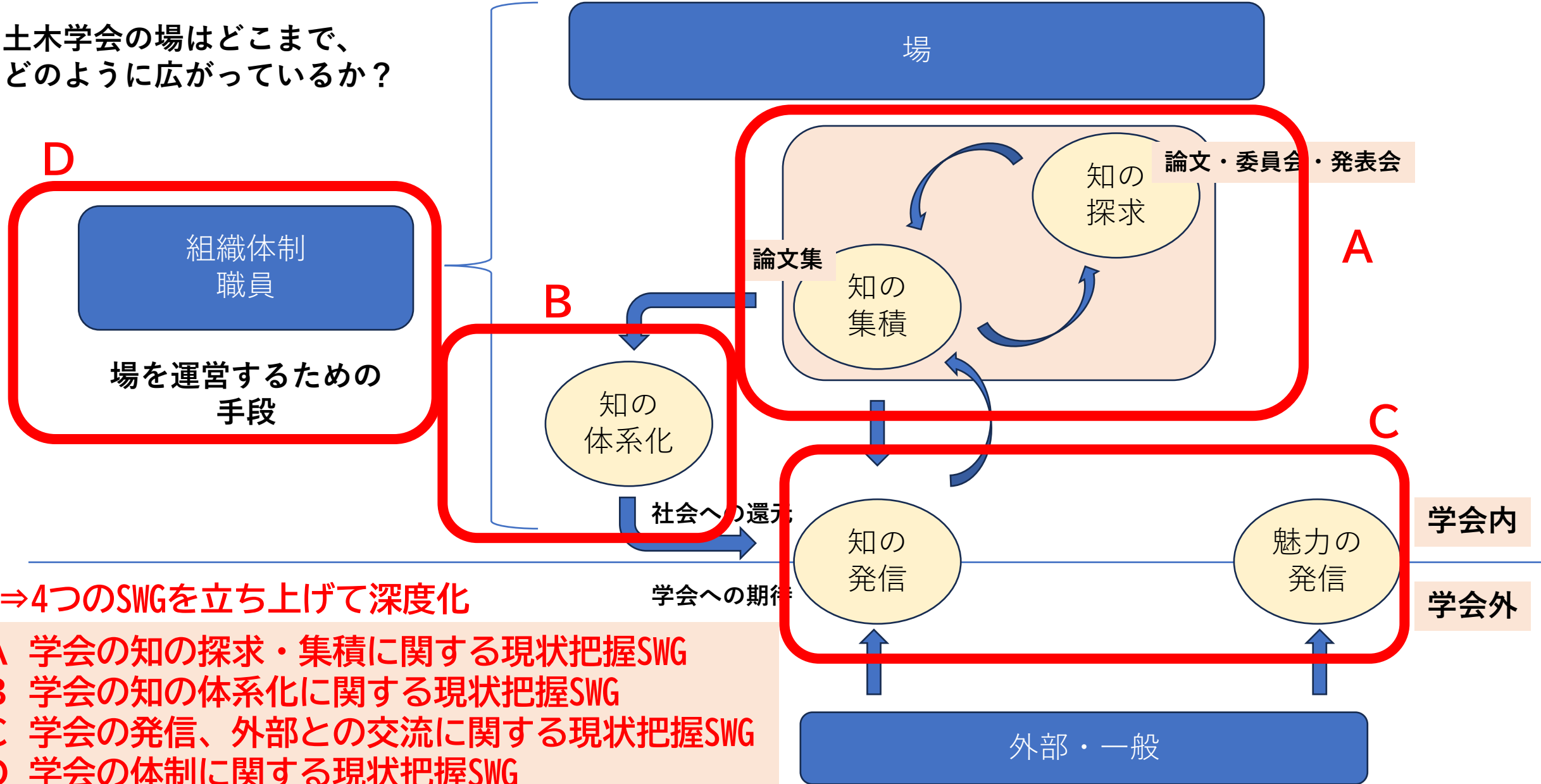
現状分析WG 取り組み体制 (SWGの設置)

土木学会の場はどこまで、
どのように広がっているか？



現状分析WG 取り組み体制 (SWGの設置)

土木学会の場はどこまで、
どのように広がっているか？



A 学会の知の探求・集積に関する現状把握SWG

清野 聡子	九州大学	(副査)(学)(支部)
秋山 成央	日本工営(株)	(事業者)
小柳 桂泉	JICA	(公共団体等)
嵩 直人	鹿島建設(株)	(リエゾン)

⇒学会の研究成果や研究活動、書籍の保存方法の現状を中心に整理

B 学会の知の体系化・集積に関する現状把握SWG

大原 美保	東京大学	(副査)(学)
本丸 哲也	NEXCO東日本	(事業者)
早川 哲史	国土交通省	(公共団体等)
吉見 雅行	産総研	(研究)
井上 雅志	(株)エイト日本技術開発	(リエゾン)

⇒学会の活動体系、組織数等の現状を中心に整理

C 学会の発信、外部との交流に関する現状把握SWG

加藤 隆	大成建設(株)	(副査)(事業者)
中井 健太郎	名古屋大学	(学)
矢島 良紀	土木研究所	(研究)
西里 雅範	沖縄県	(公共団体等)
小松 淳	日本工営ビジネスパートナーズ(株)	(リエゾン)
谷 ちとせ	土木学会関西支部	(支部)

⇒学会や学会員の情報発信方法や外部との交流方法の現状を中心に整理

D 学会の体制に関する現状把握SWG

清野 聡子	九州大学	(学)(支部)
谷 ちとせ	土木学会関西支部	(支部)
高野美和子	土木学会関東支部	(支部)
二瓶 貞洋	(公社)土木学会	(本部)
中島 敬介	(公社)土木学会	(本部)
小松 淳	日本工営ビジネスパートナーズ(株)	(リエゾン)
下大藺 浩	東日本旅客鉄道(株)	(事業者)
山後 宏樹	東日本旅客鉄道(株)	(事業者)

⇒本部、支部の事務局の体制や会員DB等システムの現状を中心に整理

各SWGにおいて、学会定款、過去のJSCE20XX、『Beyondコロナの日本創生と土木のビッグピクチャー（2022）』や『社会と土木の100年ビジョン（2014）』、今回実施した組織実態把握の資料をベースに現状把握、整理

A「知の探究・集積」に関して

- 会員が学会に集積した「知」の利活用ができない、成果が会員に還元されない
- プロジェクトの継続性の欠如
 - ・ 取り組みがプロジェクト単位で行われ、集積や活用が不足している。
- 過度に専門分化、硬直化した部門構成であり、イノベーティブな成果が生まれない
 - ・ 学会内部（本部内、本部・支部間）のコミュニケーション（連携・情報共有）が欠如・不足

【参考】日本の学術がおかれた状況（日本の国立大学や国立研究機関をめぐる構造的な問題）

- ・ 和文執筆は優先されない。
- ・ 英文、国際誌が推奨されている。
- ・ そのため、若手や中堅は 土木学会に提出する論文も、和文執筆を躊躇する。
- ・ その結果、実務関係（特に学者以外の日本人）が成果を読み解けない状況となっている。

→ 社会への学術成果の還元が不十分となる一因

しかし、土木分野は国の研究機関が、国民への還元として和文も評価しているため、土木学会は和文の学会誌が維持できている。（実際に和文の学術誌が消えかけている学協会もある。）

➤ 報告書の活用不足

- 災害調査等の報告書がまとめられるが、その後の活用が不十分。

➤ 専門分野間の連携不足

- 多様な専門分野が揃っているが、連携が弱く、体系的でない。
- 学会内部（本部内、本部・支部間）のコミュニケーション（連携・情報共有）が欠如・不足

➤ 会員向けと、非会員だが土木を必要とする人向け を意識してはどうか

- いろんな立場で関わる人が、必要に応じて土木学会を活用できるようにする。

【委員会活動】

- 委員会活動が蛸壺化しているとよく聞かれる。もう少し整理・縮小すべき。
- 委員会や小委員会、WGなどが多すぎる。本当に必要なものだけに絞ると良い。
- 似たような名前、難しい名前がついていてわかりにくい。同じような内容を複数の委員会で別々に行っているように感じる。
- まず委員会間の情報共有、意見交換などの取組みが必要ではないか。
- 「何のための」「誰のための」委員会活動か？をよく考えて整理しないと、学会活動自体がただ小さくなるだけの結果になりかねない。
- もう少しみんなが主体的に、楽しく取り組めるように留意すべき。

【広報活動】

- 土木広報アクションプラン等は策定され、戦略的な広報活動は行われているが、土木学会全体で活動しているとまでは浸透しきれていない
- 土木広報は、広報センターの仕事だけでなく、もっと全体が「自分事」として取り組むべき
- 土木業界で将来活躍してくれる若者・女性や、他業者から参入する人を増やすための広報活動が必要
- そもそも学会活動を世間に広く周知する必要があるのかも含め、費用対効果で広報の在り方を考えるべき

➤土木学会等の広報戦略

2013 年：[土木広報アクションプラン ～「伝える」から「伝わる」へ～](#)

これを契機に「土木広報センター」「広報戦略会議」「土木広報大賞」等が創設

2013 年：[「建設産業の魅力を発信するためのアクションプラン」](#)（国交省）

2023 年：[アクションプラン策定から10 年を記念した研究討論会](#)を開催

2023 年度：会長特別プロジェクト[「土木の魅力向上プロジェクト」](#)

【国際交流活動】

- 国際貢献については、国際センター中心に取り組んでいるが、土木学会全体の取り組みとして浸透しきれていないのではないかな。
- 限られた人のためだけにあるのではなく、もう少し学会全体を巻き込んだ取り組みにすべき。そういう意味では、さらなる啓蒙活動が必要。
- 国際的なWebinarとか、日本のインフラや土木遺産紹介動画とか、積極的に情報発信してもよいのではないかな。
- 国際支部の活動がどんなことを行っているのか分かりにくい、組織立っていない

【地方・支部活動】

- 全国大会のノウハウ継承不足（各支部持ち回りで行われる全国大会のノウハウが次回以降に活かされていない）

【学会の発信全般】

- 土木学会は社会や所属組織への訴求力が低い。学会外から敷居が高い存在。
- 学会が会員へ展開する場は多くあるが、会員が発信する場が少ない
- 若手、女性などの活躍できる場が多くないことが課題。もっと若手等の参画を促す取り組みが必要。

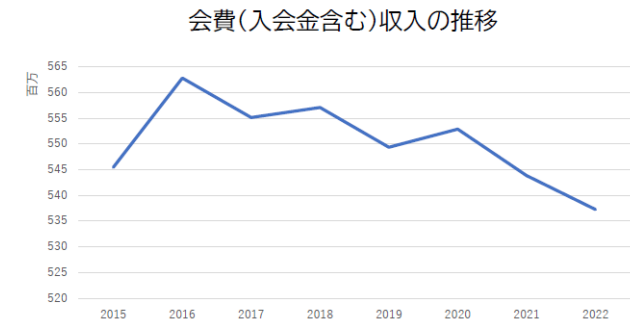
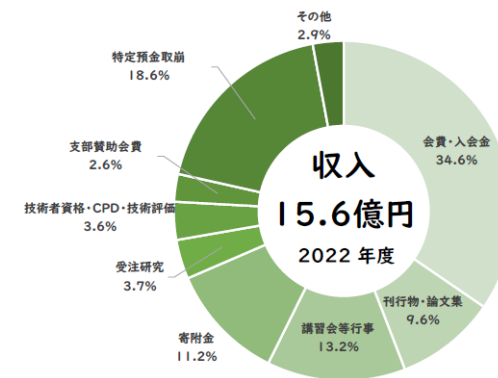
【JSCE2025への反映】

- 限られた予算の中、業務の合間に、少ない時間で手弁当で活動している実態がある。もう少し積極的に活動に参画してもらえるようなインセンティブが必要なのでは。
- 広報活動や国際貢献活動を戦略的に取り組む組織は既にあるので、あとは土木学会全体がどうすれば「自分ごと」として取り組むようになるか？ということが重要。
- 地方支部の活性化や、地域建設業、地方自治体など、地域コミュニティとどう連携するか？という課題に取り組むべき
- 身の丈に合った持続性の高い学会活動とすべき

➤ 資金面の課題

- 会費収入が減少傾向にあり、活動数に対して資金が不足している。
 - 会費は必ずしも安くない
- 活動拡大のみでは持続的でなく、スクラップ&ビルド が必要
- クラウドファンディングの実施困難
 - 企画・運営に詳しい人材が不足しているため、クラウドファンディングが実施できない。
 - 学会への寄付（拡大）も十分できていない

【学会の体制に関する現状把握】（資金面について）



- ✓ 収入総額はここ数年で大きく変わらないが、会費収入でみると減少傾向
- ✓ 資金面に対して活動数が多いという意見が多くある(アンケート自由回答)
- ✓ 委員等の活動の負担が大きく無償では限界を感じるという意見も多い(アンケート自由回答)
- ✓ 委員会を増やす場合は、組織を見直すことを義務づけては(アンケート自由回答)
- ✓ クラウドファンディングを行いたい、が、企画・運営に詳しい人がいなくできない(アンケート自由回答)
- ✓ 予算の執行状況をよりオープンに(アンケート自由回答)

➤委員の負担

- 委員等の活動負担が大きく、ボランティア（無償）では限界がある。
- 学会活動は会員のボランティアに基づく活動だが、一部の会員に集中（多様性の欠如）

➤会員メリットの不足

- 学会活動が業務においてメリットと感じられる取り組みが少ない。
- 学会員個人の活動履歴が把握できない

➤システムの非効率性

- 会員システム、委員会運営システム、CPDプログラムシステム、書籍販売システムが独立しており、一元管理が困難。
- システムが本部、支部でそれぞれあり、二重系になっている
- そもそも学会の各種活動の記録がシステムに残らない（残されない）

• 事務局（職員の資質）に依存する委員会活動支援

- 事務局の人員不足

➤本部・支部の関係

- 支部組織は、会員に最も近い組織であり、支部が担っている任務は大きいと考える。
- 支部組織は、合理化して縮小、もっと拡充、大方針はどちらを前提で考えるべきか？
→ 人員を減らすのではなく、無駄な業務の削減やデジタル化などの業務改善
- 土木学会の委員会数等が肥大化しており、支部事務局の向く方向性が広すぎる。
- システムが本部、支部でそれぞれあり、二重系になっているので非効率的であり、統一すべき
- 全国大会が各支部持ち回りで行われ、支部における全国大会の準備の負担が大きい
→ 各年度のノウハウを次回以降に活かす仕組みの構築が求められる
→ 各支部が連携してノウハウを共有することは必須と考える。
- 本部委員会がそれぞれ別々に直接支部に個別の取りまとめやアンケート等の依頼が行われている
→ 情報の共有などによって負担軽減が求められる
→ 土木学会の会員や事務局で情報共有できるグループウェア（Teams等）があっても良いのではないか。
- 2024会長特別PJで、「学会DXプロジェクト」をやっているなので、その問題意識をJSCE2025に盛り込むのが良い。

⑥現状分析WG提言まとめ

課題解決の方向性

【土木学会において創造する価値の方向性に関して】

- ① **【地域課題】各地域の課題に対する取り組みの強化が必要。このため、本部各委員会が実施する活動の地方での開催（支部行事との併催等）、各支部が実施する活動のオープン化（他支部等からのアクセス確保）等について、検討が必要。**

- ✓各支部や地域における活動の強化を求める意見がある。
- ✓地方支部の活性化や、地域建設業、地方自治体など、地域コミュニティとどう連携するかという課題に取り組むべきとの意見がある。

- ② **【国際】土木学会の国際交流・国際貢献について、当面の方向性に関する議論が必要。**

また、国際センターのあり方や活動内容について、見直しや拡充の検討・実施が必要。

- ✓国際に関して、JSCE2020の中期重点目標とされたが具体的なプロジェクトは設定されず
- ✓土木学会が国際貢献をする組織とのイメージはあまりもたれていないが、会員からは国際交流の促進や国際協力の強化について意見がある。

- ③ **【社会コミュニケーション】土木学会の社会一般とのコミュニケーションのあり方について、当面の方向性に関する議論が必要。**
また、社会・コミュニケーション部門のあり方や活動内容について見直しや拡充の検討が必要。
✓土木学会が一般向けに実施する「現場見学会・体験」や「勉強会・セミナー」等は希望が比較的高く、会員からも土木の魅力をもっと積極的に世の中に発信しアピールすべきとの意見がある。
- ④ **【技術者教育】土木学会が実施する技術者教育のあり方について、当面の方向性に関する議論が必要。**
また、技術推進機構のあり方や活動内容について、見直しや拡充の検討が必要。
なお、土木学会員以外が教育プログラムを活用する場合の費用負担のあり方については持続的なサービス提供の観点から検討が必要。
✓技術者の育成プログラム、教育機関と連携した教育プログラムの拡充を求める意見がある。
✓また、技術者の倫理教育やCPD（継続教育）、異業種交流などについて土木学会のサポートを求める意見もある。

⑤ 【個別の社会課題】土木学会がJSCE2025で取り組む具体的テーマに「環境」、「災害」等を取り上げることについて検討が必要。

- ✓土木学会が行う調査・研究や災害調査・報告会については一般の認知度は高い。
- ✓また、会員からは土木学会が取り組むべき知的（技術的）分野として「環境への配慮」、「災害対応力向上」を挙げる意見があるほか、新しい技術標準の制定を求める意見もある。

【土木学会における価値創造の方法や仕組みに関して】

⑥ 【資金確保】今後の学会活動に投入する資金（学会予算）を大幅に増やすことは難しい状況であり、新たな学会活動に取り組む場合は、同時に既存活動をスクラップする仕組みや新たな活動資金調達を導入する仕組みについて検討が必要。

- ✓人口減少下で会員的大幅な増強は困難と想定され、むしろ減少する可能性が高い。
- ✓一方で学会員には会費が高いという意見や会費減額を希望する意見がある。
- ✓非学会員が希望する会費負担額は現行水準以下の希望が多数。
- ✓活動資金調達の多様化を求める意見もある。

⑦ **【活動への参画方法】学会活動（運営側）に参画する会員の割合を増やす検討が必要。また、土木関係者向けの学会活動への参加に受益者負担（参加費徴収、学会員資格を必要条件とする等）について検討が必要。**

- ✓学会活動の運営側として、回答した学会員等の約4割が関与した経験があり、学会活動は会員のボランティアにより成立している実態がある。
- ✓一方で会員（企業・個人）の負担軽減を求める声がある。

⑧ **【活動の透明化】学会各組織が行うすべての活動について、学会として計画及び実績に関する記録を残し、その情報に会員が容易にアクセスできる環境の構築（システム化等）について検討が必要。
また、学会内各組織のメンバー選定における公募制の割合を高めることについて検討が必要。**

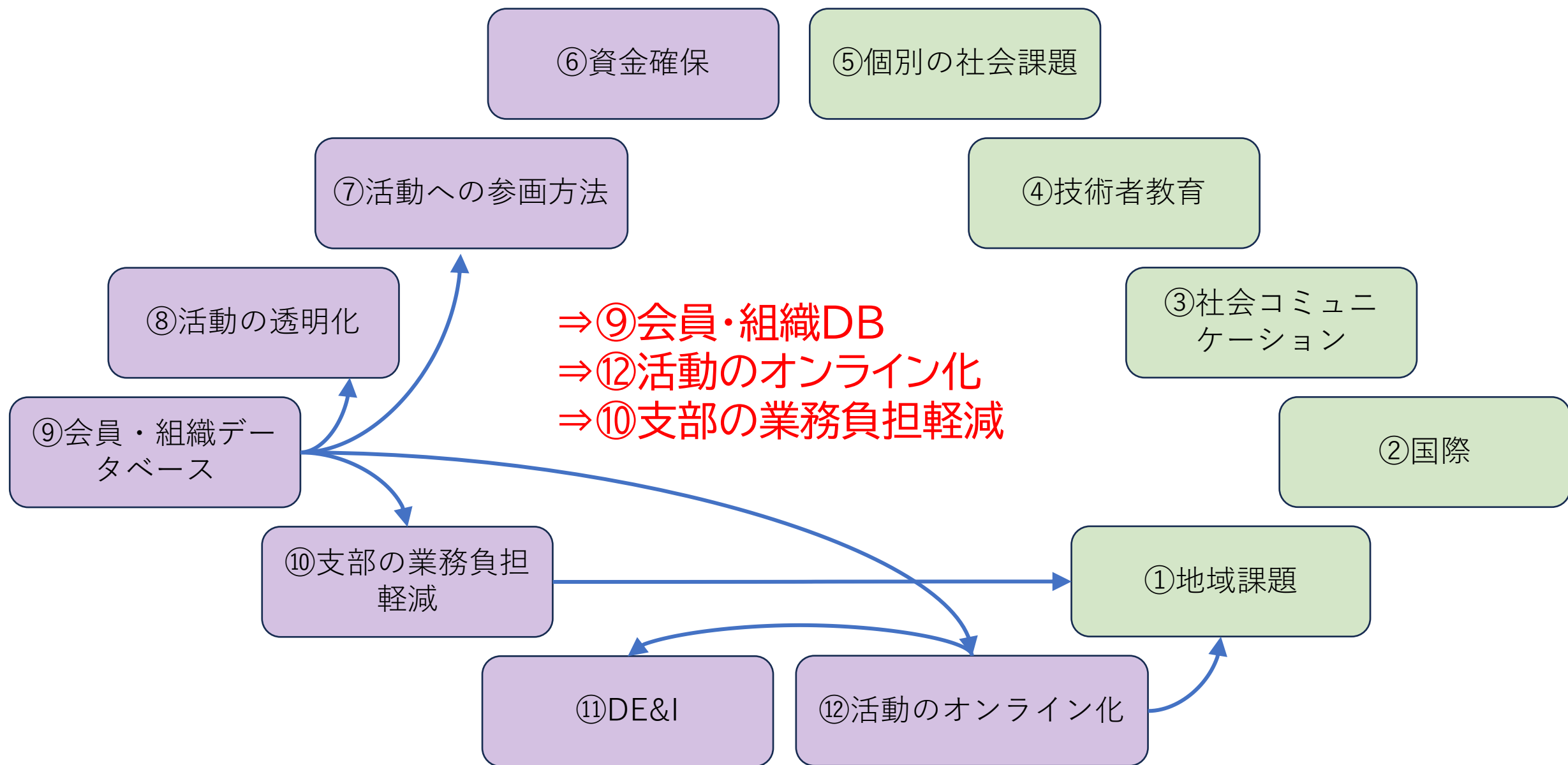
- ✓学会の活動内容が不明確で、学会運営の情報公開、学会の意思決定や運営の透明性向上や会員の意見反映に関する意見がある。
- ✓また、各組織のメンバー選定は大半が現委員の指名によるもので、公募が行われている例は少ない。

- ⑨ **【会員・組織データベース】**学会全体（本部・支部共通）で会員データベースを構築し、会員ごとの会費納入履歴や学会活動への参加履歴、学会が提供するサービスの活用履歴等を記録するシステムについて検討・導入が必要。
また、学会（本部・支部）各組織の活動について、学会員が容易にその情報を知得し参画できる仕組みの構築についても検討・導入が必要。
- ✓デジタル化の推進、組織や業務プロセスの効率化、技術革新の促進について意見がある。
 - ✓また、オンラインを活用した広報活動や会員サービスの充実についても意見がある。
- ⑩ **【支部の業務負担軽減】**土木学会各支部は事務局規模も小さいことから、本部と支部で個別に整備されているシステムの統合など、各支部の業務負担を軽減する仕組みの検討・導入が必要。また、各活動の開催に当たっては、全国大会の開催や一般向けの見学会等のイベントも含め、支部と本部の役割分担について検討が必要。
- ✓本部委員会から支部に個別の取りまとめやアンケート等の依頼が行われ無駄が多い、システムが本部、支部でそれぞれあり二重系になっているので非効率的であり統一すべき、との意見がある。
 - ✓支部における全国大会の準備の負担が大きく、各年度のノウハウを次回以降に活かす仕組みの構築、各支部が連携してノウハウを共有等が必要との意見がある。

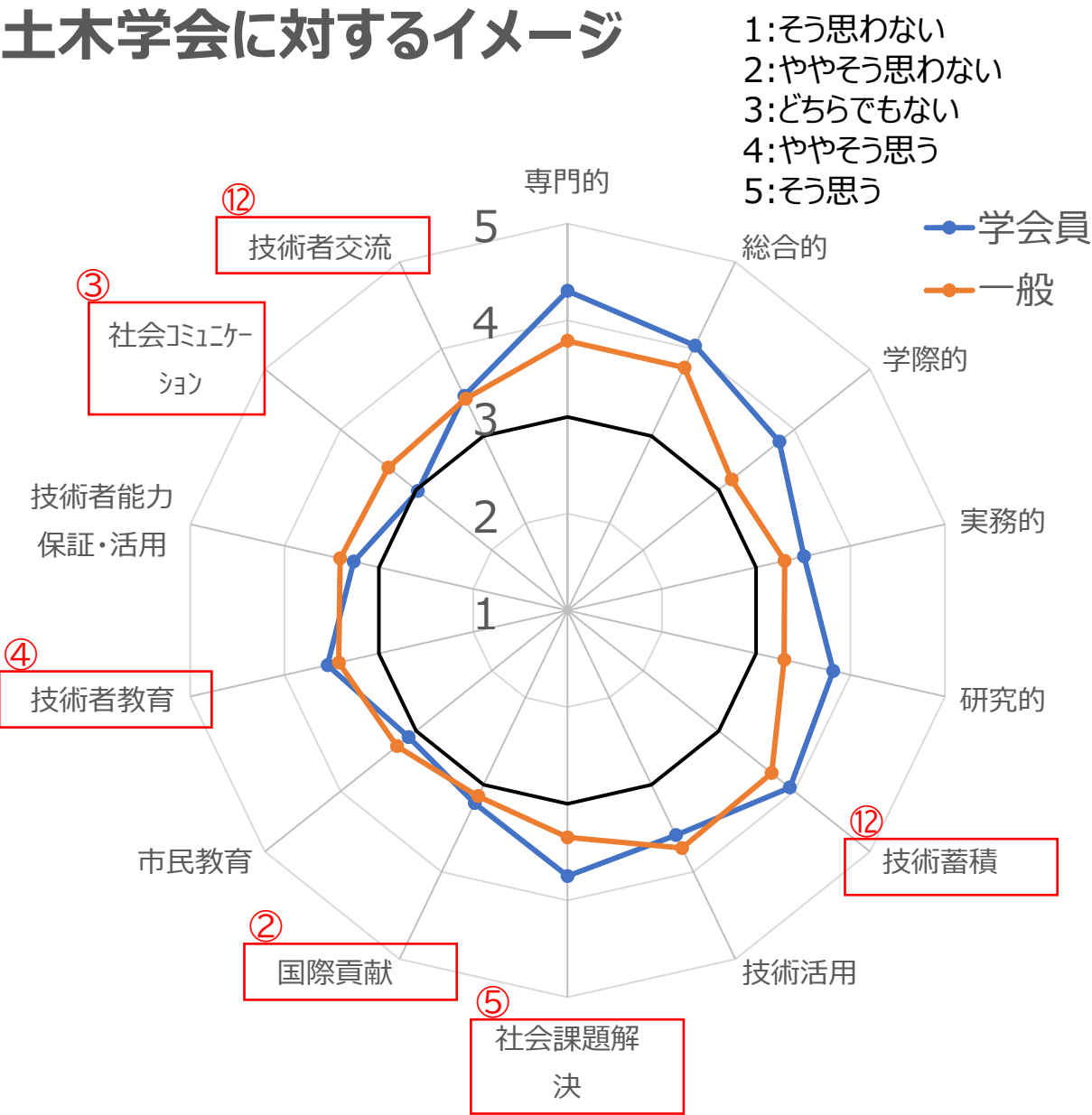
- ⑪ **【DE&I】土木学会の運営に女性や若手会員を一定程度参画させる仕組みの検討が必要。また、学会活動におけるDE&Iの促進、女性や若手会員が中心となって企画・運営する行事等の拡充が必要。**
- ✓土木学会は高齢者が多く所属する技術集団とのイメージがあり、女性や若手技術者の参画を求める意見がある。
- ⑫ **【活動のオンライン化】土木学会ホームページのリニューアルやアーカイブの整備・拡充等により、土木学会が所蔵する図書、資料や報告書、学会誌等にオンラインでアクセスできる環境の整備について検討が必要。**
- 加えて、学会活動に容易に活用できる会員向けSNSサービス(掲示板、グループチャット、ファイル共有、オンライン会議機能等)の提供について検討・導入が必要。
- ✓技術情報や研究成果の共有、学会誌や学会活動へのオンラインアクセスに関する意見がある
 - ✓オンラインも活用した会員間のネットワーキングや交流促進について意見がある。



課題の優先順位（現状分析WG提言の相互連関から見た優先度）



土木学会に対するイメージ



項目	学会員	一般
②国際	3.20	3.10
③社会とのコミュニケーション	3.00	3.37
④技術者教育	3.54	3.43
⑤社会課題(環境・災害)	3.75	3.35
⑪DE&I	2.69	—
⑫技術蓄積	3.94	3.70
⑫技術者交流	3.46	3.43

平均値が低く、かつ学会員よりも一般が低い(≡期待に応えられていない)もの

- ⇒ ②国際
- ⇒ ⑫活動のオンライン化(技術者交流)
- ⇒ ③社会とのコミュニケーション
- ⇒ ④技術者教育
- ⇒ ⑤個別の社会課題(環境、災害)
- ⇒ ⑫活動のオンライン化(技術情報・蓄積)
- ⇒ ⑪DE&I

※DE&Iは学会員のみ質問

組織運営アンケートの自由回答から、土木学会として何を優先的にやるべきという意見が多いか、定量的に抽出

項目	意見数
⑥資金確保・既存活動の見直し	70
⑦活動参画方法	25
⑧活動の透明化	18
⑨会員・組織DB	7
⑩支部の業務負担軽減	5

⇒⑥資金確保・既存活動の見直し
⇒⑦活動参画方法
⇒⑧活動の透明化
⇒⑨会員・組織DB
⇒⑩支部の業務負担軽減

- 学会の活動を支える価値創造の方法や仕組みとしては、
 - ⑨ **会員・組織データベースの構築**
 - ⑩ **支部の業務負担軽減（本部と支部で個別整備されたシステムの統合）**
 - ⑫ **活動のオンライン化（会員向けSNSサービスの導入）**
 - ⑪ **DE&I**の面で現行からの見直しに取り組むことが求められる。
- 学会が生み出す価値の内容としては、
 - ② **国際**
 - ③ **社会コミュニケーション**の面でさらなるアウトプットの向上に取り組むことが求められる。